

**NETIMPRESS**

Network Compatible In-circuit Flash Microm Programmer for Embedded Smart Systems

# ***NETIMPRESS next***

FLASH MICROM PROGRAMMER

Instruction Manual

DTS INSIGHT CORPORATION

## INSTRUCTION MANUAL

No.M2383AH-05

**改訂履歴**

版	発行日付	変更内容
第 1 版	2013.02.04	新規発行
第 2 版	2013.04.09	誤記修正
第 3 版	2015.07.17	誤記修正
第 4 版	2016.06.28	AZ403 の項目追加
第 5 版	2017.04.01	バーコードリーダー動作モード変更 使用不可能文字追加

**<ご注意>**

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容については、改良のため予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容について、ご不審な点やお気づきの点がありましたら、ご連絡下さい。
- (4) 本製品を運用した結果の内容の影響については、(3)項にかかわらず、責任を負いかねますのでご了承下さい。

© 2013 DTS INSIGHT CORPORATION. All rights reserved.

Printed in Japan

## MegaNETIMPRESS/C”arNETIMPRESS シリーズとの互換性について

NETIMPRESS next は MegaNETIMPRESS/C”arNETIMPRESS シリーズと互換性があります。  
MegaNETIMPRESS/C”arNETIMPRESS シリーズ用コントロールモジュールを、そのままご使用になれます。

※従来製品では TVpp 出力に対応していましたが、NETIMPRESS next ではプログラム用電圧出力制御信号の出力に変更しております。

## 目 次

1.	概要・特長 .....	11
2.	一般注意事項 .....	12
3.	各部名称と機能 .....	13
4.	NETIMPRESS next システム構成 .....	18
4.1.	周辺機器との接続図 .....	18
4.2.	各構成の説明 .....	20
4.2.1.	イーサネット環境 .....	20
4.2.2.	ターゲットシステム .....	21
4.2.3.	バーコード環境 .....	25
4.2.4.	Digital I/O の接続／使用例 .....	39
4.3.	その他 (NETIMPRESS next で追加された機能) .....	43
4.3.1.	キーロック機能 .....	43
4.3.2.	ログ機能 .....	44
4.3.3.	時計機能 (RTC) .....	46
5.	コマンド一覧 .....	47
5.1.	ファンクション一覧表 .....	47
5.2.	ファイル操作 .....	49
5.2.1.	ファイル呼出し (File Load) .....	49
5.2.2.	ファイル書き込み (File Save) .....	50
5.2.3.	ファイル消去 (File Purge) .....	51
5.2.4.	カレントファイル表示 (Function F4) .....	52
5.2.5.	転送アドレス設定 (Function F5) .....	54
5.2.6.	全ファイル削除 (Function F7) .....	56
5.2.7.	クイックフォーマット (Function FA) .....	57
5.2.8.	通常フォーマット (Function FC) .....	58
5.3.	バッファメモリ編集 .....	59
5.3.1.	バッファメモリ内容の変更 (EDIT) .....	59
5.3.2.	バッファメモリ内容の変更 (Block Store) .....	60
5.3.3.	バッファメモリの初期化 (Buffer Clear) .....	62
5.3.4.	変更データ検索 (Modified Bit Search) .....	63
5.3.5.	サム値表示 (Function 93) .....	64
5.3.6.	YSM File Check (Function 98) .....	65
5.4.	パラメータ設定 .....	66
5.4.1.	実行アドレス設定 (Function 0) .....	66
5.4.2.	通信路設定 (Function D1) .....	68
5.4.3.	UART通信速度設定 (Function D2) .....	69
5.4.4.	CSI通信速度設定 (Function D9) .....	70
5.4.5.	TVccスレッシュホールド設定 (Function D3) .....	71
5.4.6.	MCUモード設定 (Function D4) .....	72
5.4.7.	ウォッチドックタイマ設定 (Function D5) .....	73
5.4.8.	フラッシュメモリエリア表示 (Function D6) .....	74
5.4.9.	通信チャンネル設定 (Function D7) .....	75
5.4.10.	表示型名変更 (Function D8) .....	76
5.4.11.	データフォーマット設定 (Function 5) .....	77
5.4.12.	MCU動作周波数設定 (Function DF) .....	79
5.4.13.	バージョン表示 (Function 94) .....	80
5.4.14.	ベリファイモード切替 (Function 99) .....	81
5.4.15.	バッファメモリイニシャルモード切替え .....	82
5.4.16.	ライセンス表示 (Function 9B) .....	83
5.4.17.	SUM 値表示切替え (Function 9C) .....	84
5.4.18.	ファイルロード実行時の ADDRESS WARNING 表示切替え (Function 9E) .....	85
5.4.19.	プログラマ起動時の ADDRESS WARNING 表示切替え (Function 9F) .....	86
5.4.20.	シリアル番号表示 (Function AE) .....	87
5.4.21.	ライセンス追加 (Function AF) .....	88

5.5.	コントロールモジュールの概要／操作方法	89
5.5.1.	YIMフォルダの切替え(Function B0)	90
5.5.2.	YIMフォルダの作成(Function B1)	91
5.5.3.	YIMフォルダの消去(Function B2)	92
5.5.4.	YIMフォルダの複製(Function B3)	93
5.5.5.	YIM フォルダのプロテクト設定(Function B4)	94
5.5.6.	カレント YIM フォルダの保持設定(Function B5)	95
5.5.7.	カレント YIM フォルダの表示(Function B6)	96
5.5.8.	カレント YMNファイル設定(Function BC)	97
5.5.9.	カレント YMNファイル実行(Function BD)	98
5.6.	Ethernet設定	99
5.6.1.	IPアドレス、ポート番号設定 (Function E2)	99
5.6.2.	ゲートウェイアドレス設定 (Function E3)	101
5.6.3.	サブネットマスク設定 (Function E4)	103
5.6.4.	通信速度/通信モード設定 (Function E8)	105
5.7.	デバイスファンクション一覧表	107
5.7.1.	コピー ( COPY )	108
5.7.2.	ブランクチェック ( BLANK )	109
5.7.3.	イレーズ ( ERASE )	110
5.7.4.	プログラム ( PROGRAM )	111
5.7.5.	リード ( READ )	112
5.7.6.	プログラム書き込み ( E.P.R. )	114
5.8.	ログ操作	116
5.8.1.	ログモード設定 (Function CA0)	116
5.8.2.	ログ消去 (Function CA5)	117
5.8.3.	ログ全消去 (Function CA0)	118
5.8.4.	ログ消去設定 (Function CA8)	119
5.9.	I/F 設定	120
5.9.1.	ケーブルセレクト設定 (Function CD0)	120
5.9.2.	Digital Input 入力フィルタ値の設定 (Function CD1)	120
5.10.	制限事項	121
<b>6.</b>	<b>コマンドシーケンス機能</b>	<b>122</b>
6.1.	EXE キー	122
6.1.1.	機能概要	122
6.1.2.	EXE キー設定	123
6.2.	YMN ファイル	125
6.2.1.	機能概要	125
6.2.2.	コマンドシーケンスファイル( *.YMN )のフォーマット	126
6.3.	デバイスコマンド定義	127
<b>7.</b>	<b>サムチェック機能</b>	<b>128</b>
7.1.	機能概要	128
7.2.	サムチェック機能設定	128
7.2.1.	YSMファイル (*.YSM)	128
7.2.2.	YSMファイルのフォーマット	129
<b>8.</b>	<b>仕様</b>	<b>130</b>
8.1.	動作条件	130
8.2.	Ethernetインターフェース	131
8.2.1.	コネクタ ( Ethernet )	131
8.2.2.	信号表	131
8.3.	コンパクトフラッシュ・インターフェース	132
8.3.1.	コネクタ ( CONTROL MODULE )	132
8.3.2.	信号表	132
8.4.	Digital I/O インターフェース	133
8.4.1.	コネクタ ( DIO PROBE )	133
8.4.2.	信号表	133
8.4.3.	タイミング規定	135
8.4.4.	電気的特性	136

8.4.5.	Digital I/O PROBE (AZ401).....	137
8.4.6.	Digital I/O PROBE (AZ403).....	138
8.5.	バーコードリーダーインターフェース.....	139
8.5.1.	コネクタ (BCR PROBE).....	139
8.5.2.	信号表.....	139
8.5.3.	電気的特性.....	139
8.5.4.	BCR PROBE (AZ402).....	140
8.6.	ターゲット・インターフェース.....	141
8.6.1.	コネクタ (TARGET PROBE 1).....	141
8.6.2.	信号表.....	142
8.6.3.	インターフェース回路タイプ.....	143
8.6.4.	DC特性.....	147
8.6.5.	インターフェース・ケーブル (AZ410).....	148
8.6.6.	インターフェース・ケーブル (AZ411, AZ413).....	149
8.6.7.	インターフェース・ケーブル (AZ412).....	150
8.7.	CAN インターフェース.....	151
8.7.1.	コネクタ (TARGET PROBE 2).....	151
8.7.2.	信号表.....	152
8.7.3.	インターフェース回路タイプ.....	153
8.7.4.	CAN インターフェース・ケーブル (AZ414).....	158
8.7.5.	CAN インターフェース・ケーブル (AZ415).....	159
8.7.6.	CAN インターフェース・ケーブル (AZ416).....	160
APPENDIX	エラーコード一覧表.....	161

## 本機器を安全にご使用いただくために

本機器を正しく安全に使用していただくため、本機器の操作にあたっては下記の安全事項を必ずお守り下さい。尚、これらの注意に反したご使用により生じた損害については、当社は責任と保証を負いかねます。

- 本器には、安全に使用していただくための次のようなシンボルマークを使用しています。



人体及び機器に危険があることを示すとともに、ユーザマニュアルを参照する必要があることを示すシンボルマークです。



保護接地端子を示します。この端子が本体にあるときは、機器を操作する前に必ず、グランドと接続して下さい。

### 警告

取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険があるとき、それを避けるための注意事項が記載されています。

### 注意

取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか、または物的損害のみが発生する危険があるときに、それを避けるための注意事項が記載されています。

- 感電事故など取扱者の生命や身体に危険が及んだり機器損傷の恐れがあるため次の事項を必ずお守り下さい。



## 警告

- ・ ガス中での使用  
可燃性、爆発性のガス又は蒸気のある場所では、本機器を動作させないで下さい。  
そのような環境下で本機器を使用することは大変危険です。
- ・ 屋内専用  
本プログラマは屋内でのみ、ご利用頂けます。
- ・ 電源  
感電や災害防止のため電源ユニットは、必ず弊社指定の電源パック(ACアダプタ)をご利用下さい。  
供給側の電圧が電源パックの定格電源電圧に合っているか必ず確認した上で、  
本機器の電源スイッチ(側面)が off になっていることを確認してから、  
電源コードを接続して下さい。  
また電源ケーブルは、販売国の電源仕様に基づき同梱されています。  
販売国以外で使用する場合には、事前に使用する国の電源電圧やコンセントの  
形状を確認し、その国の規格に適合した電源ケーブルを現地にてお求めください。  
電源ケーブルの FG 端子は必ずアースに接続してください。また本プログラマ、ユーザーシステムおよび  
ホストコンピュータの AC 電源は同一のコンセントを使用してください。
- ・ ケースの取り外し  
サービスマン以外は、ケースを外さないで下さい。  
本機器内には、高電圧の箇所があります。

## 本器をご使用になる前に

本器は、精密電子部品で構成された電子機器です。本器性能を最高に発揮し、トラブルを予防するために、以下の注意事項を必ず守って下さい。

### 1. 電源投入順序

#### 注 意

- ・ ホストコンピュータ、本器、ターゲットシステムは次の順序で電源の投入および切断をして下さい。
- ・ 特に、本器とターゲットシステム間の電源の投入順序及び切断順序を誤りますと、ターゲットシステムと本器に重大な損害を与える恐れがありますので、必ず守って下さい。

##### < 電源投入 >

- ①ホストコンピュータ
- ②本器
- ③ターゲットシステム

##### < 電源切断 >

- ①ターゲットシステム
- ②本器
- ③ホストコンピュータ

### 2. プローブとコネクタの接続

#### 注 意

- ・ 各プローブとケーブルを抜き差しする時は、本器及びターゲットシステムの電源を切って下さい。
- ・ 各プローブとケーブルの形状は、本器と接続する場合に誤った向きに入らないようになっています。接続時に異常を感じた場合は、無理な力を加えずに、方向・位置を確認して下さい。

### 3. 機器の解体

#### 注 意

- ・ 本器内部では微細パターンのプリント板を使用しますので、ネジを開けて、解体しないで下さい。



## 重要事項

この度は、フラッシュマイコンプログラマ「NETIMPRESS next」をお買い上げいただきましてありがとうございます。

本器をご使用になる前に、必ずインストラクションマニュアルを読んで理解して下さい。インストラクションマニュアルは、お読みになった後、ご使用時にすぐにご覧になれるところに大切に保存して下さい。本器は、インストラクションマニュアルを読んで理解した人のみが使して下さい。特に、本器をはじめて使う方は、本器をよく理解し、使い慣れている方から指導を受けることを強くお勧めいたします。

本器製品とは：

ここでいう本器とは、株式会社DTSインサイトが製作したフラッシュマイコンプログラマ本体、コントロールモジュール及びその関連製品を指し、ターゲットシステム及びホストコンピュータは含まれません。

本器は、精密電子部品で構成された電子機器です。本器の性能を最高に発揮し、トラブルを予防するために、以下の注意事項を守って下さい。

取扱いや接続の誤りで故障した場合は、有償修理となり、場合によっては修理に長期間(2～3ヶ月)を要することもありますので、特に注意をお願いします。

ソフトウェア製品及び、マニュアルは株式会社DTSインサイトが供給した媒体物の破損、資料の落丁及びプログラム・インストラクションが実行できない場合のみ保証いたします。

バグ及び前記以外の問題の解決は、別に締結する保守契約に基づいて実施されます。

## ⚠ 警告

ターゲットプローブとの抜き差し及び各種ケーブルを抜き差しする時は、本器及びターゲットシステムの電源を切って下さい。

電源を投入したまま抜き差しを行った場合は、本器及びターゲットシステムの発煙発火の可能性があります。

電源を投入する前に、プローブ先端の1番ピンの方向がターゲットシステム上のソケットの1番ピンに合っているか必ず確かめて下さい。

接続を誤ると本器及びターゲットシステムの発煙発火の可能性があります。

## ⚠ 注意

プローブ先端部は電子回路の一部が露出していますので、必ず静電気対策された作業環境でご使用下さい。

静電気対策されていない環境では、静電気放電により本器及びターゲットシステムを破壊する可能性があります。

電源投入の順序は、必ず本器の電源を先に投入し、ターゲットシステムの電源のON/OFFは、本器の電源が必ずONの状態で行って下さい。この順序を間違えた場合、本器及びターゲットシステム回路を破壊する可能性があります。

<空白ページ>

## 1. 概要・特長

NETIMPRESS シリーズは、ユーザシステムに実装された状態のフラッシュROM内蔵マイコンにプログラムするためのフラッシュマイコンプログラマです。

フラッシュマイコンプログラマ本体に、各マイコン用コントロールモジュールを使用することにより、各種フラッシュROM内蔵マイコンの書き込み仕様に対応することが可能です。

NETIMPRESS next は、従来の NETIMPRESS シリーズに対して高速書き込み対応、バーコードリーダーおよびデジタル I/O による外部制御機能が拡張された機種になります。

「/CAN」オプションの NETIMPRESS next は、シリアルインターフェイスに加え、CAN インターフェイス経由でのフラッシュマイコンプログラミング機能を内蔵しています。

### 【 特長 】

1. 個別マイコン用コントロールモジュールにより、各マイコンの書き込み仕様に対応します。
2. 各種ターゲットプロンプト（別売り）により、ユーザシステムと接続します。書き込み対象マイコンをユーザシステム上に半田付け・実装したままプログラムが可能です。
3. スタンドアロンで使用できます。書き込み情報はコンパクトフラッシュ上にファイルとして保存します。
4. Ethernetインターフェイスでホストコンピュータからリモートコントロールすることができます。（AZ490を使用）ファイルの転送や書き込みパラメータの変更が可能です。
5. Ethernetに接続できますので、NETIMPRESS next をネットワークに接続してシステムを構築することができます。リモートコントロールパッケージAZ491（別売りソフト）を使ってお客様サイドで作成されるアプリケーションソフトによりNETIMPRESS next を容易にリモートコントロールし、自動プログラミングシステムへの展開が図れます。
6. 高速書き込みを実現します。
7. 修正データの高速検索が可能です。
8. 修正を加えた情報は、オリジナル書き込み情報ファイルの修正ファイルとしてコンパクトフラッシュ上に保存できます。
9. バーコードリーダーを使用した品番切り替えが可能です。
10. Digital I/O を使用したシーケンス動作が可能です。
11. ログ機能を搭載しております。

## 2. 一般注意事項

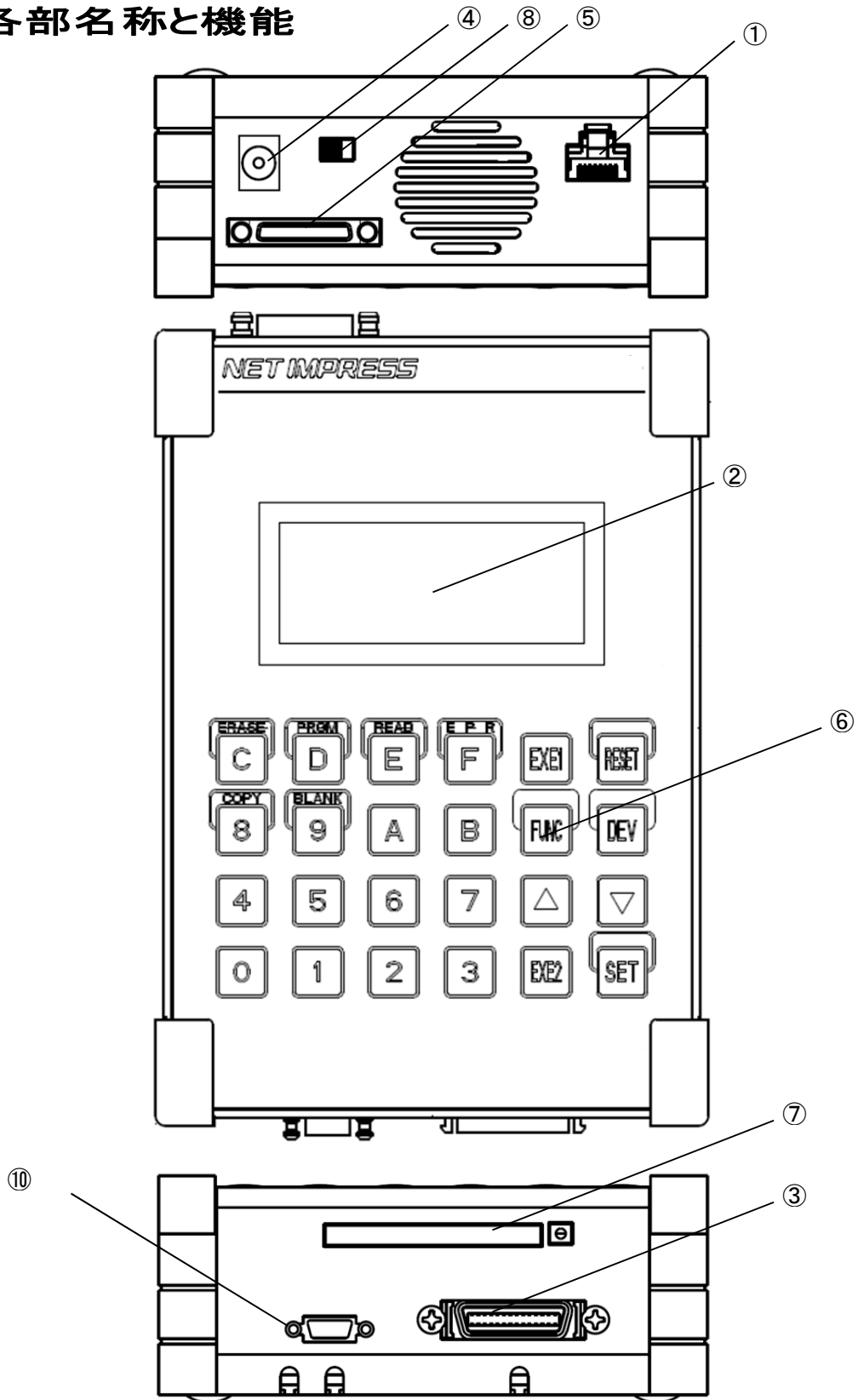
- (1) 電源ユニットは、必ず弊社指定のものをご使用下さい。DCジャックを接続するときは、ACプラグが抜けていることと、本器の電源スイッチがオフになっていることを確認して下さい。
- (2) ほこりの多い場所や直射日光、腐食性ガスの発生する場所での使用は避けて下さい。
- (3) 周囲温度5～40℃、湿度20～80%で使用して下さい。
- (4) AC電源ラインに雑音が多い場合は、ノイズフィルタなどで雑音を除去して下さい。
- (5) コントロールモジュールの抜き差しは、本器の電源がオフの状態で行ってください。
- (6) 電源投入手順は本器 → ユーザシステム、切る手順はユーザシステム → 本器です。
- (7) NETIMPRESS next は、コントロールモジュールを所定のコンパクトフラッシュコネクタに実装した状態で動作いたします。  
コンパクトフラッシュを外したままでの操作はできません。

本器及び関連製品のご利用方法と最新情報を、弊社ホームページでご案内しております。  
あわせて、ご利用下さい。

フラッシュマイコンプログラマホームページ

[http://www.dts-insight.co.jp/product\\_list/netimpress\\_list.html](http://www.dts-insight.co.jp/product_list/netimpress_list.html)

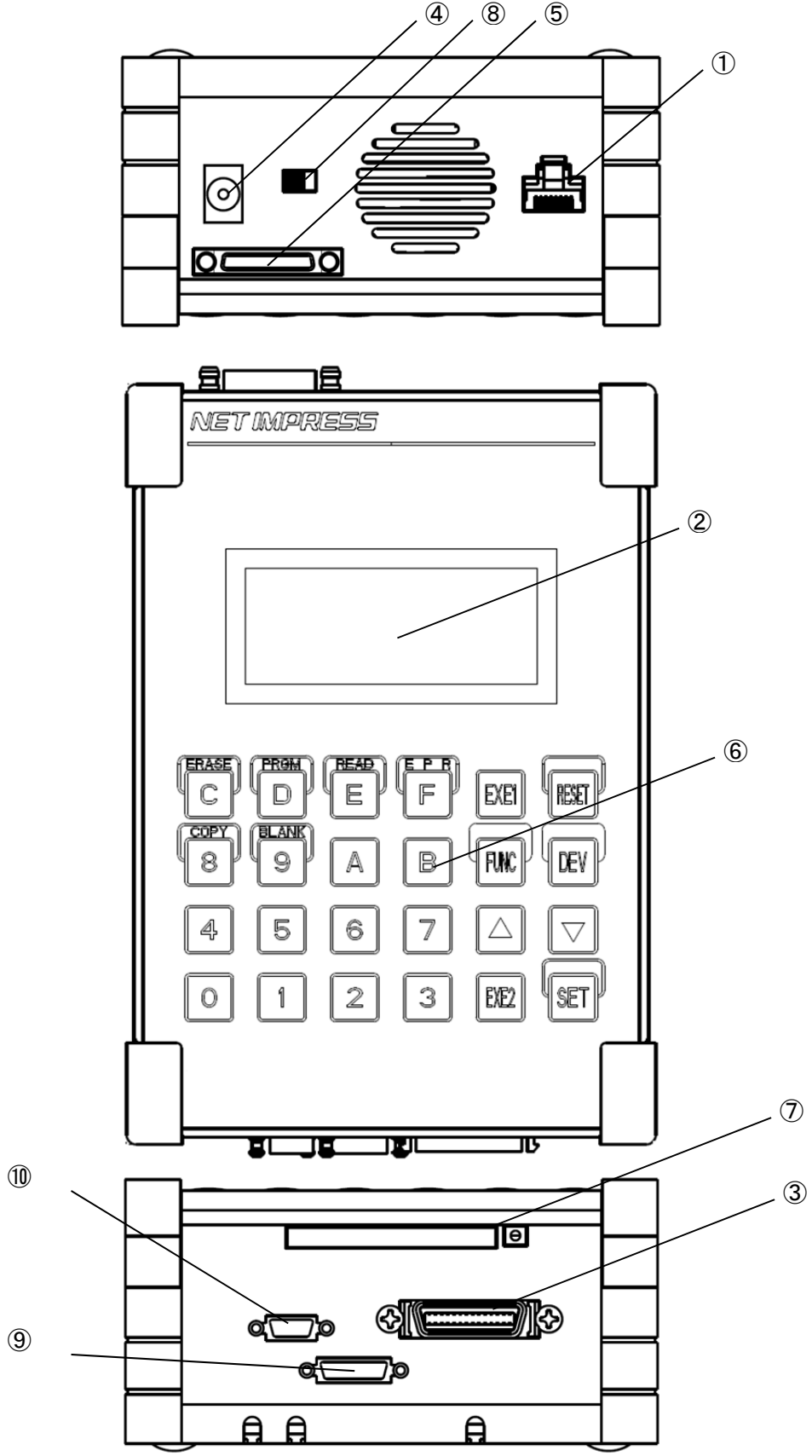
## 3. 各部名称と機能



AF430

# NETIMPRESS

Network Compatible In-circuit Flash Microm Programmer for Embedded Smart Systems



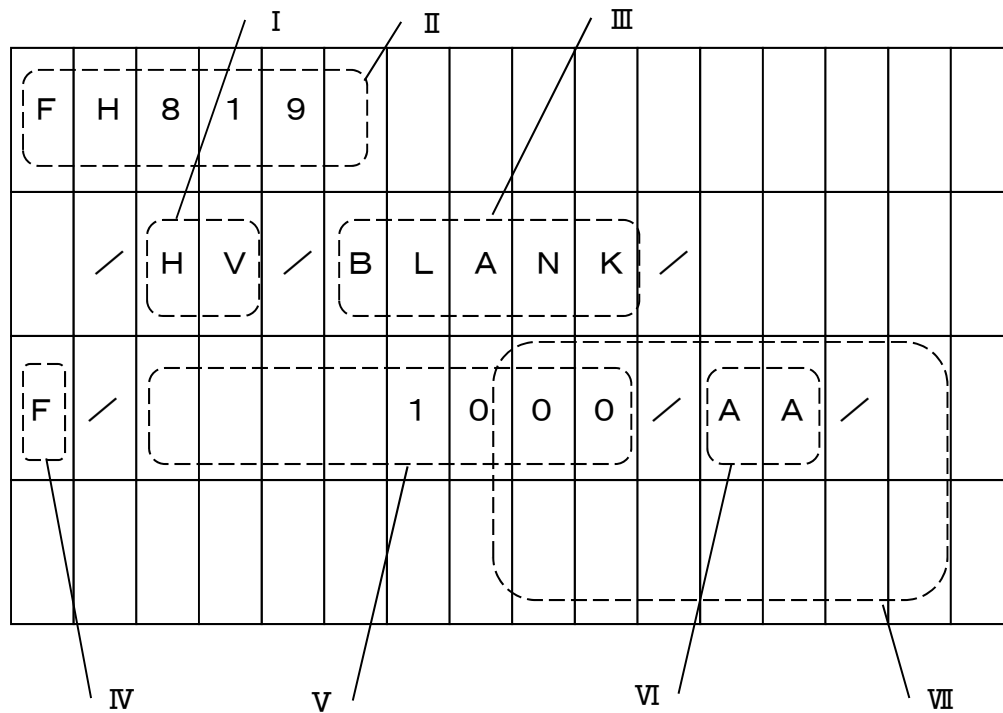
AF430/CAN

## ① ETHERNET

Ethernet(10/100Base-T)に接続するためのコネクタです。

## ② LCD

各種情報を表示します。



### I. プログラミング電圧印加表示

プログラミング用の高電圧印加中を表わします。RESETキーで解除できます。

### II. コントロールモジュール型名

コンパクトフラッシュに実装されているコントロールモジュールの型名を表示します。

この表示部は第5章に示す方法でお客様自身に変更できます。

### III. デバイスファンクション表示

実行中のデバイスファンクションを表示します。

### IV. ファンクション表示／モディファイビット表示

実行中のファンクション あるいは バッファメモリのデータが変更されたデータであることを表わします。

“F”が表示される場合、実行中のファンクションを表示します。

“D”が表示される場合、実行中のデバイスファンクションを表示します。

“M”が表示される場合、キー入力やバッファトランスファにより変更されたデータであることを示します。

## V. アドレス表示

フラッシュメモリアドレスの表示やデータキーの入力モニタ表示、各種メッセージを表示します。

アドレスの上位桁は表示されず、下位8桁のみ表示されます。

## VI. バッファ

バッファメモリデータやエラーコードを表示します。

## VII. ROMデータ/サムチェック

フラッシュROMのデータやバッファメモリデータのサム値を表示します。

## ③ TARGET PROBE1

ターゲットシステムと接続するためのプローブを接続するコネクタです。

## ④ DC12V

本器専用の電源パックと接続するためのジャックです。

## ⑤ DIO PROBE

Digital I/O による制御を行う場合にこのコネクタを使用します。

## ⑥ KEYBOARD

### 【 0～F 】

16進データキーで数値を入力します。8、9、C、D、E、FはDEVキーとの併用で、各デバイスファンクションを指定するキーとなります。

### 【 RESET 】

動作の中断や、エラー表示を消すときに使用します。同時にリモート動作の解除も行われます。

### 【 FUNC、DEV 】

16進データキーと併用して、各種動作の設定をするコマンドキーです。

### 【 ▲ ▼ 】

アドレス値の増減を実行するキーで、アドレスに対応するバッファメモリとROMのデータを同時に表示します。FUNC動作ではパラメータの区切りとしても使用します。

### 【 SET 】

FUNCキー、DEVキーなど各モードやコマンドの設定や実行に使用します。バッファメモリ内のデータ変更にも使用します。

### 【 EXE1, EXE2 】

様々なコマンドを割り当てて使用することができます。詳細は「6. コマンドシーケンス機能」をご覧ください。



## ⑦ CONTROL MODULE

コントロールモジュールを挿入するスロットです。本器専用のコンパクトフラッシュでないと正常に動作しません。

## ⑧ POWER

電源スイッチ

ON : 電源ON

OFF : 電源OFF

## ⑨ TARGET PROBE2(AF430/CANのみ)

ターゲットシステムと CAN インターフェイスを用いて接続するためのプローブを接続するコネクタです。

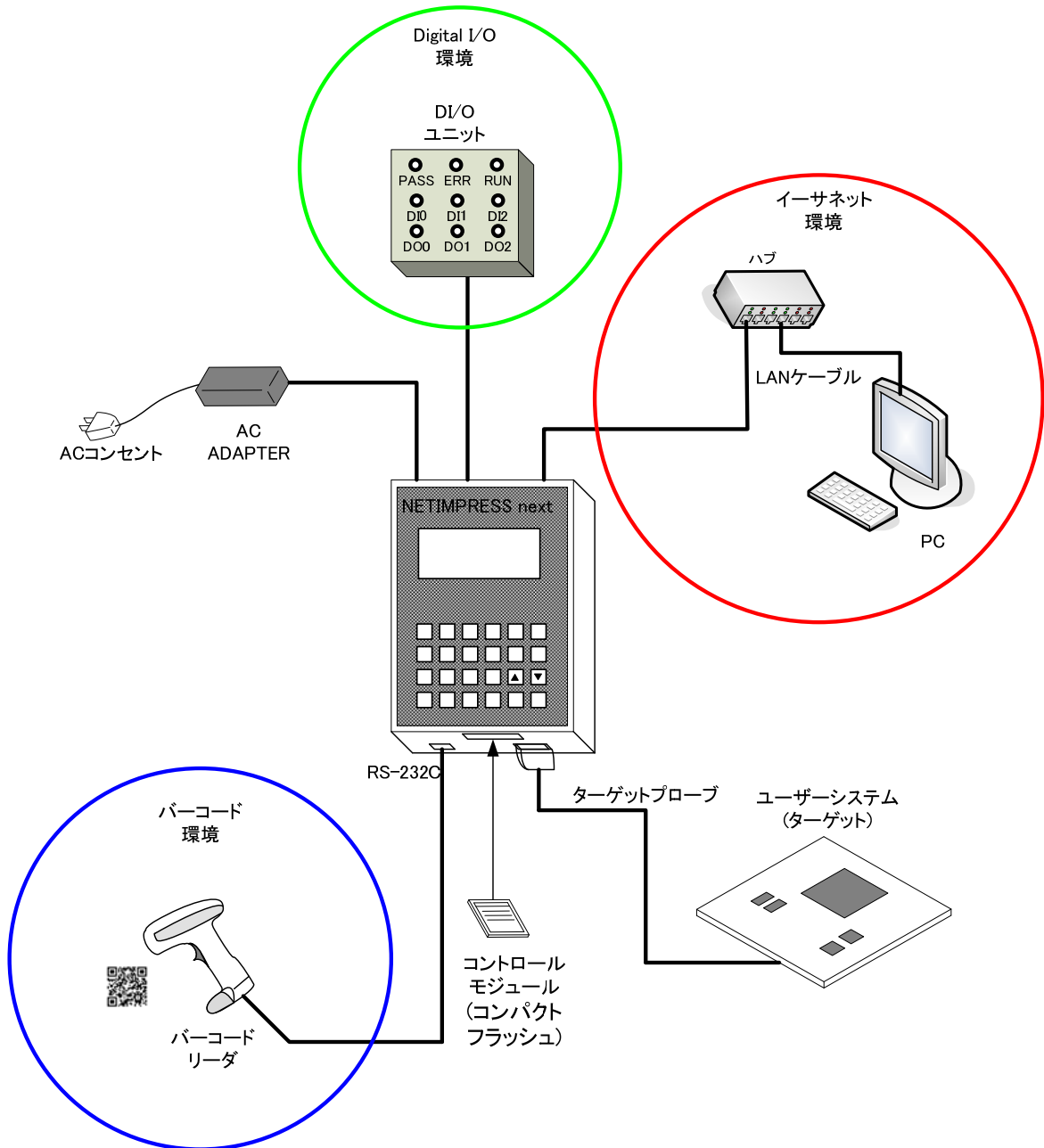
## ⑩ BCR PROBE

バーコードリーダーと接続するためのプローブを接続するコネクタです。

## 4. NETIMPRESS next システム構成

### 4.1. 周辺機器との接続図

NETIMPRESS next と周辺機器との接続例は以下の通りとなります。



## 【 構成例 】

- イーサネット環境
  - ・LAN ケーブル(PCと直接接続する場合はクロスケーブルを使用)
  - ・PC
  - ・NETIMPRESS next を操作するためのソフトウェア  
(リモートコントローラ:AZ490 他)
  
- ターゲットシステム
  - ・ターゲットプローブ
  - ・アダプタ(ユーザーシステムの通信 I/F に合わせて変換を行うためのアダプタ):別売り
  - ・ユーザーシステム(ターゲットマイコン)
  - ・コントロールモジュール:ターゲットマイコンに適合したコントロールモジュールが必要
  
- バーコード環境
  - ・BCR PROBE (AZ402):別売り
  - ・バーコードリーダー:お客様でご用意いただくもの
  
- Digital I/O 環境
  - ・Digital I/O PROBE (AZ401):別売り
  - ・Digital I/O ユニット:お客様でご用意いただくもの

## 4.2. 各構成の説明

### 4.2.1. イーサネット環境

NETIMPRESS next を PC と接続してご使用いただく場合は、Ethernet の設定を行っていただく必要があります。

以下の a～e の手順を実行し、Ethernet の設定を行ってください。

- a. AZ482(F/DF シートゼネレータ)を使用し、あらかじめ.YCM ファイルを作成しておきます。
- b. コントロールモジュールのルートディレクトリに.YCM ファイルをコピーします。  
.YCM ファイルはただ 1 つだけ存在できるものとします。  
また、ルートディレクトリ以外の場所にコピーした場合、正しくファイルを認識することができません。
- c. コントロールモジュールをライター本体に挿入し、電源を ON にします。
- d. LCD に「YCM DATA SET ?」と表示されますので、[EXE1]または[EXE2]キーを押してください。  
.YCM で設定した Ethernet の「IP アドレス」「ポート」「サブネットマスク」「ゲートウェイアドレス」が設定されます。  
設定を行わない場合は[RESET]キーを押します。
- e. 設定した「IP アドレス」が LCD に表示された後、ライターが起動します。  
これで、Ethernet 設定は完了です。

※ Ethernet の設定はスタンドアロン操作 (Function E2～E4) での設定も可能です。  
詳細は、『5.6 Ethernet設定』をご参照下さい。

Ethernet の設定が終了したら、ライター制御用のソフトウェア: リモートコントローラ(AZ490)との通信を行うことが可能です。

## 4.2.2. ターゲットシステム

### 【 ピンアサイン 】

本器のターゲット・インターフェースに関する情報(ピンアサイン,回路情報)を 8.仕様 に示します。

ユーザシステム側から見た入力信号は、本器を接続しない場合の誤動作を考慮してプルアップ抵抗(10KΩ程度)を付けることをお勧めします。

特定の信号線はコントロールモジュールにより定義が異なります。詳しくは各コントロールモジュールのマニュアルをご覧ください。

### 【 スタンドアロンでの書込み 】

以下にスタンドアロンでプログラミングするための基本的な使用方法を記述します。

詳細は第5章のコマンド一覧を参照してください。

## 1. バッファメモリ<sup>\*1</sup>の初期化

マイコンのフラッシュROM領域に対応した領域のバッファメモリを初期化<sup>\*2</sup>します。

キー操作



バッファメモリ初期化ファンクション

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
F	2	/	B	U	F	F	E	R	C	L	E	A	R						



決定

### \*1 バッファメモリ

FlashROMへ書き込むデータを保存する場所です。

オブジェクトファイルをバッファメモリにロードすることにより、バイナリデータへ変換され保存されます。

エディット機能(5-3章)によりデータを変更することが可能です。

バッファメモリはコンパクトフラッシュ上に存在するため、NETIMPRESS nextの電源をOFFにしてもバッファメモリのデータは保持されます。

### \*2 初期化

バッファメモリ初期化時のデータはコントロールモジュールにより異なり、“00”または“FF”となります。

(データ内容につきましては各コントロールモジュールのマニュアルをご覧ください)

## 2. 実行アドレスの設定

デバイスファクションの実行対象領域を設定します。デフォルト値はフラッシュROMの全領域となっています。プログラムする領域を変更したい場合に設定します。

例)アドレス“ FE0000H ”から“ FF0000H ”の領域に設定します。

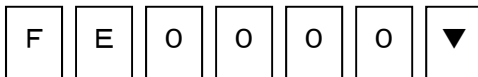
キー操作



プログラム領域設定ファンクション

LCD表示(全体)

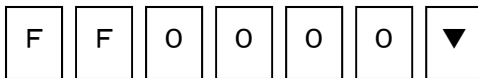
F	x	n	n	n											
			/	x	x	x	x	/							
F	O	/	E	X	E	C	U	T	E		A	R	E	A	
F	-	A	D	D	R	/				F	C	0	0	0	0



ファーストアドレスを入力

4行目

F	-	A	D	D	R	/				F	E	0	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	---	---	---	---	---	---



ラストアドレスを入力

4行目

L	-	A	D	D	R	/				F	F	0	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	---	---	---	---	---	---



決定

実行アドレスの変更を行ないますと、本器の電源を再立ち上げた時にワーニングメッセージが表示される場合があります。

実行アドレス ( FUNCTION 0 )

マイコンのフラッシュROM領域 ( FUNCTION D 6 )

転送アドレス ( FUNCTION F 5 )

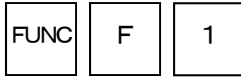
の設定が一致していない時に“ ADDRESS WARNING ”等が表示され、エラー音が鳴りますが、RESETキーを押すことにより解除することができます。

デバイスファクション実行領域を意識的に狭くしてご利用いただいているときなどはワーニングを無視して実行することができます。

### 3. ファイルロード

コンパクトフラッシュ上にある、ユーザーのオブジェクトファイルを NETIMPRESS next のバッファメモリにロードします。例として“ DAT128K. BIN ”をロードします。

キー操作



ファイルロードファンクション



“ DAT128K. BIN ”を選択



決定

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
				/	x	x	x	x	/								
F	F	1	/	F	I	L	E	L	O	A	D						
					T	E	S	T	1	.	H	E	X				

4行目

				D	A	T	1	2	8	.	B	I	N				
--	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--

3行目

				D	O	W	N	L	O	A	D	.	.	.	B	I	N
--	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

## 4. プログラミング

ERASE、BLANK-CHECK、PROGRAM、READ-VERIFYの連続動作を行なうEPRコマンドを実行します。各コマンドは単独実行も可能です。

(コントロールモジュールによりサポートするコマンドに違いがありますので、詳しくは各コントロールモジュールのマニュアルをご覧ください。)

キー操作

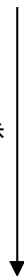


EPRコマンド



決定

順番に表示



LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
				/	x	x	x	x	/								
D	/	E	.	P	.	R											
F	-	A	D	D	R	/											0

3行目

E	R	A	S	E	.	.	.										
---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

3行目

P	R	O	G	R	A	M	.	.	.								
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--

3行目

S	U	M		C	H	E	C	K	.	.	.						
---	---	---	--	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--

F	x	n	n	n													
				/	x	x	x	x	/								
P	A	S	S	P	/												00
				R	/												00



### 4.2.3. バーコード環境

#### 【 概要 】

RS232C 接続タイプのバーコードリーダが接続可能になっています。

NETIMPRESS next でバーコードリーダを接続して使用する場合、以下のものをご用意ください。

- ・BCR PROBE (AZ402)
- ・バーコードリーダ本体 (RS-232C 接続)
- ・読み込むためのバーコード
- ・YBO ファイル

処理モードは専用のオプションファイル(拡張子:YBO)に記述されます。

#### 《 注意 》

バーコードリーダはスタンドアロン(イーサネット通信時は使用不可)での環境でのみ使用可能です。

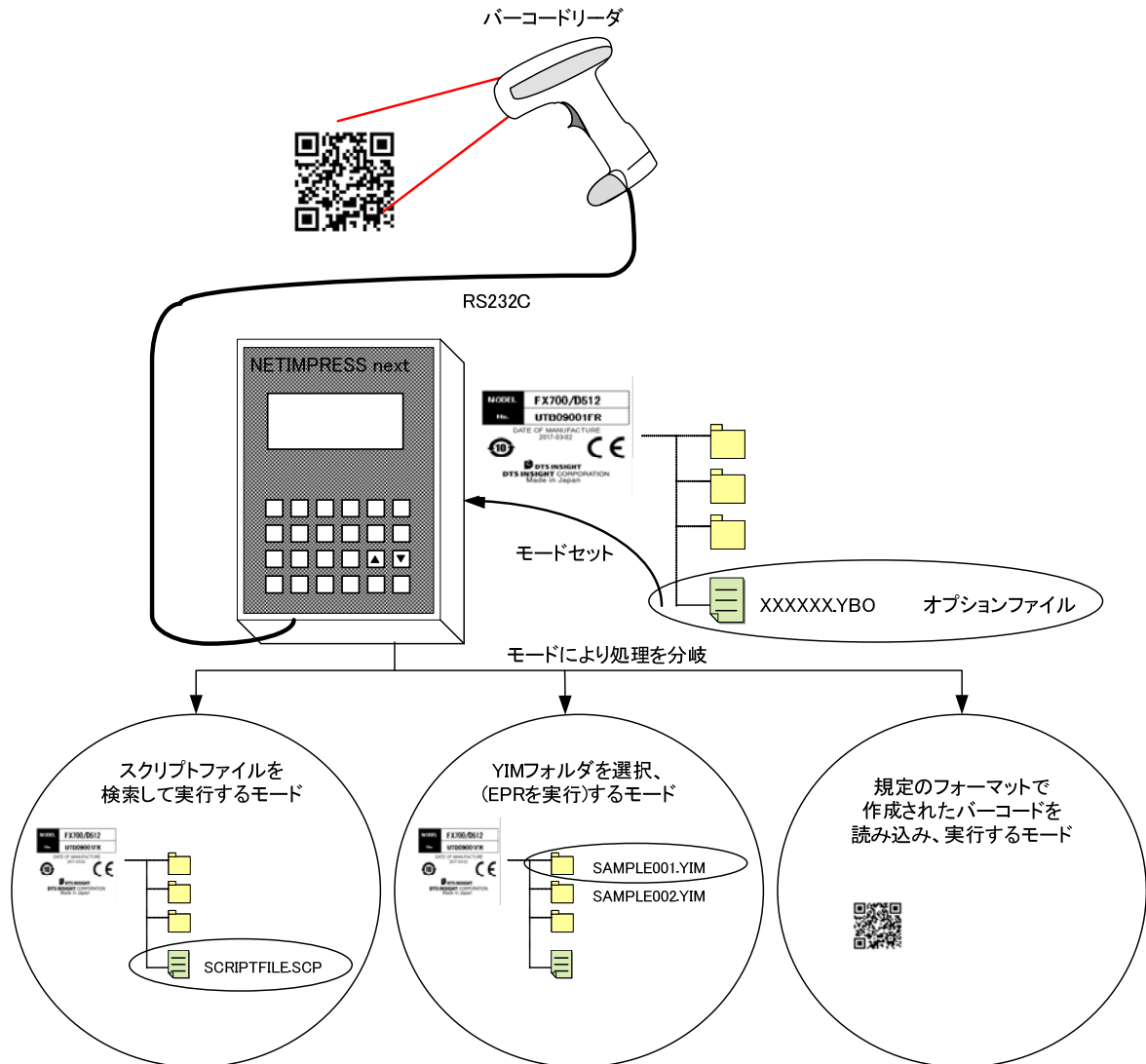
#### ■ YBO ファイル

- ・ファイルは専用ソフトウェアでの編集／作成 (AZ486) が可能です。  
(AZ486 は弊社ホームページよりダウンロード可能です。)  
詳細は AZ486 のマニュアルをご参照ください。
- ・ライターに挿入されているコンパクトフラッシュのルートに置くことで有効になります。
- ・ルートに無い場合は、バーコード処理は無効になります(バーコード受信拒否の状態になります)

#### ■ 処理モード

- (1) バーコードと一致したスクリプトファイルを実行するモード (SCRIPT モード)
- (2) 弊社で規定したフォーマットのバーコードを実行するモード (ORIGINAL モード)
- (3) バーコードと一致した YIM フォルダを選択し、続けてターゲットへのアクセス (EPR など) を実行するモード (SELECT モード)

## 【 概要図 】



**【 バーコードリーダー側設定 】**

NETIMPRESS next でバーコードを読み取るためには、バーコードリーダー側の設定を以下のように行ってください。

## バーコードリーダー側の通信設定

ボーレート	9600bps
パリティ	なし
ストップビット	1 ストップビット
データ長	8 ビット

## データフォーマット

プリフィックス(ヘッダ)	なし
サフィックス(フッタ) ※	CR(0x0d)
スキャンデータ転送フォーマット	<データ><サフィックス>

※ サフィックス情報は、YBO ファイルで指定されている場合は YBO ファイルの情報が優先されます。

## 【 YBO ファイル 】

YBO ファイルはコンパクトフラッシュのルートディレクトリに 1 つだけ配置が可能です。

ファイルが 0 個または 2 個以上の場合は、バーコード処理は無効になります。

ファイルフォーマットが正常な場合のみ、バーコードリーダーからのバーコード読み取りが有効となります。

YBO ファイルは、ライター側の制御切り替えのモード、その他オプションの内容で構成されています。

### ■ YBO ファイル名

#### XXXXX.YBO

※1 XXXXX は自由に指定が可能です。

※2 拡張子は.YBOで固定になります。

### ■ YBO ファイル構成

/	/		X	X	X	X	X	.	Y	B	O			
/	/		2	0	x	x	.	x	x	.	x	x		
[	M	O	D	E	]									← ヘッダ
S	C	R	I	P	T									
[	S	E	T	T	I	N	G	]						← ヘッダ
S	T	A	R	T	=	0	0	0	2					
E	N	D	=	0	0	1	2							
S	U	F	F	I	X	=	0	x	0	D				
[	E	N	D	]										

### ■ フォーマットについて

1. [MODE]の行まではコメントとして全て無視されます。
2. 記述の順番は、[MODE]→ [SETTING]とします。
3. [SETTING]の項目は、記述がない場合は START=0, END=デリミタ, SUFFIX=0x0D で動作します。
4. ファイルの終端には[END]を置く(必須)ファイルの終端まで[END]が無い場合はフォーマットエラーとします。

## ■ [MODE]

[MODE]の次の行に記述される文字列により、バーコードデータの処理モードを決定します。

本項目の記述は YBO ファイルの必須項目となります。

[MODE]及び次の行に有効な記述が無い場合、バーコード処理は無効になります。

ヘッダ情報	記述	詳細
[MODE]	SCRIPT	受信データと一致したスクリプトファイルを実行します。 指定するバーコードは.SCP(拡張子)を除いて指定します。
	ORIGINAL	バーコードからリードしたデータに対応したファンクションを実行します。 規定フォーマットを使用してください。
	SELECT	バーコードから読み出したデータと一致する YIM フォルダを選択します。 (選択のみ) 指定するバーコードは.YIM(拡張子)を除いて指定します。
	SELECT/XXXX	バーコードから読み出したデータと一致する YIM フォルダを選択して、続けてデバイスファンクションを実行するモードです。  XXXX には、ERASE, BLANK, PROGRAM, READ, EPR, COPY の 6 項目を指定できます。  指定するバーコードは.YIM(拡張子)を除いて指定します。

## ■ [SETTING]

受信したバーコードの有効範囲、及び終端コードの指定を行えます。

以下の設定は省略することも可能です。

ヘッダ情報	引数	記述(詳細)
[SETTING]	START=	<p>サンプリング開始ポイント: データサンプルの開始ポイントを指定します。 設定範囲: 1~2047(10進) 0x1~0x7FF(16進)</p> <p>※ “ORIGINAL”モード以外で有効</p>
	END=	<p>サンプリング終了ポイント: データサンプルの終了ポイントを指定します。 設定範囲: 1~2047(10進) 0x1~0x7FF(16進)</p> <p>※ “ORIGINAL”モード以外で有効</p>
	SUFFIX=	<p>終端コードオプション: バーコードデータの終端コードを指定することが可能です。 指定が無い場合は、0x0D(CR)がデフォルトの終端コードとなります。</p> <p>指定可能な byte 数: 1byte 指定可能な文字: ASCII コード 0~127(10進) 0x0~0x7F(16進)</p> <p>※ “ORIGINAL”モード以外で有効</p>

※ SUFFIX を ASCII で指定する場合は以下表の Character を' (シングルクォーテーション) でくります。

例: 0 を SUFFIX と指定する場合

SUFFIX='0'

■ SUFFIX に指定可能なコード対応表

Code		Character	Code		Character	Code		Character	Code		Character
10 進	16 進		10 進	16 進		10 進	16 進		10 進	16 進	
0	00	NUL	33	21	!	66	42	B	99	63	c
1	01	SOH	34	22	"	67	43	C	100	64	d
2	02	STX	35	23	#	68	44	D	101	65	e
3	03	ETX	36	24	\$	69	45	E	102	66	f
4	04	EOT	37	25	%	70	46	F	103	67	g
5	05	ENQ	38	26	&	71	47	G	104	68	h
6	06	ACK	39	27	'	72	48	H	105	69	i
7	07	BEL	40	28	(	73	49	I	106	6a	j
8	08	BS	41	29	)	74	4a	J	107	6b	k
9	09	HT	42	2a	*	75	4b	K	108	6c	l
10	0a	LF	43	2b	+	76	4c	L	109	6d	m
11	0b	VT	44	2c	,	77	4d	M	110	6e	n
12	0c	FF	45	2d	-	78	4e	N	111	6f	o
13	0d	CR	46	2e	.	79	4f	O	112	70	p
14	0e	SO	47	2f	/	80	50	P	113	71	q
15	0f	SI	48	30	0	81	51	Q	114	72	r
16	10	DLE	49	31	1	82	52	R	115	73	s
17	11	DC1	50	32	2	83	53	S	116	74	t
18	12	DC2	51	33	3	84	54	T	117	75	u
19	13	DC3	52	34	4	85	55	U	118	76	v
20	14	DC4	53	35	5	86	56	V	119	77	w
21	15	NAK	54	36	6	87	57	W	120	78	x
22	16	SYN	55	37	7	88	58	X	121	79	y
23	17	ETB	56	38	8	89	59	Y	122	7a	z
24	18	CAN	57	39	9	90	5a	Z	123	7b	{
25	19	EM	58	3a	:	91	5b	[	124	7c	
26	1a	SUB	59	3b	;	92	5c	¥	125	7d	}
27	1b	ESC	60	3c	<	93	5d	]	126	7e	~
28	1c	FS	61	3d	=	94	5e	^	127	7f	DEL
29	1d	GS	62	3e	>	95	5f	_			
30	1e	RS	63	3f	?	96	60	`			
31	1f	US	64	40	@	97	61	a			
32	20		65	41	A	98	62	b			

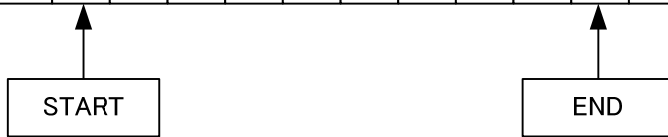
※ START, END, SUFFIX について

① START=4, END=13と指定された場合

バーコードの 4byte~13byte の文字を有効データとします



1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
-	-	-	S	C	R	I	P	T	F	I	L	E	+	+	+	Z	+	+	+	+



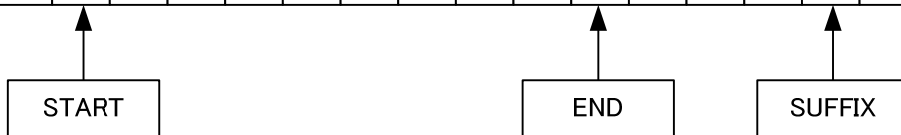
② START=4, END=13, SUFFIX='Z'と指定

バーコードの 16byte (Z:17byte の一つ手前) までプログラマは取得します

バーコードの 4byte~13byte の文字を有効データとします

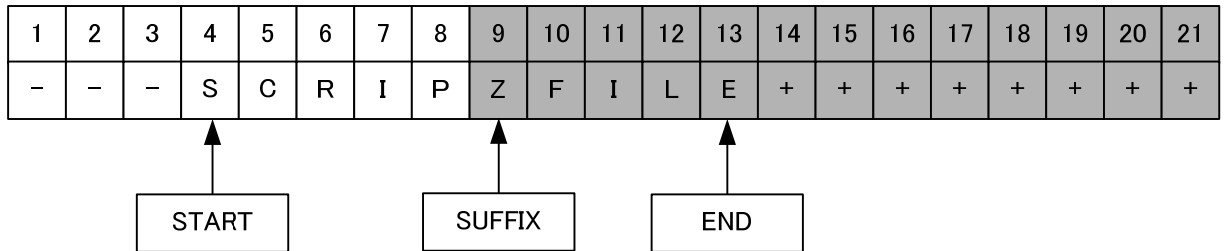


1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
-	-	-	S	C	R	I	P	T	F	I	L	E	+	+	+	Z	+	+	+	+

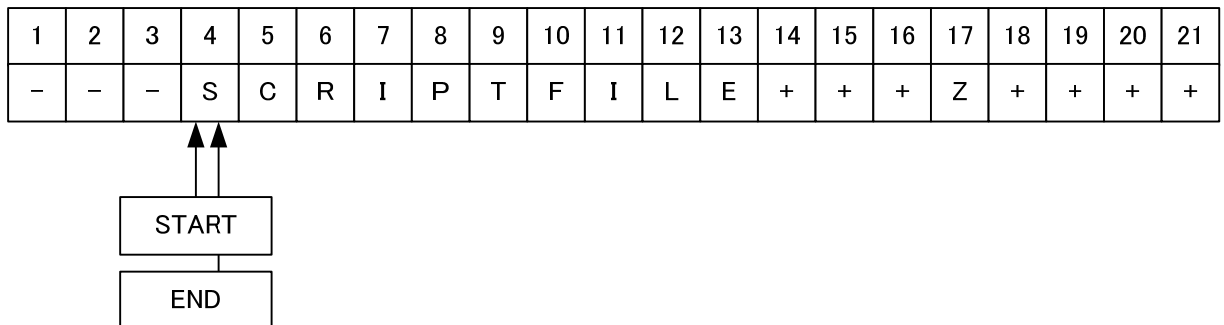




- ③ START=4, END=13, SUFFIX='Z'と指定  
 バーコードは 8byte (Z:9byte の一つ手前) まで取得します  
 END の前に SUFFIX があるためエラーとなります



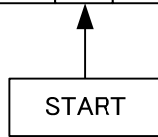
- ④ START=4, END=4 の場合  
 4byte 目のデータ'S'が有効データとなります



- ⑤ START=4 だけ指定された場合  
4byte 目～21byte 目までが有効データとなります



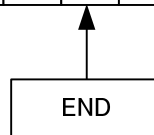
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
-	-	-	S	C	R	I	P	T	F	I	L	E	+	+	+	Z	+	+	+	+



- ⑥ END=13 だけ指定された場合  
1byte 目～13byte 目までが有効データとなります



1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
-	-	-	S	C	R	I	P	T	F	I	L	E	+	+	+	Z	+	+	+	+



## 【 実行モード 】

### (1) SCRIPT モード

#### ■ 概要

コンパクトフラッシュのルートに置かれたスクリプトファイル(拡張子:SCP)と、バーコードの情報を比較し一致したスクリプトファイルを実行します。

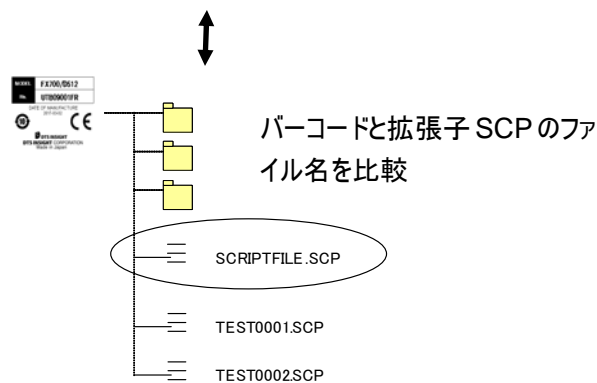
スクリプトファイルはお客様で作成／準備して頂く必要があります。  
比較するバーコードにはファイル名までで、拡張子は比較しません。

#### ■ 本モードでの YBO ファイル作成例

[	M	O	D	E	]														
S	C	R	I	P	T														
[	S	E	T	T	I	N	G	]											
S	T	A	R	T	=	0	0	0	4										
E	N	D	=	0	0	1	3												
[	E	N	D	]															

例: YBO ファイルが以下のように指定されている場合

以下のバーコードが読み込まれると、4～13 文字目の文字列で拡張子『SCP』のファイル名をルートディレクトリ上で検索し、見つかった場合はそのスクリプトファイルを実行します。



## (2) ORIGINAL モード

### ■ 概要

規定のフォーマットで作成されたバーコードを読み取り、NETIMPRESS next の制御を行えるモードです。コマンド一覧にある制御であれば複数コマンドを順番に実行することも可能です。

### ■ 本モードでの YBO ファイル作成例

[	M	O	D	E	]												
O	R	I	G	I	N	A	L										
[	S	E	T	T	I	N	G	]									
[	E	N	D	]													

### ■ フォーマット

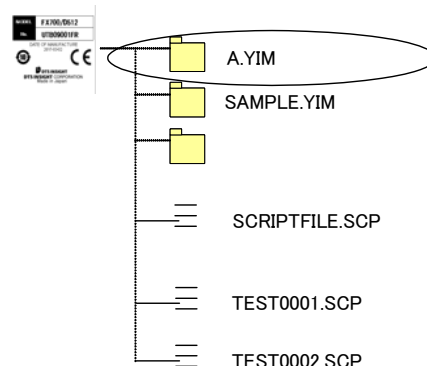


1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
①		②	③									②	③		④	
0	2	/	F	B	0	\$	A	.	Y	I	M	/	D	F	/	/

- ① コマンド数  
01~99(10進)
- ② コマンド区切り  
/ (固定)  
コマンド ⇔ コマンドの間は'/'を配置する
- ③ コマンド  
対応するコマンドを記述  
(コマンドと引数、引数と引数の間は'\$'を置く)
- ④ デリミタ(終端コード)  
// (固定)  
終端コードは 2byte

上記例のバーコードの場合、

1. 『FB0\$A.YIM』: A.YIM を選択
  2. 『DF』: EPR を実行
- の順に処理を実行されます。



## ■ コマンド

使用可能なコマンドは以下の通りとします。

コマンド	概略	内容／記述例
FB0	セレクトモジュール (SelectModule)	YIM フォルダの選択／ FB0\$SAMPLE.YIM
FF1	ロードファイル (LoadFile)	オブジェクトファイルのバッファロード／ FF1\$TEST.S
F2	バッファクリア (BufferClear)	バッファのクリア／ F2
D8	コピー (Copy)	コピーの実行／ D8
D9	ブランクチェック (Blank)	ブランクチェックの実行／ D9
DC	イレーズ (Erase)	イレーズ・ブランクチェックの実行／ DC
DD	プログラム (Program)	プログラム・ベリファイの実行／ DD
DE	ベリファイ (Read)	ベリファイの実行／ DE
DF	EPR	EPR の実行／ DF

## ■ 制限事項

1. バーコード長(データ受信開始～デリミタまで)は 0x800(2KB)までとします。  
0x800 を超える場合はエラーとします。

## ■ 注意事項

ORIGINAL モードをご使用になられる場合、ライタのファームウェアバージョンが 13.06 以上、AZ486 バージョンが 1.02 以上である必要がございます。  
ライタのファームウェアバージョンアップに関しては弊社までお問い合わせください。

### (3) SELECT モード

#### ■ 概要

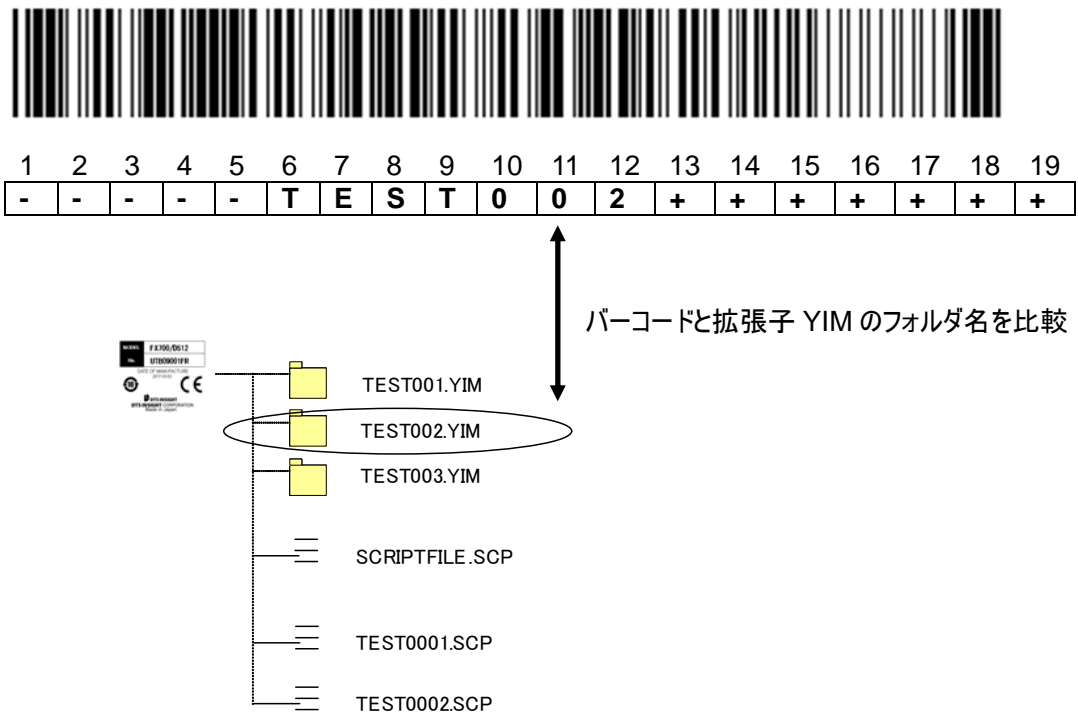
コンパクトフラッシュのルートに置かれた YIM フォルダ(拡張子: YIM のフォルダ)と、  
 バーコードの情報を比較し一致した YIM フォルダを選択します。  
 選択後、/XXX で指定されるデバイスファンクションを続けて実行します。

#### ■ 本モードでの YBO ファイル作成例

[	M	O	D	E	]														
S	E	L	E	C	T	/	E	P	R										
[	S	E	T	T	I	N	G	]											
S	T	A	R	T	=	0	0	0	6										
E	N	D	=	0	0	1	2												
[	E	N	D	]															

例: YBO ファイルが上記のように指定されている場合

以下のバーコードが読み込まれると、6~12 文字目の文字列で拡張子『YIM』のフォルダ名を  
 ルートディレクトリ上で検索し、見つかった場合は YIM フォルダを選択します。  
 フォルダ選択後、EPR を実行します。



## 4.2.4. Digital I/O の接続／使用例

## 【 概要 】

Digital I/O の入出力により、ライタの実行状態 (RUN 信号)、フラッシュへの書き込みまたはスクリプト実行の OK/NG の状態 (PASS, ERR 信号) の通知、スクリプトファイルの選択・実行を行うことが可能です。

## 【 スクリプト実行で使用する信号一覧 】

Signal Name	definition	Script ※2	I/O
Digital I/O ST0	Script選択信号0(Digital I/O 入力)	Script選択: bit0 ※3	I
Digital I/O ST1	Script選択信号1(Digital I/O 入力)	Script選択: bit1 ※3	I
Digital I/O ST2	Script選択信号2(Digital I/O 入力)	Script選択: bit2 ※3	I
Digital I/O ST3	Script選択信号3(Digital I/O 入力)	Script選択: bit3 ※3	I
Digital I/O ST4	Script選択信号4(Digital I/O 入力)	Script選択: bit4 ※3	I
Digital I/O IN0	Digital I/O 入力信号0	IN0	I
Digital I/O IN1	Digital I/O 入力信号1	IN1	I
Digital I/O IN2	Digital I/O 入力信号2	IN2	I
Digital I/O IN3	Digital I/O 入力信号3	IN3	I
Digital I/O IN4	Digital I/O 入力信号4	IN4	I
Digital I/O OUT0	Digital I/O 出力信号0	OUT0	O
Digital I/O OUT1	Digital I/O 出力信号1	OUT1	O
Digital I/O OUT2	Digital I/O 出力信号2	OUT2	O
Digital I/O OUT3	Digital I/O 出力信号3	OUT3	O
Digital I/O OUT4	Digital I/O 出力信号4	OUT4	O

※1: Digital I/O の全信号は『8.4 Digital I/O インターフェース』を参照下さい。

※2: OUT0～4, IN0～4 はスクリプトファイルで指定する Digital 出力／入力のコマンド名になります。

表では Signal Name との対応を示します。

※3: スクリプトファイル選択用の Bit0～4 の信号になります。

表では Signal Name との対応を示します。

Bit0～4 の選択信号と、スクリプトファイル名の対応表は以下の【 スクリプトの実行 】を参照下さい。

## 【 スクリプトファイル 】

スクリプトファイルは、Digital I/O の制御、フラッシュへの書込み実行、書込み品種の選択などをシーケンシャルに実行可能にした実行ファイルとなっています。

**スクリプトファイルは、スクリプト作成ソフト(AZ488)を使用して作成を行ってください。**

スクリプトファイルで実行可能なコマンド一覧:

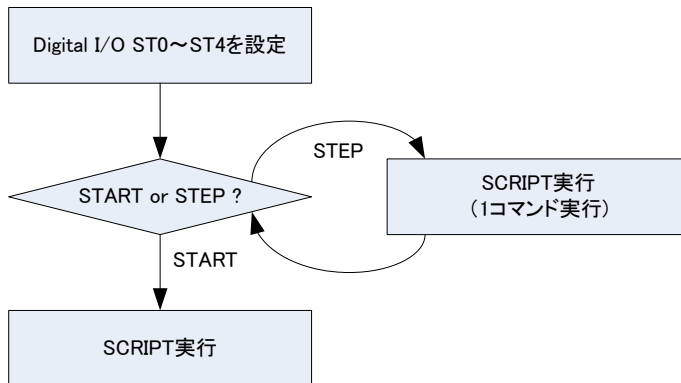
- ・ フォルダセレクト
- ・ バッファメモリクリア
- ・ ファイルロード
- ・ Digital I/O 出力 OUT0~OUT4
- ・ Digital I/O 入力 IN0~4
- ・ ウェイト指定
- ・ デバイスファンクション BLANK
- ・ デバイスファンクション ERASE
- ・ デバイスファンクション PROGRAM
- ・ デバイスファンクション READ
- ・ デバイスファンクション EPR



## 【 スクリプトの実行 】

スクリプト選択信号によるスクリプト実行は以下のように行います。

- a. Digital I/O ST0～ST4 のスクリプト選択信号で、実行するスクリプトファイルの選択を行います。
- b. START 信号の入力で、選択したスクリプトファイルが実行されます。  
(STEP 信号を入力した場合は、スクリプトファイルに記述されているコマンドを順番に実行します)



## 【 スクリプトファイル名 】

Digital I/O ST0~4 の入力信号と実行するスクリプトファイルの対応は以下の表の通りとなります。

**スクリプトファイル名は、固定となります。**

スクリプトファイルはコンパクトフラッシュのルートディレクトリに配置することで、実行可能となります。

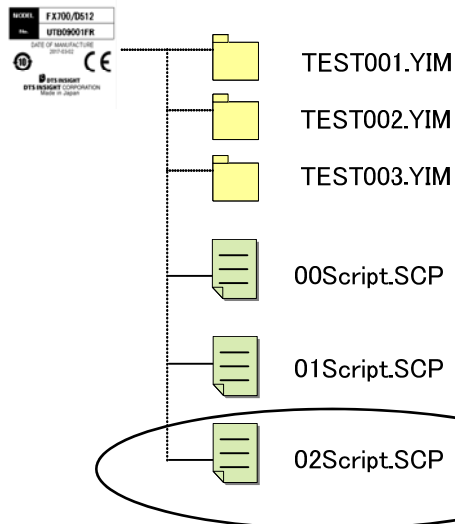
### XXScript. scp

※1 XX は 00~31 の 32 通りを指定できます。(必ず 2 文字である必要があります)

※2 ファイル名は半角英数字で大文字・小文字の区別に関係なく指定可能です。

### ■ Digital I/O ST0~4 の状態とスクリプトファイル名の対応表

ST4	ST3	ST2	ST1	ST0	スクリプトファイル名
0	0	0	0	0	00Script.scp
0	0	0	0	1	01Script.scp
0	0	0	1	0	02Script.scp
0	0	0	1	1	03Script.scp
0	0	1	0	0	04Script.scp
.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.
1	1	1	1	1	31Script.scp



## 4.3. その他 (NETIMPRESS next で追加された機能)

### 4.3.1. キーロック機能

NETIMPRESS next のキー入力をロックする機能です。

#### 【 操作方法 】

RESET キーを 3 秒以上長押しします。

モードは二種類あり、全てのキーが有効になる FULL KEY MODE、一部キー (RESET, EXE1, EXE2) が有効になる SINGLE KEY MODE があります。

モードは、FULL KEY MODE→SINGLE KEY MODE→FULL・・・と交互に切り替わります。

#### 4.3.2. ログ機能

ライト実行履歴を、コンパクトフラッシュに保存するための機能です。  
実行した内容をログファイル(csv 形式)で保存します。

##### 【 使用方法 】

ファンクション: FUNC-CA0 でログの ON/OFF の設定が行えます。  
ログを出力する場合は、FUNC-CA0 で簡易ログモード、FULL ログモードを指定してください。

##### 【 ログのフォーマット 】

ログファイルに記述されるフォーマットは以下のようになります。

##### 日時, コマンド, オプション, 実行結果

- ※ 1 日時  
コマンドの開始時間を表示  
YYYY/MM/DD hh:mm:ss の形式 2013/04/22 15:33:40
- ※ 2 コマンド  
ファンクションコマンド:  
デバイスファンクション: EPR START ← EPR の実行開始時を表す (START を付与)  
EPR END ← EPR の終了時を表す (END を付与)
- ※ 3 オプション (Max 255 文字表示可能)  
※2 のコマンド実行で、ダウンロードしたファイルや、チェンジしたフォルダ名などを表示する。  
Ex: TEST.YIM, 12345678.S, OOOOXXXX.HEX
- ※ 4 実行結果 (Max 255 文字表示可能)  
正常終了: OK  
異常終了: 出力されるエラー番号:メッセージ

##### 簡易ログモード:

デバイスファンクション、EXE キー機能、スクリプト実行の開始と終了のログのみ出力します。

例: EPR を実行した場合

```
START EPR      Exnnn.YIM(Fxnnn/MP バージョン/CM バージョン)   OK
END EPR                               OK
```

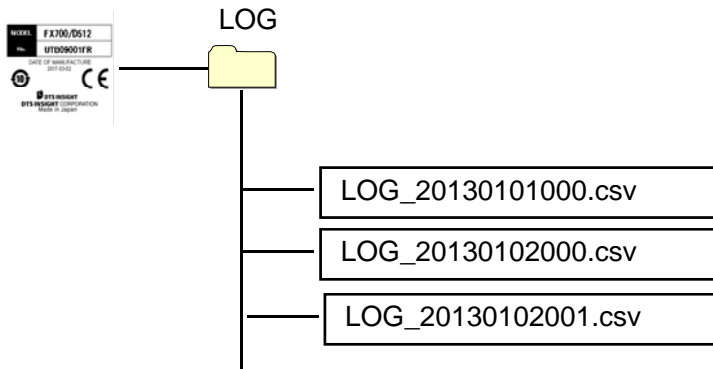
##### FULL ログモード:

各種ファンクション、デバイスファンクション、EXE キー機能、スクリプト実行履歴を全てログに保存します。

## 【保存】

LOG はコンパクトフラッシュ内の“LOG”フォルダ内に拡張子 csv の形式で保存されます。

LOG フォルダはコンパクトフラッシュのルートの下下に作成されます。



LOG のファイル名は以下のように規定されます。

ファイル名: 『LOG\_年月日 xxx.csv』

例: LOG\_20130101000.csv

※1 xxx はファイル番号を示します。

一つの LOG ファイルで 256kbyte までデータを保存することが可能です。

同じ日付内で 256kbyte を超えた場合は、ファイル番号をインクリメントして新規に LOG ファイルを作成します。

LOG\_20130101000.csv

LOG\_20130101001.csv



256kbyte 以上となったら  
ファイルを新規作成して  
ログ保存をする

※2 xxx の上限値は 999 になります。

※3 1 つのログファイルに保存可能なログは、デバイスファンクション EPR の実行であれば、1500～2000 回分の保存が可能です。

## 【 削除 】

古いログファイルは自動的に消去されます。

(『5.8.4 ログ消去設定 (Function CA8)』で NOT DELETE を選択している場合は消去されません)

ログファイルの保持期間(現在時間から何ヶ月間保持する)は『5.8.4 ログ消去設定 (Function CA8)』で設定することができます。

### 4.3.3. 時計機能(RTC)

NETIMPRESS next はログファイル等実行時間の出力を行うために RTC を内蔵しています。

デフォルトの現在時刻は日本時間が設定されております。

使用される地域／国で時刻が異なる場合は、お客様で現在時間の設定を行って下さい。

(時計の設定は、リモートコントローラ:AZ490 からデフォルト時間の±1 日の範囲で指定可能です)

## 5. コマンド一覧

NETIMPRESS next のコマンド入力により操作可能なファンクションの一覧及び、その詳細について本章に記述されています。

『5.2 ファイル操作』～の各コマンドの詳細について、【 操作 】、【 表示部 】は以下の内容となります。

【 操作 】 : NETIMPRESS next のコマンド入力操作

【 表示部 】 : NETIMPRESS next の LCD 表示

### 5.1. ファンクション一覧表

コマンド	コマンド内容	コマンドキー
<b>ファイル操作</b>		
ファイルロード	コントロールモジュールからバッファメモリへファイル呼び出す	"FUNC","F1"
ファイルセーブ	バッファメモリをコントロールモジュールへファイルとして保存する	"FUNC","F2"
ファイルパーシ	コントロールモジュール内のファイルを削除する	"FUNC","F3"
カレントファイル表示	バッファメモリに読み込んでいるファイル名を表示する	"FUNC","F4"
転送アドレス設定	バッファメモリのアドレス範囲を設定する	"FUNC","F5"
全ファイル削除	コントロールモジュールのルートディレクトリに存在するファイルを全部消去する	"FUNC","F7"
クイックフォーマット	コンパクトフラッシュのフォーマットを実行する。	"FUNC","FA"
通常フォーマット	コンパクトフラッシュをファイルシステム選択つき(FAT16 or FAT32)でフォーマットする。	"FUNC","FC"
<b>バッファエリア編集</b>		
エディット	バッファメモリの内容を変更する	
ブロックストア	バッファメモリの任意の範囲を任意のデータに変更する	"FUNC","1"
バッファクリア	バッファメモリを初期化状態のデータに変更する	"FUNC","2"
モデファイビットサーチ	バッファメモリのデータ変更されたアドレスを表示する	"FUNC","3"
サム値表示	バッファメモリのデータのサム値を表示する	"FUNC","93"
YSM File Check	YSMファイルを使ったサムチェックを行う	"FUNC","98"
<b>パラメータ設定</b>		
実行領域設定	デバイスファンクションの実行範囲アドレスを設定する	"FUNC","0"
UART/CSI 切替	NETIMPRESS next とターゲットシステム間の通信路を設定する	"FUNC","D1"
UART 通信速度設定	UART で通信する場合の通信速度を設定する	"FUNC","D2"
TVcc スレッシュホールド設定	ターゲットシステムの動作電圧を設定する	"FUNC","D3"
MCU モード設定	ターゲット MCU のモード切替	"FUNC","D4"
ウォッチドックタイマ設定	ターゲットシステムのウォッチドックタイマ回路に送るパルスの設定	"FUNC","D5"
フラッシュメモリエリア表示	ターゲットMCUのフラッシュメモリエリアを表示する	"FUNC","D6"
通信チャンネル設定	NETIMPRESS next とターゲットシステムの通信チャンネル設定	"FUNC","D7"
表示型名変更	NETIMPRESS next に表示されている型名の変更を行なう	"FUNC","D8"
CSI 通信速度設定	CSI で通信する場合の通信速度を設定する	"FUNC","D9"
データフォーマット設定	データフォーマットを指定する(50:インテル HEX,60:モトローラ S)	"FUNC","5"
MCU動作周波数設定	MCUを動作させる周波数を設定する	"FUNC","DF"
バージョン表示	バージョンを表示する	"FUNC","94"
ペリファイモード切替	リードチェックのモードを設定する	"FUNC","99"
バッファメモリニシャルモード切替	NETIMPRESS next 起動時およびYIMフォルダ切り替え時、バッファメモリの保持/消去の切替えを行う	"FUNC","9A"
ライセンス表示	定義体交換機能でダウンロード可能なライセンスを表示する	"FUNC","9B"
SUM 値表示切替	SUM 値の計算方法(8/16bit 加算)、表示方法(8/16bit)を設定する	"FUNC","9C"
ADDRESS WARNING 表示切替	対象フラッシュメモリ領域外のデータロード時の WARNING 表示(ON/OFF)設定	"FUNC","9E"
ADDRESS WARNING 表示切替	NETIMPRESS next 起動時もしくはフォルダ選択時での対象フラッシュメモリ領域設定不一致確認の WARNING 表示(ON/OFF)設定	"FUNC","9F"
シリアル番号表示	シリアル番号を表示する	"FUNC","AE"
ライセンス追加	定義体交換機能でダウンロード可能なライセンスを追加する	"FUNC","AF"

<b>コントロールモジュール関連</b>		
YIMフォルダ切替え	コントロールモジュールのルートディレクトリにあるYIMフォルダの切替えを行う	"FUNC","B0"
YIMフォルダ作成	コントロールモジュールのルートディレクトリへYIMフォルダの作成を行う	"FUNC","B1"
YIMフォルダ消去	コントロールモジュールのルートディレクトリにあるYIMフォルダの消去を行う	"FUNC","B2"
YIMフォルダ複製	コントロールモジュールのルートディレクトリにあるYIMフォルダの複製を行う	"FUNC","B3"
カレントYIMフォルダのプロテクト設定	カレントYIMフォルダのプロテクトを設定する	"FUNC","B4"
カレントYIMフォルダの保存設定	カレントYIMフォルダの保存を設定する	"FUNC","B5"
YIMフォルダ表示	現在選択されているYIMフォルダを表示する	"FUNC","B6"
カレントYMNファイル設定	実行したいYMNファイルを設定する	"FUNC","BC"
カレントYMNファイル実行	選択されたYMNファイルを実行する	"FUNC","BD"
<b>Ethernet設定</b>		
IP アドレス/ポート設定	NETIMPRESS next の IP アドレス、ポート番号を設定する	"FUNC","E2"
ゲートウェイアドレス設定	NETIMPRESS next のデフォルトゲートウェイを設定する	"FUNC","E3"
サブネットマスク設定	NETIMPRESS next のサブネットマスクを設定する	"FUNC","E4"
通信速度/通信モード設定	NETIMPRESS next の通信速度/通信モード設定	"FUNC","E8"
<b>ログ操作</b>		
ログの ON/OFF	実行ログの ON/OFF のモードを設定する	"FUNC","CA0"
ログ消去	実行ログファイルを消去する	"FUNC","CA5"
ログ全消去	実行ログファイルを全て消去する	"FUNC","CA6"
ログ消去設定	実行ログの自動消去の期間を設定する	"FUNC","CA8"
<b>I/F 設定</b>		
ケーブルセレクト設定	NETIMPRESS next のシリアル/CAN の通信切り替えの設定をする	"FUNC","CD0"
DI/O 入力フィルタ設定	Digital I/O の入力信号の入力フィルタ時間の設定をする	"FUNC","CD1"



## 5.2. ファイル操作

### 5.2.1. ファイル呼出し(File Load)

コントロールモジュール内にあるオブジェクトファイルを呼び出します。

#### 【 操作 】

FUNC	F	1	...	ファイルロードのコマンド
▲	▼		...	ロードを行なうファイル名の選択
SET	FUNC	SET	...	バッファメモリ上にオブジェクトファイルのロードを実行

#### 操作例 )

コントロールモジュール内にある“DAT128K.BIN”ファイルをロードします。

#### 【 操作 】

キー操作

FUNC	F	1
------	---	---

ファイルロードのコマンド

▲	▼
---	---

“DAT128K.BIN”を選択

SET	FUNC	SET
-----	------	-----

読み込みを実行

#### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
				/	x	x	x	x	/								
F	F	1	/	F	I	L	E			L	O	A	D				
				T	E	S	T	1	.	H	E	X					

4行目

/		D	A	T	1	2	8	K	.	B	I	N
---	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(ファイル名が表示されるので選択)

3行目

D	O	W	N	L	O	A	D	.	.	.	B	I	N
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(ロード中は表示し、終了すると表示が消去)

## 5.2.2. ファイル書込み (File Save)

NETIMPRESS next のバッファメモリの内容をオブジェクトファイルとしてコンパクトフラッシュ内のルートディレクトリ上に書き込みます。

編集をしたデータを差分ファイルとしてセーブする場合には、自動的に作成される編集オブジェクトファイル(カレントファイル名に3桁の数字が付加されたファイル)に書き込みます。

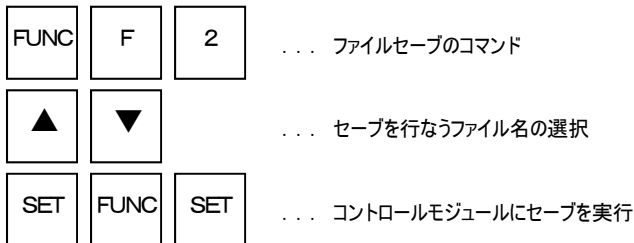
新規のオブジェクトファイルとしてセーブする場合には、中身が空のファイルを選択して書き込みます。

あらかじめ空ファイルを用意していない場合は、RAMxxx.BIN , RAMxxx.S , RAMxxx.HEX を選択してください。

\* 1 差分ファイル: オブジェクトの変更部分のみ保存したファイルを差分ファイルと呼びます。

\* 2 本器ご使用に当たっては中身が空のオブジェクトファイルをあらかじめご用意いただくと便利です。

### 【 操作 】



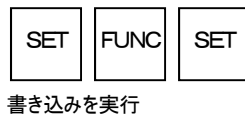
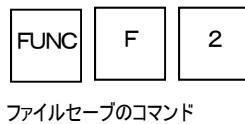
### 操作例 )

編集したデータを、差分ファイルとしてセーブします。

(カレントファイル名は“DAT128K.BIN”)

### 【 操作 】

キー操作



### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
F	F	2	/	F	I	L	E			S	A	V	E						
					D	A	T	1	2	8	K	0	0	0					

(差分ファイルをセーブする際にはファイルが自動作成されるのでそのまま書き込みを実行)



## 5.2.3. ファイル消去 (File Purge)

コントロールモジュール内にあるオブジェクトファイルを消去します。

### 【 操作 】

- |      |   |   |
|------|---|---|
| FUNC | F | 3 |
|------|---|---|

...
ファイルパージ(デリート)のコマンド
- |   |   |
|---|---|
| ▲ | ▼ |
|---|---|

...
パージするファイルを選択
- |     |      |     |
|-----|------|-----|
| SET | FUNC | SET |
|-----|------|-----|

...
ファイルパージを実行
- |     |    |       |
|-----|----|-------|
| SET | or | RESET |
|-----|----|-------|

...
消去する場合は SET キーを、消去を止める場合は RESET キーを押して下さい。

### 操作例 )

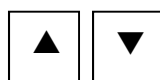
コントロールモジュール内にある“DAT128K.BIN”ファイルを消去します。

### 【 操作 】

キー操作



ファイルパージのコマンド



“DAT128K.BIN”ファイルを選択



パージコマンドの実行



消去を実行

### 【 表示部 】

LCD表示 (全体)

F	x	n	n	n													
				/	x	x	x	x	/								
F	F	3	/	F	I	L	E	D	E	L	E	T	E				
				T	E	S	T	1	.	H	E	X					

4行目

				D	A	T	1	2	8	K	.	B	I	N				
--	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--

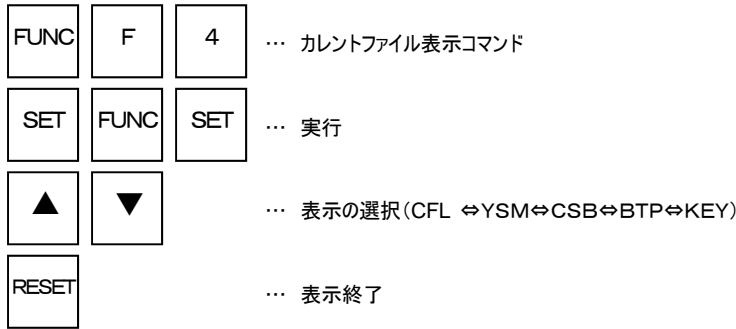
3行目

F	I	L	E	D	E	L	E	T	E	O	K	?						
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--

## 5.2.4. カレントファイル表示 (Function F4)

バッファメモリにロードされているカレントファイル名を表示します。  
 また、KEYファイル、BTPファイル、YSMファイル、CSBファイルを表示します。  
 ファイルがない場合は、NO FILEと表示されます。

### 【 操作 】



### 注 ) NETIMPRESS 表示部

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
F	F	4	/	C	U	R	R	E	N	T	F	I	L	E					
C	F	L	:	D	A	T	1	2	8	.	B	I	N						

CFL . . . カレントファイル  
 YSM . . . YSM ファイル  
 CSB . . . CSB ファイル  
 BTP . . . BTP ファイル  
 KEY . . . KEY ファイル

(網掛けになっているところの表示部分が選択項目を表している)

### 注意 )

コントロールモジュールによって未対応の機能がございます。  
 この場合、未対応の項目は表示されませんのでご注意ください。

- \* YSM ファイル : サムチェック機能を利用する際に必要となります。  
 詳細は“7.サムチェック機能”をご覧ください。
- \* CSB ファイル : ワンアクションキー機能を利用する際に必要となります。  
 詳細は“6.コマンドシーケンス機能”をご覧ください。
- \* BTP ファイル : MCU へ書き込む際の書き込み制御プログラムです。  
 MCU の種類により必要な場合がございます。  
 詳細は各コントロールモジュールのマニュアルをご覧ください。
- \* KEY ファイル : セキュリティ機能がある MCU では KEY ファイルが必要な場合がございます。  
 詳細は各コントロールモジュールのマニュアルをご覧ください。

### 操作例 )

カレントファイル、BTPファイル、KEYファイル、YSMファイル、CSBファイルを表示します。

## 【 操作 】

キー操作



カレントファイル表示のコマンド



コマンド実行 → カレントファイル表示



YSMファイル表示



CSBファイル表示



BTPファイル表示



KEYファイル表示



表示終了

## 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n																			
			/	x	x	x	x	/															
F	F	4	/	C	U	R	R	E	N	T									F	I	L	E	

4行目

C	F	L	:	D	A	T	1	2	8	K	.	B	I	N
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(カレントファイル表示。先頭がCFLとなる)

4行目

Y	S	M	:	D	A	T	1	2	8	K	.	Y	S	M
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(YSMファイル表示。先頭がYSMとなる)

4行目

C	S	B	:	D	A	T	1	2	8	K	.	C	S	B
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(CSBファイル表示。先頭がCSBとなる)

4行目

B	T	P	:	D	A	T	1	2	8	K	.	B	T	P
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(BTPファイル表示。先頭がBTPとなる)

4行目

K	E	Y	:	D	A	T	1	2	8	K	.	B	I	N
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

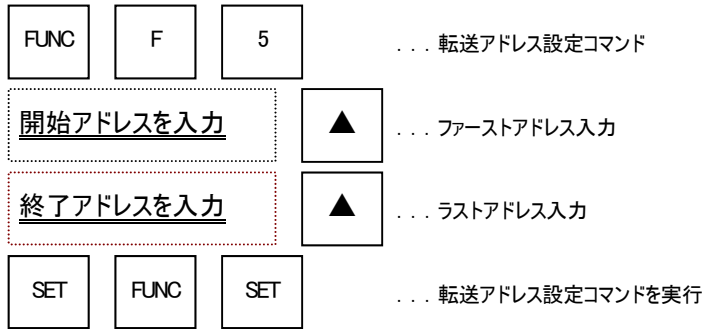
(KEYファイル表示。先頭がKEYとなる)

## 5.2.5. 転送アドレス設定 (Function F5)

オブジェクトファイルのロード、セーブを行なう際のバッファメモリ範囲設定を行ないます。

オブジェクトファイルが、インテル HEX または、モトローラ S フォーマットの場合は、ファイル内にアドレスの記述があるためファイルロード時、設定が無効となります。

### 【 操作 】



注 ) アドレス入力中の NETIMPRESS 表示部

F	x	n	n	n																
				/	x	x	x	x	/											
F	F	5	/	B	U	F	F	E	R	A	R	E	A							
F	-	A	D	D	R	/				F	E	0	0	0	0					

-F-ADDR ... ファーストアドレス  
-L-ADDR ... ラストアドレス

(網掛けになっているところの表示部分が選択項目を表している)

## 操作例 )

ファーストアドレスを“FE0000”、ラストアドレスを“FFFFFF”に変更する。

### 【 操作 】

キー操作

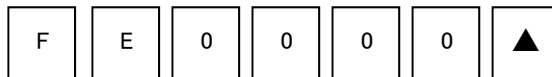


転送アドレス設定コマンド

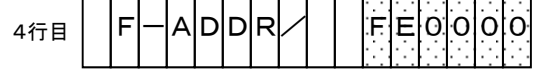
### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
				/	x	x	x	x	/								
F	F	5	/	B	U	F	F	E	R		A	R	E	A			
F	-	A	D	D	R	/					F	C	0	0	0	0	

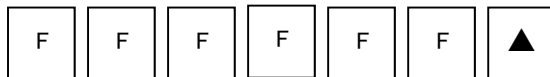


ファーストアドレスを入力



4行目

(項目表示部分が“F-ADDR”であることを確認)



ラストアドレスを入力



4行目

(項目表示部分が“L-ADDR”であることを確認)



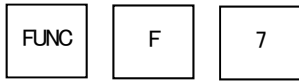
転送アドレス設定を実行

## 5.2.6. 全ファイル削除 (Function F7)

コンパクトフラッシュのルートディレクトリに存在するオブジェクトファイルを、拡張子に関係なくすべて削除します。

### 【 操作 】

キー操作



コマンド入力



実行



全ファイル削除

### 【 表示部 】

LCD表示 (全体)

F	x	n	n	n													
				/	x	x	x	x	/								
F	F	7	/	A	L	L	D	E	L	E	T	E					

3行目

A	L	L	D	E	L	E	T	E	?								
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--

実行すると、上記のような表示がされる

OK → SET

NG → RESET



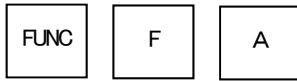
## 5.2.7. クイックフォーマット(Function FA)

コンパクトフラッシュのフォーマットを実行します。

本コマンドでフォーマットする場合、ファイルシステムはフォーマット前と同様です。

### 【 操作 】

キー操作



クイックフォーマットコマンド



実行



クイックフォーマット

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
			/	x	x	x	x	/									
F	F	A	/	Q	U	I	C	K	F	O	R	M	A	T			

3行目

Q	U	I	C	K	F	O	R	M	A	T	?
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

実行すると、上記のような表示がされる

OK → SET

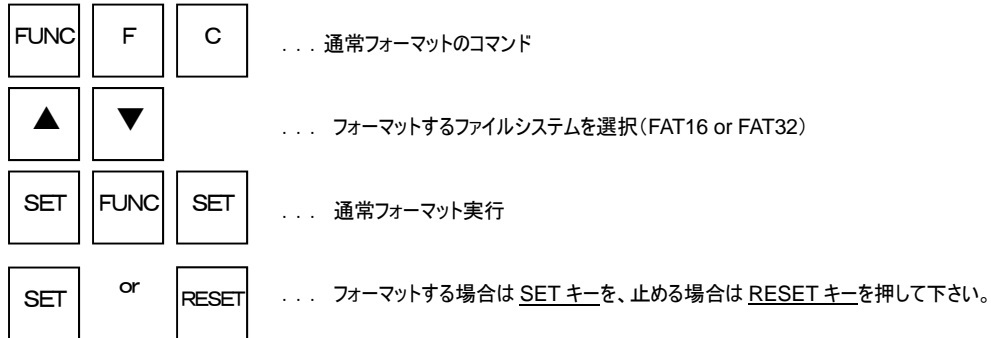
NG → RESET

## 5.2.8. 通常フォーマット(Function FC)

コンパクトフラッシュのフォーマットをファイルシステム選択つきで実行します。

選択可能なファイルシステムは FAT16 または FAT32 となります。

また、本コマンドを実行することで現在フォーマットされているファイルシステムの確認も行えます。詳細は以下の操作例を参照してください。

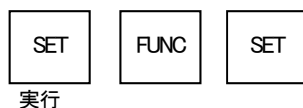
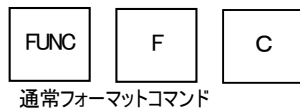


### 操作例 )

ファイルシステム FAT16 でフォーマットされいているコンパクトフラッシュを FAT32 へ変更してフォーマットする。

#### 【 操作 】

キー操作



#### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
				/	x	x	x	x	/								
F	F	C	/	C	F					F	O	R	M	A	T		
F	A	T	1	6						F	O	R	M	A	T		



現在フォーマットされているファイルシステムが表示されます。フォーマットされているのが FAT32 の場合は "FAT32 FORMAT"と表示されます。

4行目

F	A	T	3	2						F	O	R	M	A	T		
---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	---	---	---	---	---	---	--	--

▲▼で FAT16→FAT32→FAT16・・・と切り替える

3行目

F	A	T	3	2						F	O	R	M	A	T	?	
---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	--

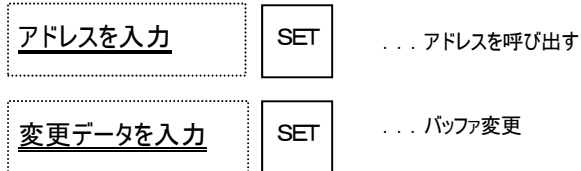
▲▼で選択したファイルシステムを表示

## 5.3. バッファメモリ編集

### 5.3.1. バッファメモリ内容の変更(EDIT)

任意のアドレスを呼出し、該当アドレスのバッファメモリの内容を編集します。

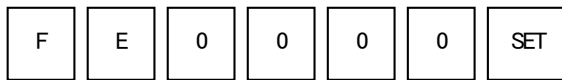
#### 【 操作 】



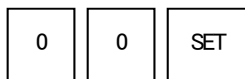
#### 操作例 )

アドレス“FE0000”番地のバッファを“00”に変更します。

#### 【 操作 】



“FE0000”アドレスを呼び出す



バッファを“00”変更

#### 【 表示部 】

F	x	n	n	n																
				/	x	x	x	x	/											
/					F	E	0	0	0	0	/	F	F	/						

3行目

/				F	E	0	0	0	0	/	0	0	/						
---	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--

(変更されると次のアドレスに移動)

#### \* バッファメモリ

MCU へ書き込むデータを保存する場所です。

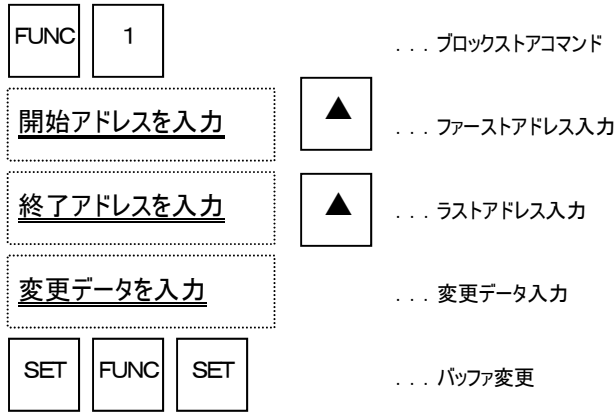
オブジェクトファイルをバッファメモリにロードすることにより、バイナリデータへ変換され保存されます。

バッファメモリは PC カード上に存在するため、NETIMPRESS の電源を OFF にしてもバッファメモリのデータは保持されます。

## 5.3.2. バッファメモリ内容の変更 (Block Store)

バッファメモリ内の一部を任意かつ同一データで埋めつくします。

### 【 操作 】



注 ) アドレス、データ入力中の、NETIMPRESS の表示部

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
F	1	/	B	L	O	C	K	S	T	O	R	E							
F	-	A	D	D	R	/		F	E	0	0	0	0						

- F-ADDR ... ファーストアドレス
- L-ADDR ... ラストアドレス
- DATA ... 変更データ

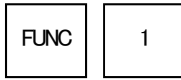
(網掛けになっているところの表示部分が選択項目を表している)

## 操作例 )

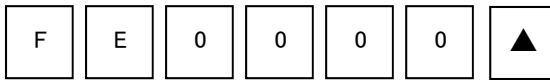
アドレス“FE0000”から“FEFFFF”番地までのバッファを“55”に変更します。

### 【 操作 】

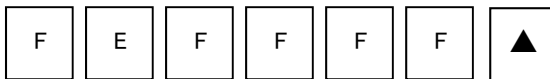
キー操作



ブロックストアコマンド



ファーストアドレス入力



ラストアドレス入力



変更データ入力



バッファ変更

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n											
			/	x	x	x	x	/							
F	1	/	B	L	O	C	K		S	T	O	R	E		
F	-	A	D	D	R	/			F	C	0	0	0	0	

4行目

F	-	A	D	D	R	/			F	E	0	0	0	0	
---	---	---	---	---	---	---	--	--	---	---	---	---	---	---	--

(項目表示部分が“-F”であることを確認)

4行目

L	-	A	D	D	R	/			F	E	F	F	F	F	
---	---	---	---	---	---	---	--	--	---	---	---	---	---	---	--

(項目表示部分が“-L”であることを確認)

4行目

		-	D	A	T	A	/	5	5						
--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--

(項目表示部分が“-DATA”であることを確認)

### 5.3.3. バッファメモリの初期化 (Buffer Clear)

フラッシュメモリ相当領域 (Function D6 で表示される領域) のバッファメモリを初期化します。

#### 【 操作 】

FUNC	2	...	バッファクリアコマンド	
SET	FUNC	SET	...	バッファクリア実行

\* 初期化

バッファメモリ初期化時のデータはコントロールモジュールにより異なり、“00”または“FF”となります。(データ内容につきましては各コントロールモジュールのマニュアルをご覧ください)

## 5.3.4. 変更データ検索 (Modified Bit Search)

フラッシュメモリ相当領域 (Function D6) のバッファメモリの内容を書き換えられたアドレスを検索して表示します。

### 【 操作 】

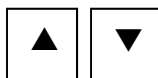
キー操作



サーチコマンド



サーチ実行



(▲は次表示、▼は前表示)

サーチされたアドレスの表示

### 【 表示部 】

LCD表示 (全体)

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
F	3	/	M	-	B	I	T		S	E	A	R	C	H					

3行目

					M	-	B	I	T		S	E	A	R	C	H	.	.	.
--	--	--	--	--	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---

【変更されたデータがある場合】

3行目

					M	-	B	I	T		S	E	A	R	C	H			
					M	/					F	E	0	0	0	/	1	1	

4行目

(変更されたアドレスを表示)

【変更されたデータがない場合】

3行目


4行目

(なにも表示されない)

## 5.3.5. サム値表示 (Function 93)

バッファメモリにロードされているオブジェクトのサム値を表示します。

表示されるサム値は下記の2種類です。

FO : Function 0 で設定されるデバイスファンクション実行エリアのサム値

FF5 : Function F5 で設定されるバッファメモリエリアのサム値

### 【 操作 】

キー操作



サム値表示コマンド



実行



表示終了

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
F	9	3	/	S	U	M		C	A	L	C								

3行目

S	U	M		C	A	L	C	.	.	.									
---	---	---	--	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

3行目

F	0			S	U	M	/											0	1
---	---	--	--	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---

4行目

F	F	5		S	U	M	/											0	1
---	---	---	--	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---

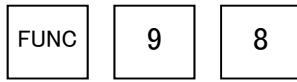


## 5.3.6. YSM File Check (Function 98)

YSMファイルの内容とバッファメモリの内容を比較します。  
 詳細は本マニュアルの“7.サムチェック機能”をご覧ください。

### 【 操作 】

キー操作



サム値表示コマンド



実行



表示終了

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n															
			/	x	x	x	x	/											
F	9	8	/	Y	S	M		C	H	E	C	K							

3行目

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

3行目

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

チェックが PASS の時に表示されます。  
 エラーの時はエラー箇所が表示されます。

### エラー表示

- YSM NOT FOUND

原因: YSMファイルが存在しないときに表示されます。

対処: YSMファイルを YIM フォルダ内に配置してください。
- YSM FILE FORMAT ERROR

原因: YSMファイルの記述に誤りがあるか、ファイルが壊れています。

対処: YSMファイルの内容を確認し正しいフォーマットで記述してください。
- YSM CHECK ERROR YSM/XX RAM/YY

チェック中、サム値が異なる場合に表示されます。

XX にはYSMファイルに記述されているサム値が、

YY にはバッファメモリのサム値が表示されます。
- YSM CHECK ERROR ADDRESS:ZZZZZZZ

チェック中、YSMファイルに記述されているデータとバッファメモリのデータが異なるときに表示されま

す。

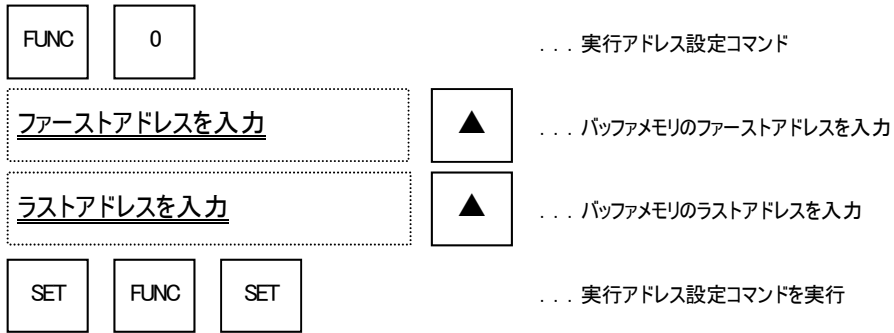
ZZZZZZZ にデータが異なるアドレスが表示されます。

## 5.4. パラメータ設定

### 5.4.1. 実行アドレス設定 (Function 0)

デバイスファンクション実行時の対象領域設定を行ないます。

#### 【 操作 】



注 ) アドレス入力中の NETIMPRESS 表示部

F	x	n	n	n												
				/	x	x	x	x	/							
F	0	/	E	X	E	C	U	T	E	A	R	E	A			
			F	A	D	D	R	/			F	E	0	0	0	0

F-ADDR ... ファーストアドレス  
L-ADDR ... ラストアドレス

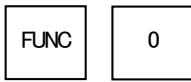
(網掛けになっているところの表示部分が選択項目を表している)

## 操作例 )

ファーストアドレスを“FE0000”、ラストアドレスを“FFFFFF”に変更します。

### 【 操作 】

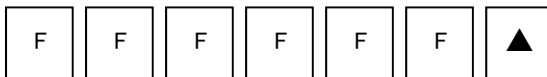
キー操作



実行アドレス設定コマンド



ファーストアドレスを入力



ラストアドレスを入力



実行アドレス設定を実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n											
				/	x	x	x	x	/						
F	O	/	E	X	E	C	U	T	E	A	R	E	A		
F	-	A	D	D	R	/				F	C	0	0	0	0

4行目

F	-	A	D	D	R	/									

(項目表示部分が“F”であることを確認)

4行目

L	-	A	D	D	R	/									

(項目表示部分が“L”であることを確認)

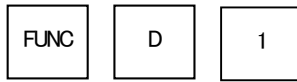
## 5.4.2. 通信路設定 (Function D1)

NETIMPRESS next とターゲットシステム間の通信路の設定を行ないます。

通信路は“UART”，“CSI”の設定が行なえますのでMCUの仕様に合わせて設定して下さい。

### 【 操作 】

キー操作



通進路設定コマンド



通信路の選択



通信路設定を実行

### 【 表示部 】

LCD表示 (全体)

F	x	n	n	n													
				/	x	x	x	x	/								
F	D	1	/	T	G	T		I	T	F							
				S	C	I	/	C	S	I							

4行目				S	C	I	/	U	A	R	T						
4行目				S	C	I	/	C	S	I							

(▲, ▼でUART or CSI を選択)

## 5.4.3. UART通信速度設定(Function D2)

NETIMPRESS とターゲットシステム間の通信がUARTの場合、UARTの通信速度の設定を行いません。

通信ボーレートは“2400”～“2M”の設定が行なえますのでMCUの仕様に合わせて設定して下さい。

### 【 操作 】

キー操作



通信速度設定コマンド



通信速度の選択



通信速度設定を実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
			/	x	x	x	x	/									
F	D	2	/	U	A	R	T	B	A	U	D						
								2	4	0	0	b	p	s			

4行目

								X	X	X	X	b	p	s			
--	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--

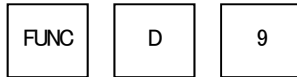
(▲, ▼で通信速度を選択)

## 5.4.4. CSI通信速度設定(Function D9)

NETIMPRESSとターゲットシステム間の通信がCSIの場合、CSIの通信速度の設定を行いません。  
通信ボーレートは“62.5K”～“10M”の設定が行なえますのでMCUの仕様に合わせて設定して下さい。

### 【 操作 】

キー操作



通信速度設定コマンド



通信速度の選択



通信速度設定を実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n																
				/	x	x	x	x	/										
F	D	9	/	C	S	I		B	A	U	D								
					6	2			5	K	b	p	s						

4行目

								X	X	X	X	b	p	s					
--	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--

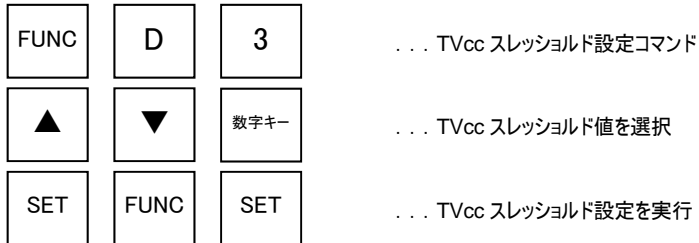
(▲, ▼で通信速度を選択)

## 5.4.5. TVccスレッシュールド設定(Function D3)

ターゲットシステムの最低動作電圧を設定します。

ターゲットシステムの電源 OFF の検出用になっていますので、必ず設定して下さい。

### 【 操作 】

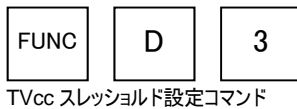


### 操作例 )

TVcc スレッシュールド値を“4.5V”に変更する。

### 【 操作 】

キー操作



### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
				/	x	x	x	x	/								
F	D	3	/	T	V	C	C	T	H	R	E	S	H				
								3.	0	V							

4行目


(▲, ▼でTVccスレッシュールド値を選択)

(または数字キーで直接入力)

\* NETIMPRESS next の TVcc 検出精度は(設定値 ± 0.1V)です。

## 5.4.6. MCUモード設定(Function D4)

MCUのモードを設定します。

MCUの種類によって対応していないものがございます。

詳細はコントロールモジュールのマニュアルをご確認ください。

### 【 操作 】

キー操作



MCUモード設定コマンド



モードを選択



実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
F	D	4	/	T	G	T				M	O	D	E						

4行目

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(▲, ▼でモードを選択)

### 注意 )

表示はMCUによって異なりますのでご注意ください。



## 5.4.7. ウォッチドックタイマ設定(Function D5)

ウォッチドックタイマの周期を 1ms 単位で 1ms から 200ms の範囲で設定します。

## 【 操作 】

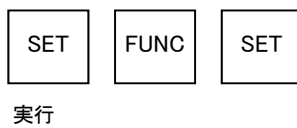
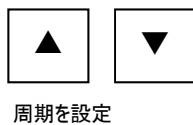


## 操作例 )

ウォッチドックタイマ周期を10msに設定する。

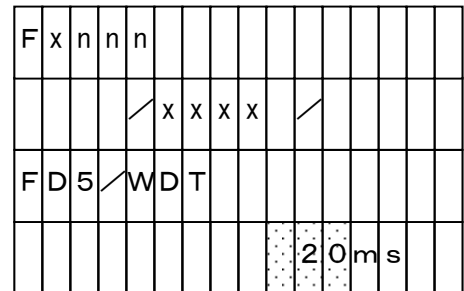
## 【 操作 】

キー操作



## 【 表示部 】

LCD表示(全体)



## 5.4.8. フラッシュメモリエリア表示 (Function D6)

ターゲットMCUのフラッシュメモリエリアを表示します。

### 表示部 )

F-ADDR: フラッシュメモリエリアのファーストアドレスを示す。

L-ADDR: フラッシュメモリエリアのラストアドレスを示す。

### 【 操作 】

キー操作



フラッシュメモリエリア表示コマンド



実行



表示項目変更



表示終了

### 【 表示部 】

LCD表示 (全体)

F	x	n	n	n													
				/	x	x	x	x	/								
F	D	6	/	F	L	A	S	H		A	D	D	R				

4行目

F	-	A	D	D	R	/	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(ファーストアドレスを表示)

4行目

L	-	A	D	D	R	/	0	0	0	0	7	F	F	F			
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--

(ラストアドレスを表示)

## 5.4.9. 通信チャンネル設定 (Function D7)

NETIMPRESS next とターゲットシステムの間に複数の通信チャンネルが選定され、その通信チャンネル番号指定が必要なMCU用のパラメータです。

### 【 操作 】

キー操作



通信チャンネル設定コマンド



通信チャンネル選択



設定

### 【 表示部 】

LCD表示 (全体)

F	x	n	n	n													
				/	x	x	x	x	/								
F	D	7	/	T	G	T		C	H	A	N	N	E	L			
													1				

4行目

													2				
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--

(▲, ▼キーを押し、通信チャンネルを選択)

## 5.4.10. 表示型名変更 (Function D8)

NETIMPRESS next の表示部に表示される型名の変更を行ないます。

型名は16文字まで入力可能です。

### 注意 )

NETIMPRESS 上では“0”～“9”、“A”～“F”の文字のみ入力可能です。

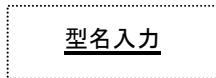
PCと接続し、PC上で動作するソフトウェアをご利用いただくことで英数字の入力が可能となります。

### 【 操作 】

キー操作



表示型名変更コマンド



▲, ▼キーでカーソル移動



設定

### 【 表示部 】

LCD表示 (全体)

F	x	n	n	n													
				/	x	x	x	x	/								
F	D	8	/	M	C	U	T	Y	P	E							
F	H	8	1	9													

4行目

A	B	C	1	2	3	4											
---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(▲, ▼キーを押すとカーソルが移動します)

## 5.4.11. データフォーマット設定 (Function 5)

NETIMPRESS next からPCへデータを送信する際のフォーマット、1レコードのデータ長を設定します。フォーマットはインテルHEXフォーマット、モトローラSフォーマットの2種類となります。

設定の際、インテルHEXフォーマットの場合は“50”を、モトローラSフォーマットの場合は“60”を入力してください。

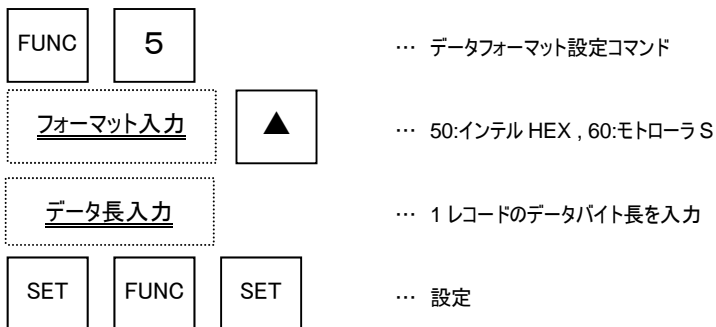
注意 ) 設定中の NETIMPRESS next 表示部

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
F	5	/	D	A	T	A		F	O	R	M	A	T						
							5	0	/	F	/								

-F . . . フォーマット設定  
 -L . . . 1レコードのデータバイト長設定  
 (16進数入力)

(網掛けになっているところの表示部分が選択項目を表している)

### 【 操作 】

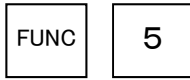


## 操作例 )

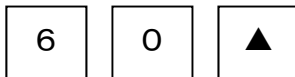
フォーマットをモトローラSフォーマット、レコード長を16バイトに設定する。

### 【 操作 】

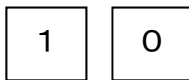
キー操作



データフォーマット設定コマンド



モトローラSフォーマットを選択



レコードバイト長(16バイト)  
を16進数で入力



設定

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
			/	x	x	x	x	/									
F	5	/	D	A	T	A		F	O	R	M	A	T				
							5	0	/	-	F	/					

4行目

										6	0	/	-	F	/		
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---	---	---	---	--	--

(項目欄が“-F”になっていることを確認)

4行目

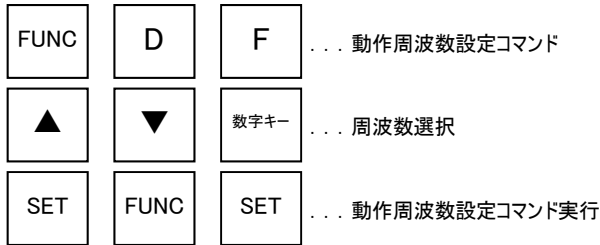
										1	0	/	-	L	/		
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---	---	---	---	--	--

(項目欄が“-L”になっていることを確認)

## 5.4.12. MCU動作周波数設定(Function DF)

MCUが動作する周波数を設定します。

### 【 操作 】



### 操作例 )

MCUの動作周波数を 10MHz に変更する。

### 【 操作 】

キー操作



動作周波数設定コマンド



“10.0”を選択



動作周波数設定を実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
				/	x	x	x	x	/								
F	D	F	/	T	G	T	F	R	E	Q							
							7	.	5	M	H	z					

4行目

										1	0	.	0	M	H	z	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	--

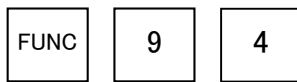
## 5.4.13. バージョン表示 (Function 94)

NETIMPRESS next 本体とコントロールモジュールのバージョンを表示します。

- HARD VER : NETIMPRESS next ハードウェアのバージョン
- HARD VER2 : NETIMPRESS next ハードウェア 2 のバージョン
- SOFT VER : NETIMPRESS next システムソフトウェアのバージョン
- CM VER : コントロールモジュールのバージョン
- CM NAME : コントロールモジュール名称
- xxxxxMxx : マイコンパックのバージョン

### 【 操作 】

キー操作



バージョン表示コマンド



実行



表示項目変更



表示終了

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n														
				/	x	x	x	x	/								
F	9	4	/	V	E	R	S	I	O	N							

4行目

H	A	R	D		V	E	R					4	0			0	0
---	---	---	---	--	---	---	---	--	--	--	--	---	---	--	--	---	---

(ハードウェアのバージョンを表示)

4行目

H	A	R	D	2		V	E	R				4	0			2	0
---	---	---	---	---	--	---	---	---	--	--	--	---	---	--	--	---	---

4行目

S	O	F	T		V	E	R					1	3			0	0
---	---	---	---	--	---	---	---	--	--	--	--	---	---	--	--	---	---

(システムソフトウェアのバージョンを表示)

4行目

C	M		V	E	R							1	2			0	0
---	---	--	---	---	---	--	--	--	--	--	--	---	---	--	--	---	---

(コントロールモジュールのバージョンを表示)

4行目

C	M		N	A	M	E						F	H	8	1	9	
---	---	--	---	---	---	---	--	--	--	--	--	---	---	---	---	---	--

(コントロールモジュールの名称を表示)

4行目

F	H	8	1	9	M	0	0					1	2			0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	---	---	--	--	---	---

(マイコンパックのバージョンを表示)



## 5.4.14. ベリファイモード切替 (Function 99)

ベリファイモードの切り替えを行います。

ベリファイモードは下記2種類です。

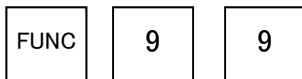
- FULL READ VERIFY : MCU 内に書き込まれたデータとバッファメモリのデータを比較します。
- SUM READ VERIFY : MCU から受信したサム値とバッファメモリのサム値を比較します。

注意 )

対応していないモードが存在するコントロールモジュールがございますのでご注意ください。

### 【 操作 】

キー操作



ベリファイモード切替コマンド



SUM or FULL を選択



設定実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n											
			/	x	x	x	x	/							
F	9	9	/	V	E	R	I	F	Y	M	O	D	E		
				S	U	M	V	E	R	I	F	Y			

4行目

				F	U	L	L	V	E	R	I	F	Y		
--	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--

4行目

				S	U	M	V	E	R	I	F	Y			
--	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--

## 5.4.15. バッファメモリイニシャルモード切替え

NETIMPRESS next 起動時に、バッファメモリの内容の保持/消去の切替えを行います。

### 【 操作 】

キー操作



バッファメモリイニシャルモード切替え



KEEP or CLEAR を選択



実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
			/	x	x	x	x	/									
F	9	A	/	B	U	F	F	E	R		I	N	I	T			
B	U	F	F	E	R		R	A	M		K	E	E	P			

4行目

B	U	F	F	E	R		R	A	M		C	L	E	A	R		
---	---	---	---	---	---	--	---	---	---	--	---	---	---	---	---	--	--

4行目

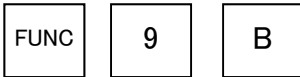
B	U	F	F	E	R		R	A	M		K	E	E	P			
---	---	---	---	---	---	--	---	---	---	--	---	---	---	---	--	--	--

## 5.4.16. ライセンス表示(Function 9B)

コントロールモジュールの定義体交換機能でダウンロード可能なライセンスを表示します。

### 【 操作 】

キー操作



ライセンス表示



実行



表示内容変更



表示終了

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

(例: FH817 と FH819 のライセンスを持つ場合)

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
F	9	B	/	L	I	C	E	N	C	E									

4行目

L	0	1	/	0	2					F	H	8	1	9					
---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--

4行目

L	0	2	/	0	2					F	H	8	1	7					
---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--

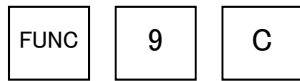
## 5.4.17. SUM 値表示切替え(Function 9C)

SUM 値の計算方法および表示方法を、それぞれ次のように設定することができます。

- 計算方法≫ 8bit 加算もしくは 16bit 加算
- 表示方法≫ 8bit 表示もしくは 16bit 表示

### 【 操作 】

キー操作



計算方法／表示方法の表示



設定変更



実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
			/	x	x	x	x	/									
F	9	C	/	S	U	M		M	O	D	E						
C	A	L	C	8	/	D	I	S	P	8							

4行目

C	A	L	C	1	6	/	D	I	S	P	1	6					
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--

(16bit 加算 16bit 表示)

4行目

C	A	L	C	8	/	D	I	S	P	1	6						
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--

(16bit 加算 16bit 表示)

4行目

C	A	L	C	8	/	D	I	S	P	8							
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--

(8bit 加算 8bit 表示)

## 5.4.18. ファイルロード実行時の ADDRESS WARNING 表示切替え(Function 9E)

コントロールモジュールのバッファメモリへファイルをロードする際、対象マイコンのフラッシュメモリ領域以外のアドレスデータをもつデータをロードしようとした場合、“ADDRESS WARNING”というエラーメッセージが表示されます。

本ファンクションは、上記“ADDRESS WARNING”のアドレスチェックを行うかどうかを選択します。

ADDRESS WARNING ON → アドレスチェックを行います。

ADDRESS WARNING OFF → アドレスチェックを行いません。

### 【 操作 】

キー操作



ADDRESS WARNING 表示



設定変更



実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n														
			/	x	x	x	x	/									
F	9	E	/	A	D	D	R	W	A	R	N	I	N	G			
A	D	D	R	W	A	R	N	I	G	O	N						

4行目

A	D	D	R	W	A	R	N	I	G	O	F	F					
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--

(アドレスチェックを行わない)

4行目

A	D	D	R	W	A	R	N	I	G	O	N						
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--

(アドレスチェックを行う)

## 5.4.19. プログラム起動時の ADDRESS WARNING 表示切替え(Function 9F)

NETIMPRESS next 起動時もしくは YIM フォルダ選択時、保存されている設定をチェックします。その際、Func0,FuncF5 で設定されたアドレス範囲が、FuncD6 で設定された対象マイコンのフラッシュメモリ領域と異なる場合、“ADDRESS WARNING”というエラーメッセージが表示されます。

本ファンクションは、上記“ADDRESS WARNING”のアドレスチェックを行うかどうかを選択します。

ADDRESS WARNING ON → アドレスチェックを行います。

ADDRESS WARNING OFF → アドレスチェックを行いません。

### 【 操作 】

キー操作



ADDRESS WARNING 表示



設定変更



実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
			/	x	x	x	x	/									
F	9	F	/	A	D	D	R	W	A	R	N	I	N	G			
A	D	D	R	W	A	R	N	I	G	O	N						

4行目

A	D	D	R	W	A	R	N	I	G	O	F	F					
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--

(アドレスチェックを行わない)

4行目

A	D	D	R	W	A	R	N	I	G	O	N						
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--

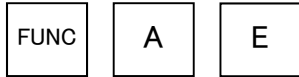
(アドレスチェックを行う)

## 5.4.20. シリアル番号表示 (Function AE)

コントロールモジュールのシリアル番号を表示します。

### 【 操作 】

キー操作



シリアル番号表示コマンド



実行



表示終了

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
F	A	E	/	S	-	N	U	M											

4行目

S	-	N	U	M	:	X	X	X	X	X	X	X	X	F	R
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

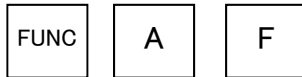
(シリアル番号を表示)

## 5.4.21. ライセンス追加(Function AF)

コントロールモジュールの定義体交換機能でダウンロード可能なライセンスを追加します。  
 定義体購入時に添付されているYLCファイルをコンパクトフラッシュのルートディレクトリに配置して下さい。

### 【 操作 】

キー操作



ライセンス追加



実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
			/	x	x	x	x	/									
F	A	F	/	A	D	D	L	I	C	E	N	S	E				

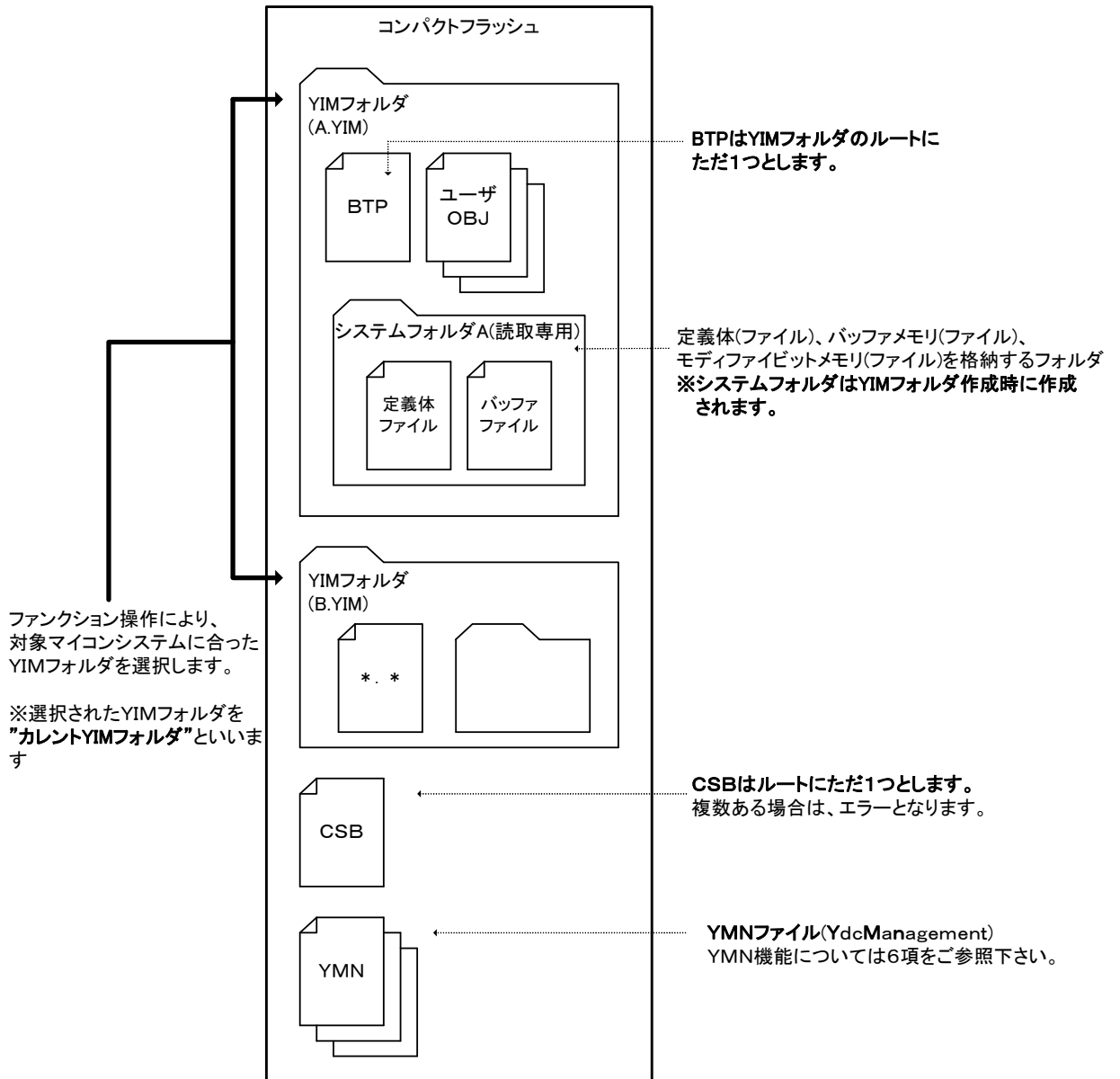
※以下のエラーメッセージが表示された場合、ライセンス追加は出来ません。再度コンパクトフラッシュのルート領域をお確かめ下さい。

- ・「YLC NOT FOUND」・・・ コンパクトフラッシュのルートディレクトリにYLCファイルが存在しません。



## 5.5. コントロールモジュールの概要／操作方法

以下にコントロールモジュールの概念図を示します。



≪YIM フォルダの主な機能≫

- ・ YIM フォルダは拡張子.YIM のフォルダになります。
- ・ YIM フォルダAとBをファンクションにより切り換え、対象マイコンシステムに合ったスムーズな段取り換えを実現します。
- ・ 誤操作防止のため、YIM フォルダのプロテクト機能搭載  
プロテクト機能により、YIM フォルダを読取専用にし各種ダウンロードおよびパラメータ変更ができない状態にします。

※ YIM フォルダの制限

YIM フォルダ内にBTPファイルはただ1つとします。

### 5.5.1. YIMフォルダの切替え(Function B0)

コンパクトフラッシュのルートディレクトリに配置された YIM フォルダを書込み対象マイコンに応じて切り替えます。

#### 【 操作 】

キー操作



切替えコマンド

#### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
F	B	0	/	Y	I	M	S	E	T										
A.	y	i	m																

※A. YIMはコンパクトフラッシュのルートに配置された任意のYIMフォルダ名となります。



切り替えたいYIMフォルダを選択

4行目

B.	y	i	m																
----	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



変更確認

3行目

C	H	A	N	G	E	Y	I	M	?										
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



切替え確定

## 5.5.2. YIMフォルダの作成(Function B1)

新規 YIM フォルダを、コンパクトフラッシュのルートディレクトリに作成します。

作成される内容

- ① Systemフォルダ(空フォルダ)
- ② YIMフォルダ(①が入っている)

### 【 操作 】

キー操作



作成コマンド



作成確認



作成確定

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
F	B	1	/	Y	I	M		M	A	K	E								
O	O	O	.	Y	I	M													

3行目

M	A	K	E		Y	I	M		?										
---	---	---	---	--	---	---	---	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ 新規作成のYIMフォルダ名は、「000」からコンパクトフラッシュのルートディレクトリに存在する順にインクリメントされた名前で作成されます。

### 5.5.3. YIMフォルダの消去(Function B2)

コンパクトフラッシュのルートディレクトリに配置されたYIMフォルダを消去します。

#### 【 操作 】

キー操作



消去コマンド



消去したいYIMフォルダの選択



消去確認



消去確定

#### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
F	B	2	/	Y	I	M		D	E	L	E	T	E						
A.	Y	I	M																

4行目

B.	Y	I	M																
----	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

3行目

	D	E	L	E	T	E		Y	I	M	?								
--	---	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--

## 5.5.4. YIMフォルダの複製(Function B3)

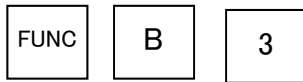
現在選択されているYIMフォルダ(カレント YIM フォルダ)をコンパクトフラッシュのルートディレクトリに複製します。

複製されるファイルは以下の通りです。

- ・ BTP ファイル
- ・ オブジェクトファイル(ユーザ作成ファイル)
- ・ システムフォルダ(弊社提供 読み取り専用フォルダ)
  - 定義体
  - バッファファイル

### 【 操作 】

キー操作



複製コマンド



複製確認



複製確定

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
			/	x	x	x	x	/									
F	B	3	/	Y	I	M		C	O	P	Y						
O	O	O	.	Y	I	M											

3行目

	C	O	P	Y		Y	I	M		?							
--	---	---	---	---	--	---	---	---	--	---	--	--	--	--	--	--	--

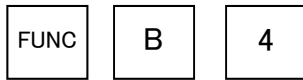
※ 複製先のYIMフォルダ名は、「000」からコンパクトフラッシュのルートディレクトリに存在する順にインクリメントされた名前で作成されます。

## 5.5.5. YIM フォルダのプロテクト設定(Function B4)

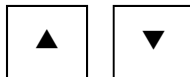
誤操作防止のため、現在選択されているYIMフォルダ(カレントYIMフォルダ)をプロテクトし、ファイルダウンロードやパラメータ変更を防ぎます。

### 【 操作 】

キー操作



プロテクト設定コマンド



プロテクトを設定する



設定確認



プロテクト確定

- ・PROTECT : プロテクトを設定する
- ・UNPROTECT : プロテクトを解除する

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
			/	x	x	x	x	/									
F	B	4	/	Y	I	M		P	R	O	T	E	C	T			
				U	N	P	R	O	T	E	C	T					

4行目

				P	R	O	T	E	C	T							
--	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--

3行目

	P	R	O	T	E	C	T		Y	I	M		?				
--	---	---	---	---	---	---	---	--	---	---	---	--	---	--	--	--	--

## 5.5.6. カレント YIM フォルダの保持設定(Function B5)

NETIMPRESS next 起動直後は、カレント YIM フォルダが選択されていない状態です。NETIMPRESS next 電源 OFF 後も、カレント YIM フォルダのデータを保持したい場合、そのデータを保持します。ただし、保持されるデータは NETIMPRESS next 電源 OFF する直前のカレント YIM フォルダのデータです。

### 【 操作 】

キー操作



保持設定コマンド



保持を設定する



設定

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
				/	x	x	x	x	/								
F	B	5	/	Y	I	M	S	A	V	E	S	E	T				
							N	O	T	S	A	V	E				

4行目

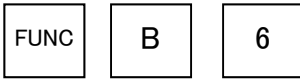
							S	A	V	E							
--	--	--	--	--	--	--	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--

## 5.5.7. カレント YIM フォルダの表示(Function B6)

現在選択されている YIM フォルダ(カレント YIM フォルダ)を表示します。

### 【 操作 】

キー操作



表示コマンド



カレント YIM フォルダ名を表示する



表示終了

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
F	B	6	/	C	U	R	R	E	N	T		Y	I	M					

4行目

A.	Y	I	M																
----	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



## 5.5.8. カレントYMNファイル設定(Function BC)

実行したいYMNファイルを設定します。

### 【 操作 】

キー操作



カレントYMN設定コマンド



実行したいYMNファイルを選択する



設定

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n															
			/	x	x	x	x	/											
F	B	C	/	Y	M	N		S	E	T									
T	E	S	T	.	Y	M	N												

※YMNファイル名は任意です。

4行目

T	E	S	T	.	2	.	Y	M	N										
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※YMNファイル名は任意です。

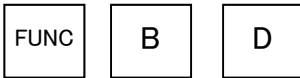
※ YMN ファイルの詳細は第 6 項をご参照下さい。

## 5.5.9. カレントYMNファイル実行(Function BD)

『5.5.8 カレントYMNファイル設定(Function BC)』で選択したYMNファイルを実行します。

### 【 操作 】

キー操作



カレントYMN実行コマンド



実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
F	B	D	/	Y	M	N		E	X	E	C	U	T	E					

※ YMNファイルの詳細は第 6 項をご参照下さい。

## 5.6. Ethernet設定

### 5.6.1. IPアドレス、ポート番号設定 (Function E2)

NETIMPRESS next のIPアドレス、ポート番号の設定を行ないます。

#### 【 操作 】

FUNC	E	2	...	IPアドレス、ポート番号設定コマンド
▲	▼		...	IPアドレス、ポート番号設定
SET	FUNC	SET	...	IPアドレス、ポート番号設定コマンド実行

## 操作例 )

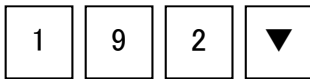
IPアドレスを”192. 0. 0. 1”、ポート番号を”1100”に変更する。

### 【 操作 】

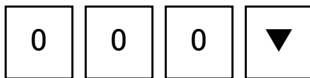
キー操作



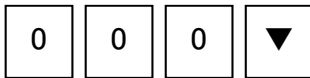
IP アドレス、ポート番号設定コマンド



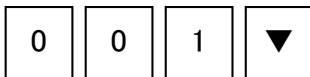
“192”(IP アドレス)を設定



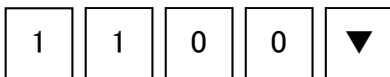
“0”(IP アドレス)を設定



“0”(IP アドレス)を設定



“1”(IP アドレス)を設定



“1100”(ポート番号)を設定



IP アドレス、ポート番号設定コマンド実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n																	
				/	x	x	x	x	/												
F	E	2	/	I	P	A	D	D	R	E	S	S									
1	9	2	.	1	6	8	.			0	.			0							

4行目

1	9	2	.	1	6	8	.			0	.			0							
---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	---	---	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--

4行目

1	9	2	.							0	.			0	.						
---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	---	---	--	--	---	---	--	--	--	--	--	--

4行目

1	9	2	.							0	.			0	.						
---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	---	---	--	--	---	---	--	--	--	--	--	--

4行目

1	9	2	.							0	.			0	.						1
---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	---	---	--	--	---	---	--	--	--	--	--	---

F	x	n	n	n																	
				/	x	x	x	x	/												
F	E	2	/	P	O	R	T														
																					1100h

## 5.6.2. ゲートウェイアドレス設定 (Function E3)

NETIMPRESS next のデフォルトゲートウェイアドレスの設定を行いません。

異ネットワークから NETIMPRESS next にアクセスする際や、同一ネットワークにある時でもルータ越しに NETIMPRESS next をアクセスする際に設定します。

NETIMPRESS next とパソコンが同一ネットワーク上にある場合には、“0. 0. 0. 0” と設定します。

### 【 操作 】

FUNC	E	3	...	ゲートウェイアドレス設定コマンド
▲	▼		...	ゲートウェイアドレス設定
SET	FUNC	SET	...	ゲートウェイアドレス設定コマンド実行

## 操作例 )

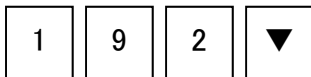
ゲートウェイアドレスを”192. 0. 0. 254”に変更する。

### 【 操作 】

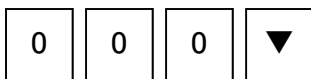
キー操作



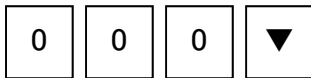
ゲートウェイアドレス設定コマンド



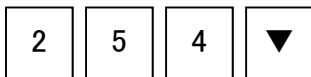
”192” (ゲートウェイアドレス)を設定



”0” (ゲートウェイアドレス)を設定



”0” (ゲートウェイアドレス)を設定



”254” (ゲートウェイアドレス)を設定



ゲートウェイアドレス設定コマンド実行

### 【 表示部 】

LCD表示 (全体)

F	x	n	n	n													
			/	x	x	x	x	/									
F	E	3	/	G	A	T	E	W	A	Y							
		0.				0.				0.							0

4行目


4行目


4行目


4行目


## 5.6.3. サブネットマスク設定(Funtion E4)

NETIMPRESS next のサブネットマスクの設定を行ないます。

### 【 操作 】

FUNC	E	4	...	サブネットマスク設定コマンド
▲	▼		...	サブネットマスク設定
SET	FUNC	SET	...	サブネットマスク設定コマンド実行

## 操作例 )

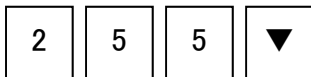
サブネットマスクを”255. 255. 255. 0”に変更する。

### 【 操作 】

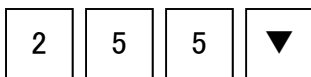
キー操作



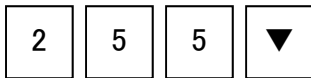
サブネットマスク設定コマンド



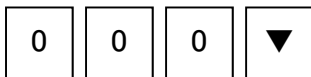
”255” (サブネットマスク) を設定



”255” (サブネットマスク) を設定



”255” (サブネットマスク) を設定



”0” (サブネットマスク) を設定



サブネットマスク設定コマンド実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n											
			/	x	x	x	x	/							
F	E	4	/	S	U	B	N	E	T	M	A	S	K		
		0	.			0	.			0	.			0	

4行目


4行目


4行目


4行目




## 5.6.4. 通信速度/通信モード設定 (Function E8)

Ethernet の通信速度/通信モードの設定を行ないます。

Ethernet の通信速度 (10M/100Mbps) や通信モード (Full/Half Duplex) を固定する際や、オートネゴシエーションにする際に設定します。

接続する相手との通信速度、通信モードを自動設定する場合には、"AUTO NEGOTIATION" と設定します。

### 【 操作 】

FUNC	E	8	... 通信速度/通信モード設定コマンド
▲	▼		... 通信速度/通信モード設定
SET	FUNC	SET	... 通信速度/通信モード設定コマンド実行

## 操作例 )

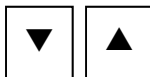
通信速度を”100Mbps”、通信モードを”HALF DUPLEX”に変更する。

### 【 操作 】

キー操作



通信速度/通信モード設定コマンド



”100M HALF DUPLEX”を設定



通信速度/通信モード設定コマンド実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
			/	x	x	x	x	/									
F	E	8	/	E	T	H	E	R	T	Y	P	E					
A	U	T	O		N	E	G	O	T	I	A	T	I	O	N		

4行目

1	0	0	M		H	A	L	F		D	U	P	L	E	X		
---	---	---	---	--	---	---	---	---	--	---	---	---	---	---	---	--	--

## 5.7. デバイスファンクション一覧表

コマンド	コマンド内容	コマンドキー
コピー	フラッシュメモリからバッファメモリへ読み込み、リードチェックを行なう	"DEV", "8"
ブランクチェック	未書き込み状態チェックを行なう。	"DEV", "9"
イレーズ	フラッシュメモリを消去しブランクチェックを行なう	"DEV", "C"
プログラム	フラッシュメモリに書き込みを行い、リードチェックを行なう	"DEV", "D"
リード	フラッシュメモリとバッファメモリを比較する	"DEV", "E"
E. P. R.	イレーズ、ブランクチェック、プログラム、リードチェックを行なう	"DEV", "F"

- \* 一部のMCUでは機能がサポートされていないコマンドがあります。  
各コントロールモジュールのマニュアルをご確認ください。

### 注意 )

デバイスファンクション実行中、本体表示部の左上に“HV”が表示されます。これは、書き込み電圧がプローブを介してターゲットシステムに印加されていることを示します。

ターゲットシステムの電源断やプローブの着脱は、NETIMPRESS next のRESETキーを押し、“HV”表示がなくなることを確認してから行ってください。

## 5.7.1. コピー (COPY)

MCU内部のフラッシュメモリ領域の内容を、NETIMPRESS next の バッファメモリにコピーします。コピーした後に読み込んだバッファメモリの内容とフラッシュメモリの内容を比較します。コピーを実行すると、カレントファイルが削除されますのでご注意ください。

コピーが正常に実行され内容が一致している場合には“PASS”と表示し、一致していない場合には不一致のアドレスを表示します。コピーコマンドの実行範囲はデバイスファンクション実行領域(FUNC 0)の範囲で行われます。

### 【 操作 】

キー操作



コピーコマンド



実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
				/	x	x	x	x	/								
D	/	C	O	P	Y												
F	-	A	D	D	R	/											

3行目

			C	O	P	Y	.	.	.								
--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--

(コピー動作中)

F	x	n	n	n													
				/	x	x	x	x	/								
			P	A	S	S	P	/	n	n	n	n	n	n	n	n	n
							R	/	m	m	m	m	m	m	m	m	m

(COPY 終了時)

nnnnnnnn: バッファメモリデータのサム計算値  
 mmmmmmm: 読み出しデータのサム計算結果値

## 5.7.2. ブランクチェック (BLANK)

MCU内部のフラッシュメモリ領域が消去状態であることを確認します。

フラッシュメモリの内容が消去状態の場合は“PASS”と表示し、消去状態でないビットがある場合はそのアドレスまたはそのアドレスを含む消去ブロックの先頭アドレスを表示します。

ブランクチェックコマンドの実行範囲はデバイスファンクションの実行範囲(FUNC 0)で行われます。

### 【 操作 】

キー操作



ブランクチェックコマンド



実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
D	/	B	L	A	N	K													
F	-	A	D	D	R	/													

3行目

B	L	A	N	K	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(ブランクチェック動作中)

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
		P	A	S	S	P	/	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n
						R	/	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m

(BLANK 終了時)

nnnnnnnn: バッファメモリデータのサム計算値  
 mmmmmmm: 読み出しデータのサム計算結果値

## 5.7.3. イレーズ (ERASE)

MCU内部のフラッシュメモリ領域の内容を消去します。消去後にブランクチェックを行い、消去状態であることを確認します。

正常に消去されている場合は“PASS”と表示し、消去されていない場合は消去されていないアドレスを表示します。

イレーズコマンドの実行範囲はデバイスファンクション実行領域(FUNC 0)の範囲で行われます。

### 【 操作 】

キー操作



イレーズコマンド



実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
				/	x	x	x	x	/								
D	/	E	R	A	S	E											
F	-	A	D	D	R	/											

3行目

E	R	A	S	E	.	.	.										
---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(イレーズ動作中)

F	x	n	n	n													
				/	x	x	x	x	/								
P	A	S	S	P	/	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n
				R	/	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m

(ERASE 終了時)

nnnnnnnn:バッファメモリデータのサム計算値

mmmmmmmm:読み出しデータのサム計算結果値

## 5.7.4. プログラム ( PROGRAM )

NETIMPRESS next のバッファメモリの内容を、MCU内部のフラッシュメモリ領域に書き込み、書き込んだフラッシュメモリの内容とバッファメモリの内容を比較します。

正常に書き込みができバッファメモリの内容とMCU内部のフラッシュメモリ領域が一致する場合は“PASS”と表示し、書き込みができずにバッファメモリの内容と違う場合は書き込みができていないアドレスを表示します。

プログラムコマンド実行範囲はデバイスファンクション実行領域(FUNC 0)の範囲で行われます。

### 【 操作 】

キー操作



プログラムコマンド



実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
D	/	P	R	G	M														
F	-	A	D	D	R	/													

3行目

P	R	O	G	R	A	M	.	.	.										
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(書き込み動作中)

3行目

S	U	M		C	H	E	C	K	.	.	.								
---	---	---	--	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--

(サムベリファイ選択時表示: サムチェック動作中)

3行目

R	E	A	D		C	H	E	C	K	.	.	.							
---	---	---	---	--	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--

(フルベリファイ選択時表示: リードチェック動作中)

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
P	A	S	S		P	/	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n
					R	/	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m

(PROGRAM 終了時)

nnnnnnnn: バッファメモリデータのサム計算値  
 mmmmmmm: 読み出しデータのサム計算結果値

## 5.7.5. リード( READ )

MCU内部のフラッシュメモリの内容と NETIMPRESS next のバッファメモリの内容を比較します。

データが一致した場合は“PASS”と表示し、一致していない場合は一致していないアドレスまたはそのアドレスを含む消去ブロックの先頭アドレスを表示します。

リードコマンドの実行範囲はデバイスファンクション実行領域(FUNC 0)の範囲で行われます。



## 【 操作 】

キー操作



リードチェックコマンド



実行

## 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n													
			/	x	x	x	x	/									
D	/	R	E	A	D												
F	-	A	D	D	R	/											

3行目

R	E	A	D		C	H	E	C	K	.	.	.					
---	---	---	---	--	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--

(フルベリファイ選択時表示: リードチェック動作中)

F	x	n	n	n													
			/	x	x	x	x	/									
			P	A	S	S	P	/	n	n	n	n	n	n	n	n	n
							R	/	m	m	m	m	m	m	m	m	m

(READ 終了時)

nnnnnnnn: バッファメモリデータのサム計算値

mmmmmmm: 読み出しデータのサム計算結果値

## 5.7.6. プログラム書き込み (E.P.R.)

MCU内部のフラッシュメモリ領域に、書き込みを行ないます。

E. P. R. コマンド実行により、イレーズ、ブランクチェック、プログラム、リードベリファイを連続実行します。

E. P. R. コマンドが正常に終了した場合は“PASS”を表示し、異常終了した場合はエラーを表示します。

E. P. R. コマンド実行範囲はデバイスファンクション実行領域(FUNC 0)の範囲で行われます。

ベリファイモードは、FUNC99 で設定可能です。

\* コントロールモジュールによって実行されないコマンドがございます。

詳細は各コントロールモジュールのマニュアルをご覧ください

## 【 操作 】

キー操作



E. P. R. コマンド



実行

## 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
D	/	P	R	G	M														
F	-	A	D	D	R	/													

3行目

E	R	A	S	E	.	.	.												
---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(イレース動作中)

3行目

P	R	O	G	R	A	M	.	.	.										
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(書き込み動作中)

3行目

S	U	M		C	H	E	C	K	.	.	.								
---	---	---	--	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--

(サムベリファイ選択時表示: サムチェック動作中)

3行目

R	E	A	D		C	H	E	C	K	.	.	.							
---	---	---	---	--	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--

(フルベリファイ選択時表示: リードチェック動作中)

F	x	n	n	n															
				/	x	x	x	x	/										
P	A	S	S	P	/	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n	n
				R	/	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m

(E. P. R. 終了時)

nnnnnnnn: バッファメモリデータのサム計算値

mmmmmmmm: 読み出しデータのサム計算結果値

## 5.8. ログ操作

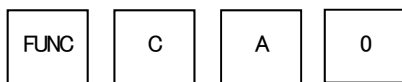
### 5.8.1. ログモード設定 (Function CA0)

NETIMPRESS next の実行ログを取得するモードの設定を行います。

設定は、ログ取得無し (LOG OFF)、簡易ログモード (LOG ON (DEV) )、FULL ログモード (LOG ON (ALL) ) の3つのモード設定が行えます。

#### 【 操作 】

キー操作



コマンド入力



選択



実行

#### 【 表示部 】

LCD表示 (全体)

F	x	n	n	n													
		/	x	x	x	x	/										
F	C	A	0	/	L	O	G	O	N	O	F	F					
		L	O	G	O	F	F										

4行目 

L	O	G	O	N	(	D	E	V	)								
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--

4行目 

L	O	G	O	N	(	A	L	L	)								
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--

4行目 

L	O	G	O	F	F												
---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

## 5.8.2. ログ消去(Function CA5)

ログファイルを選択して消去します。

### 【 操作 】

キー操作



コマンド入力



選択



実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n															
		/	x	x	x	x	/												
F	C	A	5	/	L	O	G		D	E	L	E	T	E					
L	O	G	_	X	X	X	X	X	X	X	X	X							

4行目

L	O	G	_	X	X	X	X	X	X	X	X								
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--

4行目

L	O	G	_	X	X	X	X	X	X	X	X								
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--

4行目

L	O	G	_	X	X	X	X	X	X	X	X								
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--

## 5.8.3. ログ全消去(Function CA0)

ログファイルを全消去します。

### 【 操作 】

キー操作



コマンド入力



実行

### 【 表示部 】

LCD表示(全体)

F	x	n	n	n															
		/	x	x	x	x	/												
F	C	A	6	/	L	O	G		A	L	L		D	E	L				

## 5.8.4. ログ消去設定 (Function CA8)

ログの保持期間を指定します。

現在時刻から保持期間以上前のログは自動的に消去されます。

設定は、ログ消去無し (NOT DELETE)、1MONTH、3MONTH、6MONTH の設定が行えます。

### 【 操作 】

キー操作



コマンド入力



選択



実行

### 【 表示部 】

LCD表示 (全体)

F	x	n	n	n															
			/	x	x	x	x	/											
F	C	A	8																
	1		M	O	N	T	H												

4行目

	3		M	O	N	T	H												
--	---	--	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

4行目

	6		M	O	N	T	H												
--	---	--	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

4行目

	N	O	T		D	E	L	E	T	E									
--	---	---	---	--	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

## 5.9. I/F 設定

### 5.9.1. ケーブルセレクト設定 (Function CD0)

NETIMPRESS next の CAN／シリアル の I/F の 選択設定を行います

設定は、自動選択 (CABLE SELECT)、シリアル優先 (TARGET PROBE 1)、CAN 優先 (TARGET PROBE 2) の 選択が可能です。

デフォルトは、自動選択 (CABLE SELECT) が 指定されています。

### 5.9.2. Digital Input 入力フィルタ値の設定 (Function CD1)

Digital I/O 入力のフィルタ時間設定を行います。

設定範囲は、1～256[ms]です。

デフォルトは 10[ms]に 指定されています。



## 5.10. 制限事項

コンパクトフラッシュに作成されるファイル・フォルダの制限事項は以下のとおりです。

### 1. ファイル・フォルダ名長

ファイル及びフォルダ名称の長さは、最大128文字までです。

### 2. ファイル・フォルダ名に使用不可能な文字

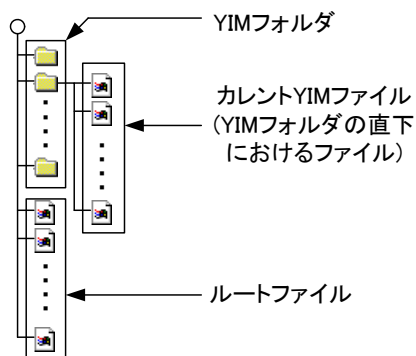
全角文字は使用できません。

また、以下に挙げる文字は、ファイル名、フォルダ名には使用不可となります。

%	¥	/	:	*	(スペース)
?	<	>		”	

### 3. ファイル・フォルダ数

ファイル及び YIM フォルダの数は以下のとおりです。



	YIM フォルダ	カレント YIM ファイル	ルートファイル
FAT16 (~8 文字)	511 個	511 個	511 個
(9~13 文字)	255 個	255 個	255 個
(14~26 文字)	169 個	169 個	169 個
(27~39 文字)	127 個	127 個	127 個
FAT32	2048 個	2048 個	2048 個

\*CF のフォーマットされているファイルシステム(FAT16 or FAT32)により上限が変わります

\*FAT16 の場合は文字数(拡張子含む)によって上限が変わります

## 6. コマンドシーケンス機能

### 6.1. EXE キー

#### 6.1.1. 機能概要

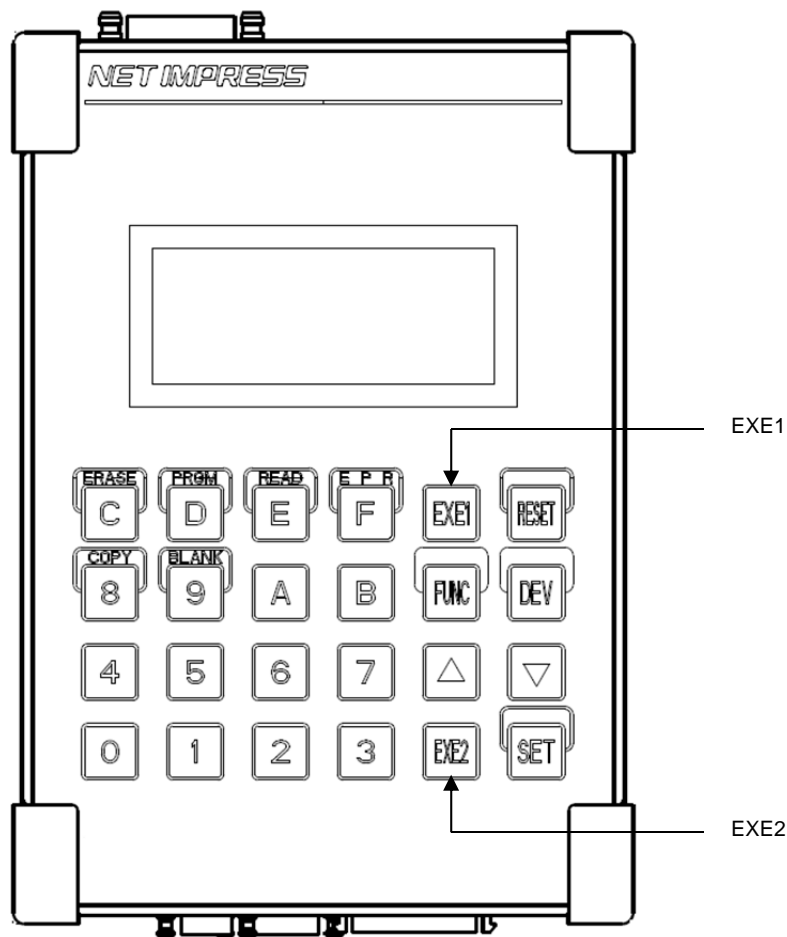
EXE キー機能をサポートしているコントロールモジュールではワンタッチキー入力によるデバイスファンクションの実行ができます。

下図の[EXE1][EXE2]の2つのキーに割り当てることができます。

デバイスファンクションの実行には、通常のキーオペレーション



は必要なく、[EXE1]または[EXE2]をワンタッチ入力で実行することができます。



## 6.1.2. EXE キー設定

### 6.1.2.1. コマンドシーケンスファイル (\*.CSB)

EXE キーの設定はコマンドシーケンスファイル(拡張子:CSB)で行います。  
このファイルはコントロールモジュールのルートディレクトリ上にただ一つだけとします。

### 6.1.2.2. コマンドシーケンスファイル(\*.CSB)のフォーマット

コマンドシーケンスファイルは、テキストファイルで EXE キーに割り付けるデバイスファンクション(コマンドシーケンス)情報を格納します。

L	K	1	,	CNT1	CNT2	,	C1	,	C2	,	...	,	C16	:	コメント
L	K	2	,	CNT1	CNT2	,	C1	,	C2	,	...	,	C16	:	コメント

- ① KeyNo コード(3バイト)  
LK1:EXE1 / LK2:EXE2
- ② ‘,’ (1バイト)  
コマンド間の区切りを示します。
- ③ CNT1・2(2バイト)  
デバイスコマンド数を示します。  
10進表記(“09”の上は“10”)  
最大“16”  
未使用 Key の場合、“00”とする。
- ④ Cn  
デバイスコマンド…6.3 表参照。
- ⑤ ‘,’ (1バイト)  
コメントの区切りを示します。
- ⑥ コメント(任意バイト+CRLF)  
コメントを記述します。

—CSBファイル作成例(テキストファイル)— (Test.csb)

```
LK1, 01, DF;E. P. R
LK2, 01, DD;Program
```

### 6.1.2.3. エラーメッセージ

メッセージ／内容／対策については下記の通りです。

① CSB NOT FOUND

原因： ルートディレクトリ上にコマンドシーケンスファイルが無い場合と  
複数存在する場合、またはフォーマットに異常がある場合に発生し  
ます。

対処： ルートディレクトリ上に1つのコマンドシーケンスファイルを存在  
させるか またはフォーマットを確認して下さい。

② OAK1 ASSIGN ERR / OAK2 ASSIGN ERR

原因： 設定情報の整合性に異常がある場合に発生します。  
(未定義のデバイスコマンド、デバイスコマンド数の不一致等)

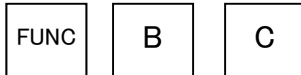
対処： コマンドシーケンスファイルの設定情報を修正して下さい。

## 6.2. YMN ファイル

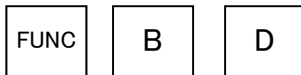
### 6.2.1. 機能概要

YMN ファイルはコマンドシーケンスを登録するためのファイルです。

下記のファンクション操作により、YMN ファイルで設定されたコマンドを実行することができます。



実行するYMNファイルを選択する(詳細は、5.5.8 カレントYMNファイル設定(Function BC) 参照)



FUNC-BCで選択されたYMNファイルを実行する

(詳細は、5.5.9 カレントYMNファイル実行(Function BD) 参照)

※CSB ファイルとの相違点

① 動作開始

CSB : EXE キーによる動作開始

YMN : FUNC-BDによる動作開始

② ファイル選択

CSB : コンパクトフラッシュのルートに存在する唯一のCSBファイルを実行

YMN : FUNC-BCで選択されたYMNファイルを実行

(YMNファイルはコンパクトフラッシュのルートに複数存在可能)

③ 最大コマンド数

CSB : 16個

YMN : 100個

④ ファイルフォーマット

CSB : 6.1.2.2 項参照

YMN : 次頁参照

## 6.2.2. コマンドシーケンスファイル( \*.YMN )のフォーマット

YMNファイルはテキストファイルで、実行したいファンクションコマンドを明記します。

YMNファイルフォーマット規則を以下に示します。

### フォーマット規則

- ・ 登録するコマンド(キー定義)はCSBファイルと同じコマンドを使用する。
- ・ 1行に1コマンドとする。
- ・ 1行は必ずCRLFで終わることとする。
- ・ 1行はCRLF(LFも可)を含め256Byteとする。
- ・ 空白行を認める。
- ・ コマンドから、コメントまでのスペースとタブを認める。
- ・ “//”以降コメント。

### —YMNファイル作成例(テキストファイル)—

```
// TEST1. YMN
FBO(A. yim)           //YIM フォルダAに切換
DF                    //ターゲットAに書込(E.P.R)

FBO(B. yim)           //YIM フォルダBに切換
DF                    //ターゲットBに書込(E.P.R)
```

## 6.3. デバイスコマンド定義

以下表に、CSBファイルおよびYMNファイル作成時のコマンド定義を示します。

表 1. キー定義

Cn	定義内容
F0(XXXXXXXX□YYYYYYYY)	デバイスファンクション領域設定 (XXXXXXXX:ファーストアドレス, YYYYYYYY:ラストアドレス)※1
F1(XXXXXXXX□YYYYYYYY□ZZ)	ブロックストア (XXXXXXXX:ファーストアドレス, YYYYYYYY:ラストアドレス, ZZ:データ)※2
F2	バッファメモリクリア
FF1(XXXXXXXX. XXX)	ファイル呼出し (XXXXXXXX. XXX:ロードファイル名) ※3
FF5(XXXXXXXX□YYYYYYYY)	転送アドレス設定 (XXXXXXXX:ファーストアドレス, YYYYYYYY:ラストアドレス)※1
D9	Blank(デバイスファンクション)
DC	Erase(デバイスファンクション)
DD	Program(デバイスファンクション)
DE	Read(デバイスファンクション)
DF	E. P. R(デバイスファンクション)
FB0(XXXXXXXX. YIM)	カレント YIM フォルダ( xxx.YIM)の 切替え (XXXXXXXX. YIM: YIM フォルダ名) ※4
FBD(XXXXXXXX. YMN)	カレント YMN ファイル実行 (XXXXXXXX. YMN: 実行したい YMN ファイル名) ※5

※1 省略可とし、省略時のアドレスはフラッシュ ROM 全領域とする。

※2 省略可とし、省略時のアドレスはフラッシュ ROM 全領域、データは 00 とする。

※3 省略不可

※4 省略可とし、省略時した場合コンパクトフラッシュ内の YIM フォルダを検索する

※5 省略可とし、省略時は【FUNC】【B】【C】で選択設定されている YMN ファイルを実行する。

## 7. サムチェック機能

### 7.1. 機能概要

デバイスファンクション実行毎にデータのサム値、特定アドレスのデータ内容をチェックする機能です。デバイスファンクション毎にチェックを行いますので、誤ったオブジェクトデータの書き込みなどを事前に防止することが可能です。

### 7.2. サムチェック機能設定

#### 7.2.1. YSMファイル (\*.YSM)

サムチェック機能の設定はYSMファイル(拡張子: YSM)で行います。コントロールモジュールのカレント YIM フォルダ内にカレントファイル(例: abc.S)と同一ファイル名の YSM ファイル(例: abc.YSM)が存在する場合にサムチェック機能が実行されます。

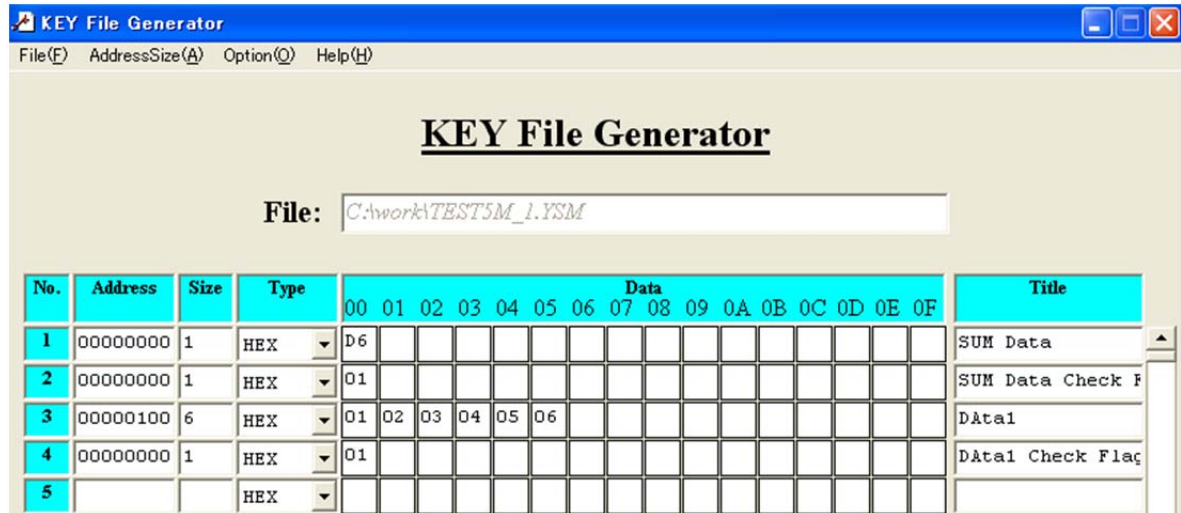
デバイスファンクション実行前にYSMファイルのデータとバッファメモリのデータを比較します。チェックをパスすればデバイスファンクションを実行します。

デバイスファンクションのリード実行後、YSMファイルのサム値とリード実行時のサム値との比較を行います。



## 7.2.2. YSMファイルのフォーマット

YSMファイルは、モトローラSフォーマットです。  
AZ481 を利用して作成できます。



Line 1 サムデータ(SUM DATA)

オブジェクトデータのSUM値を設定します。

Address : 00000000      Size : 1      Type : HEX

Data : オブジェクトデータのサム値

Line 2 サムデータチェックフラグ(SUM Data Check Flag)

Line1 のチェックを行うか行わないかを設定します。

Address : 00000000      Size : 1      Type : HEX

Data : チェックする→1 チェックしない→0

Line 3 データチェック(Data1):オブジェクトデータとの直接比較

比較を行うデータの先頭アドレスとサイズ、データを指定します。

Address: データの先頭アドレス

Size : データのサイズ

Type : HEXまたはASCII

Data : データ

Line 4 データチェックフラグ(Data1 Check Flag)

Line3 のチェックを行うか行わないかを設定します。

Address : 00000000      Size : 1      Type : HEX

Data : チェックする→1 チェックしない→0

上図の例で作ったファイルは次のようになります。(モトローラSフォーマットファイル)

1	S30600000000D623	← SUM Data
2	S3060000000001F8	← SUM Data Check Flag
3	S30B00000100010203040506DE	← Data1
4	S3060000000001F8	← Data1 Check Flag
5	S705000000000FA	

Line3 以降はチェックを行うデータとチェックフラグを対にして追加を行います。  
最大10項目まで設定することができます。

## 8. 仕様

### 8.1. 動作条件

周囲温度 : 5~40°C

対象湿度 : 20~80% (結露なきこと)

電源 : 本体DC入力 12V, 2.5A 以下

ACアダプター入力 100~240Vac, 50/60Hz, 74VA

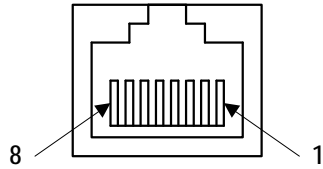
外形寸法 : AF430 160( L ) × 110( W ) × 45( H )

AF430/CAN 160( L ) × 110( W ) × 55( H )

## 8.2. Ethernetインターフェース

### 8.2.1. コネクタ ( Ethernet )

勘合面から見たコネクタのピン配列



TM11R-5L-88( HRS )

### 8.2.2. 信号表

Pin No	Signal Name
1	TXD+
2	TXD-
3	RXD+
4	N.C.
5	N.C.
6	RXD-
7	N.C.
8	N.C

## 8.3. コンパクトフラッシュ・インターフェース

### 8.3.1. コネクタ ( CONTROL MODULE )

勘合面からみたコネクタのピン配列



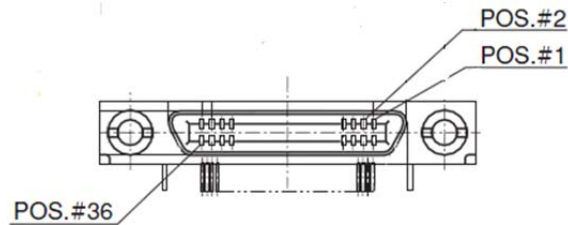
### 8.3.2. 信号表

Pin No	Signal Name	Pin No	Signal Name
1	GND	26	-CD2
2	D3	27	D11
3	D4	28	D12
4	D5	29	D13
5	D6	30	D14
6	D7	31	D15
7	-CE1	32	-CE2
8	A10	33	-VS1
9	-OE	34	-IOR
10	A9	35	-IRWR
11	A8	36	-WE
12	A7	37	RDY / -BSY
13	Vcc	38	VCC
14	A6	39	-CSEL
15	A5	40	-VS2
16	A4	41	RESET
17	A3	42	-WAIT
18	A2	43	-INPACK
19	A1	44	-REG
20	A0	45	BVD2
21	D0	46	BVD1
22	D1	47	D8
23	D2	48	D9
24	WP	49	D10
25	-CD1	50	GND

## 8.4. Digital I/O インターフェース

### 8.4.1. コネクタ (DIO PROBE)

勘合面から見たコネクタのピン配列

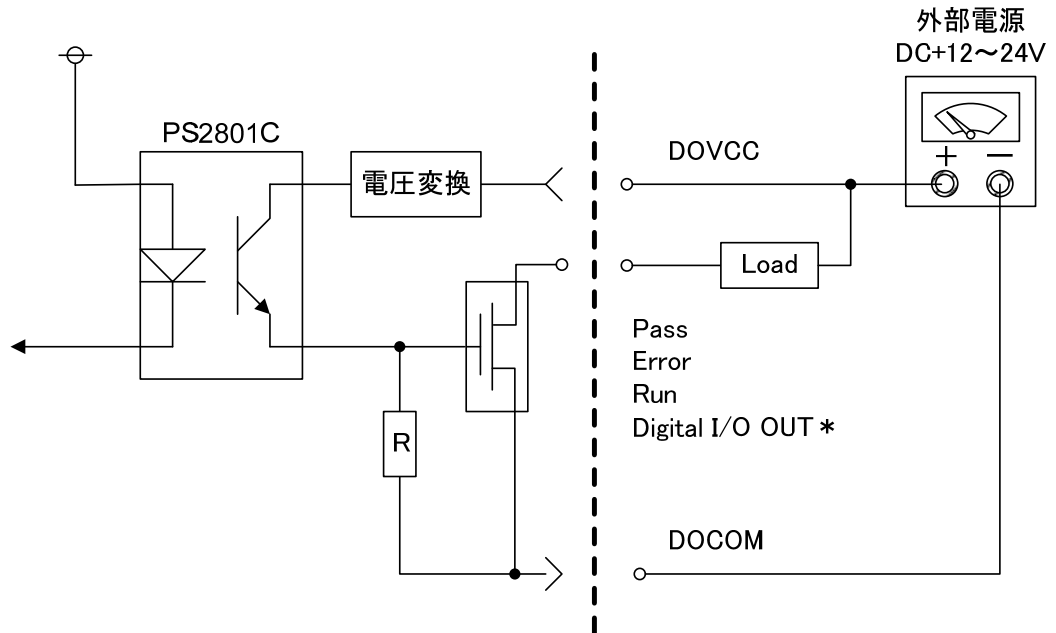


(HDRA-EA36LFDT-SLC+: 本多通信工業)

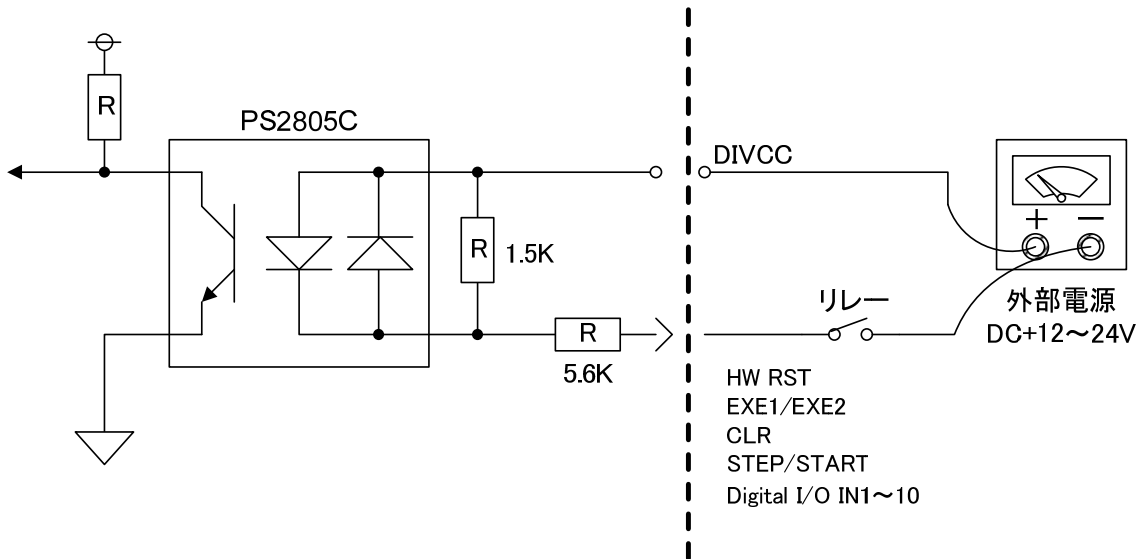
### 8.4.2. 信号表

PIN No	Signal Name	definition	I/O	Type (*3)
1	DOCOM	Digital I/O OUT0~4,Pass,Error,Run用絶縁部グラウンド	-	-
2	DOVCC	過電流保護回路の駆動電源	-	-
3	Pass	PASS状態出力信号 Low: 正常終了 Hiz:上記以外	O	A
4	Error	ERROR状態出力信号 Low: 異常終了 Hiz:上記以外	O	A
5	Run	動作状態出力信号 Low:書き込み・ファンクション実行中 Hiz:上記以外	O	A
6	Digital I/O OUT0	Digital I/O 出力信号0	O	A
7	リザーブ		-	-
8	リザーブ		-	-
9	リザーブ		-	-
10	Digital I/O ST2	Script選択信号2(Digital I/O 入力)	I	B
11	Digital I/O ST3	Script選択信号3(Digital I/O 入力)	I	B
12	Digital I/O ST4	Script選択信号4(Digital I/O 入力)	I	B
13	Digital I/O IN0	Digital I/O 入力信号0	I	B
14	Digital I/O IN1	Digital I/O 入力信号1	I	B
15	Digital I/O IN2	Digital I/O 入力信号2	I	B
16	Digital I/O IN3	Digital I/O 入力信号3	I	B
17	リザーブ		-	-
18	DIVCC	入力用絶縁部電源	-	-
19	DOCOM	Digital I/O OUT0~4,Pass,Error,Run用絶縁部グラウンド	-	-
20	DOVCC	過電流保護回路の駆動電源	-	-
21	Digital I/O OUT1	Digital I/O 出力信号1	O	A
22	Digital I/O OUT2	Digital I/O 出力信号2	O	A
23	Digital I/O OUT3	Digital I/O 出力信号3	O	A
24	Digital I/O OUT4	Digital I/O 出力信号4	O	A
25	リザーブ		-	-
26	リザーブ		-	-
27	DIVCC	入力用絶縁部電源	I	B
28	Digital I/O IN4	Digital I/O 入力信号4	I	B
29	EXE1	EXE1 KEY 端子	I	B
30	EXE2	EXE2 KEY 端子	I	B
31	CLR	RESET KEY端子/ ユーザークリア信号	I	B
32	STEP	ステップ実行入力信号	I	B
33	START	Script信号 取り込みトリガー入力信号	I	B
34	Digital I/O ST0	Script選択信号0(Digital I/O 入力)	I	B
35	Digital I/O ST1	Script選択信号1(Digital I/O 入力)	I	B
36	DIVCC	入力用絶縁部電源	-	-

## 【タイプA】



## 【タイプB】



### 【出力信号の接続】

リレー制御や LED などの電流駆動で制御する機器に接続して使用いたします。

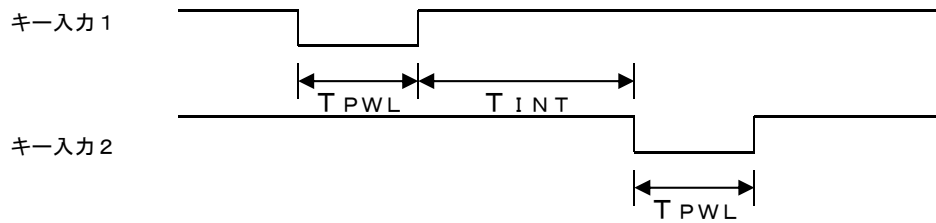
上記【タイプ B】のような電流シンク出力に対応した機器に接続して使用することも可能です。

### 【入力信号の接続】

スイッチやトランジスタの出力をもつ機器など、電流駆動が可能な機器に接続して使用いたします。

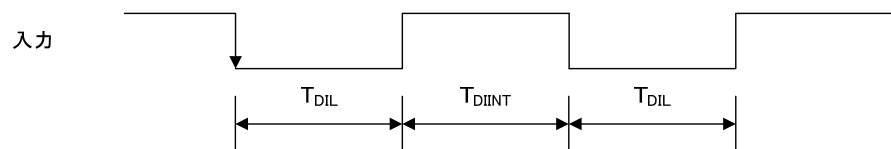
## 8.4.3. タイミング規定

### 【EXE1, EXE2】



	最小	最大
T <sub>PWL</sub>	30ms	200ms
T <sub>INT</sub>	30ms	∞

### 【Digital I/O INx, Digital I/O STx, STEP, START】



	最小	最大
T <sub>DIL</sub>	1ms~256ms(*1)	∞
T <sub>DIINT</sub>	1ms~256ms(*1)	∞

(\*1)フィルタ設定により変更可能

## 8.4.4. 電気的特性

### <Digital I/O 出力 (Type A)>

項目	仕様
出力形式	MOS FET出力(シンクタイプ)
コモン方式	8点/コモン
絶縁方式	フォトカプラ絶縁
定格負荷電圧	12-24V DC
使用負荷電圧範囲	10.2V ~ 26.4V DC
最大負荷電流	0.1A/点, 0.5A/コモン
フェール時動作	出力OFF
外部供給電源	24V DC, 50mA
外部供給電源電圧範囲	10.2 ~ 26.4V DC

### < Digital I/O 入力 (Type B)>

項目	仕様	
入力形式	DC電圧(プラスコモン)	
コモン方式	16点/コモン	
絶縁方式	フォトカプラ絶縁	
定格入力電圧	12-24V DC	
使用電圧範囲	10.2V ~ 26.4V DC	
定格入力電流	4.1mA/点(24V DC)	
入力インピーダンス	5.9k $\Omega$	
動作電圧/電流	8.0V DC以上/1.3mA以上	
	ON	
	OFF	2.9V DC以下/0.3mA以下
応答時間	OFF→ON	40us
	ON→OFF	500us
入力フィルタ設定	1-256ms	

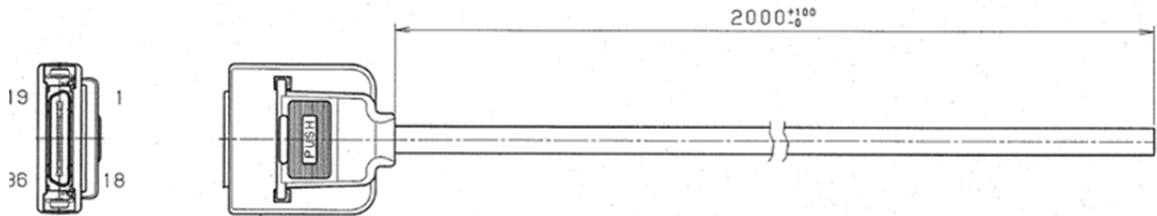
### 注 意

ノイズに過敏な機器で本機能をご使用になられる場合は、実際の波形をご確認いただき、必要に応じてケーブル長を短くしたり、ノイズフィルタを挿入するなどの対策を実施してください。



## 8.4.5. Digital I/O PROBE ( AZ401)

お客様が自由にコネクタを結線して使用できます。

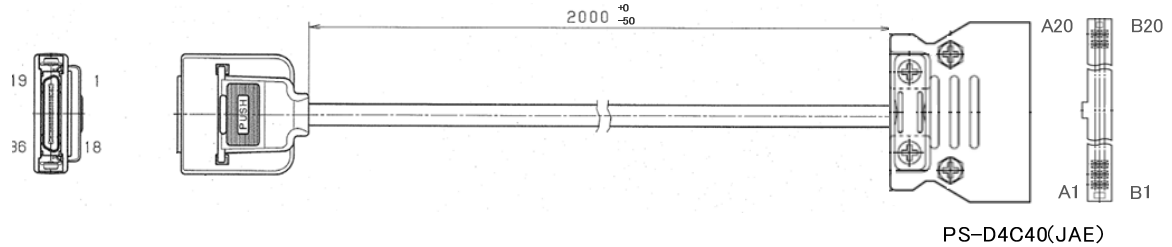


### Tartget-side Wiring Specification

端子番号	端子番号		信号名
	絶縁体色	プリントマーク	
1	橙	赤短点 1	DOCOM
2		黒短点 1	DOVCC
3	灰	赤短点 1	Pass
4		黒短点 1	Error
5	白	赤短点 1	RUN
6		黒短点 1	Digital I/O OUT0
7	黄	赤短点 1	Rsv
8		黒短点 1	Rsv
9	桃	赤短点 1	Rsv
10		黒短点 1	Digital I/O ST2
11	橙	赤短点 2	Digital I/O ST3
12		黒短点 2	Digital I/O ST4
13	灰	赤短点 2	Digital I/O IN0
14		黒短点 2	Digital I/O IN1
15	白	赤短点 2	Digital I/O IN2
16		黒短点 2	Digital I/O IN3
17	黄	赤短点 2	RSV
18		黒短点 2	DIVCC
19	桃	赤短点 2	DOCOM
20		黒短点 2	DOVCC
21	橙	赤短点 3	Digital I/O OUT1
22		黒短点 3	Digital I/O OUT2
23	灰	赤短点 3	Digital I/O OUT3
24		黒短点 3	Digital I/O OUT4
25	白	赤短点 3	Rsv
26		黒短点 3	Rsv
27	黄	赤短点 3	DIVCC
28		黒短点 3	Digital I/O IN4
29	桃	赤短点 3	EXE1
30		黒短点 3	EXE2
31	橙	赤短点 4	CLR
32		黒短点 4	STEP
33	灰	赤短点 4	START
34		黒短点 4	Digital I/O ST0
35	白	赤短点 4	Digital I/O ST1
36		黒短点 4	DIVCC

## 8.4.6. Digital I/O PROBE ( AZ403)

お客様の Digital I/O 環境上に MIL 規格準拠コネクタを実装していただく場合に使用できます。



**NETIMPRESS-side**

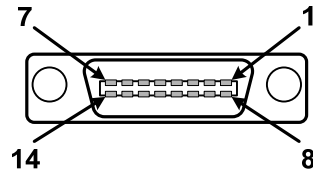
端子番号	信号名
1	DOCOM
2	DOVCC
3	Pass
4	Error
5	RUN
6	Digital I/O OUT0
7	Rsv
8	Rsv
9	Rsv
10	Digital I/O ST2
11	Digital I/O ST3
12	Digital I/O ST4
13	Digital I/O IN0
14	Digital I/O IN1
15	Digital I/O IN2
16	Digital I/O IN3
17	RSV
18	DIVCC
19	DOCOM
20	DOVCC
21	Digital I/O OUT1
22	Digital I/O OUT2
23	Digital I/O OUT3
24	Digital I/O OUT4
25	Rsv
26	Rsv
27	DIVCC
28	Digital I/O IN4
29	EXE1
30	EXE2
31	CLR
32	STEP
33	START
34	Digital I/O ST0
35	Digital I/O ST1
36	DIVCC

**Digital I/O System-side**

端子番号	信号名
A1	DOCOM
A2	DOVCC
A3	Pass
A4	Error
A5	RUN
A6	Digital I/O OUT0
A7	Rsv
A8	Rsv
A9	Rsv
A10	Digital I/O ST2
A11	Digital I/O ST3
A12	Digital I/O ST4
A13	Digital I/O IN0
A14	Digital I/O IN1
A15	Digital I/O IN2
A16	Digital I/O IN3
A17	RSV
A18	DIVCC
A19	DOCOM
A20	DOVCC
B1	Digital I/O OUT1
B2	Digital I/O OUT2
B3	Digital I/O OUT3
B4	Digital I/O OUT4
B5	Rsv
B6	Rsv
B7	DIVCC
B8	Digital I/O IN4
B9	EXE1
B10	EXE2
B11	CLR
B12	STEP
B13	START
B14	Digital I/O ST0
B15	Digital I/O ST1
B16	DIVCC
B17	n.c
B18	n.c
B19	n.c
B20	n.c

## 8.5. バーコードリーダーインターフェース

### 8.5.1. コネクタ (BCR PROBE)



HDR-EC14LFDT1-SLM+  
(本多通信工業)

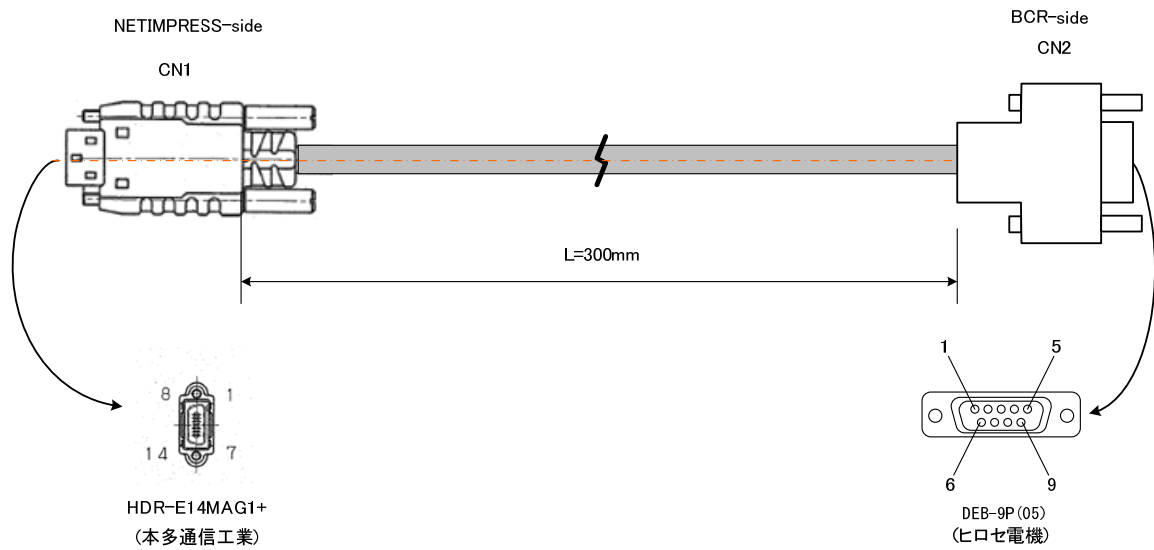
### 8.5.2. 信号表

ピン番号	信号名	定義	I/O
1	VCC	5V出力(1,6ピン合わせて最大500mA)	OUT
2	GND	GND	-
3	RSV	-	-
4	RSV	-	OUT
5	RXD	通信用の受信入力	IN
6	VCC	5V出力(1,6ピン合わせて最大500mA)	OUT
7	RSV	-	-
8	RSV	-	-
9	RSV	-	-
10	NC	NC	-
11	NC	NC	-
12	NC	NC	-
13	GND	GND	-
14	GND	GND	-

### 8.5.3. 電気的特性

信号種類	DC 特性	AC 特性
OUT	VOHmin : 5V VOLmax : -5V	スルーレート : 30V/ $\mu$ sec 以下
IN	VIHmin: +3V VILmax: -3V	

## 8.5.4. BCR PROBE (AZ402)



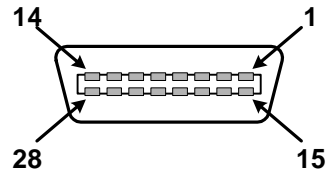
NETIMPRESS-side	
Pin. No	Signal name
1	VCC
8	RSV
2	GND
9	RSV
3	RSV
10	NC
4	RSV
11	NC
5	RXD
12	NC
6	VCC
13	GND
7	RSV
14	GND

BCR-side	
Pin. No	Signal name
1	NC
2	RXD
3	RSV
4	NC
5	GND
6	RSV
7	RSV
8	RSV
9	VCC

## 8.6. ターゲット・インターフェース

### 8.6.1. コネクタ ( TARGET PROBE 1 )

勘合面から見たコネクタのピン配列



DX10-28S ( ヒロセ電機製 )

## 8.6.2. 信号表

ターゲット・インターフェース・コネクタの信号一覧を下表に記します。

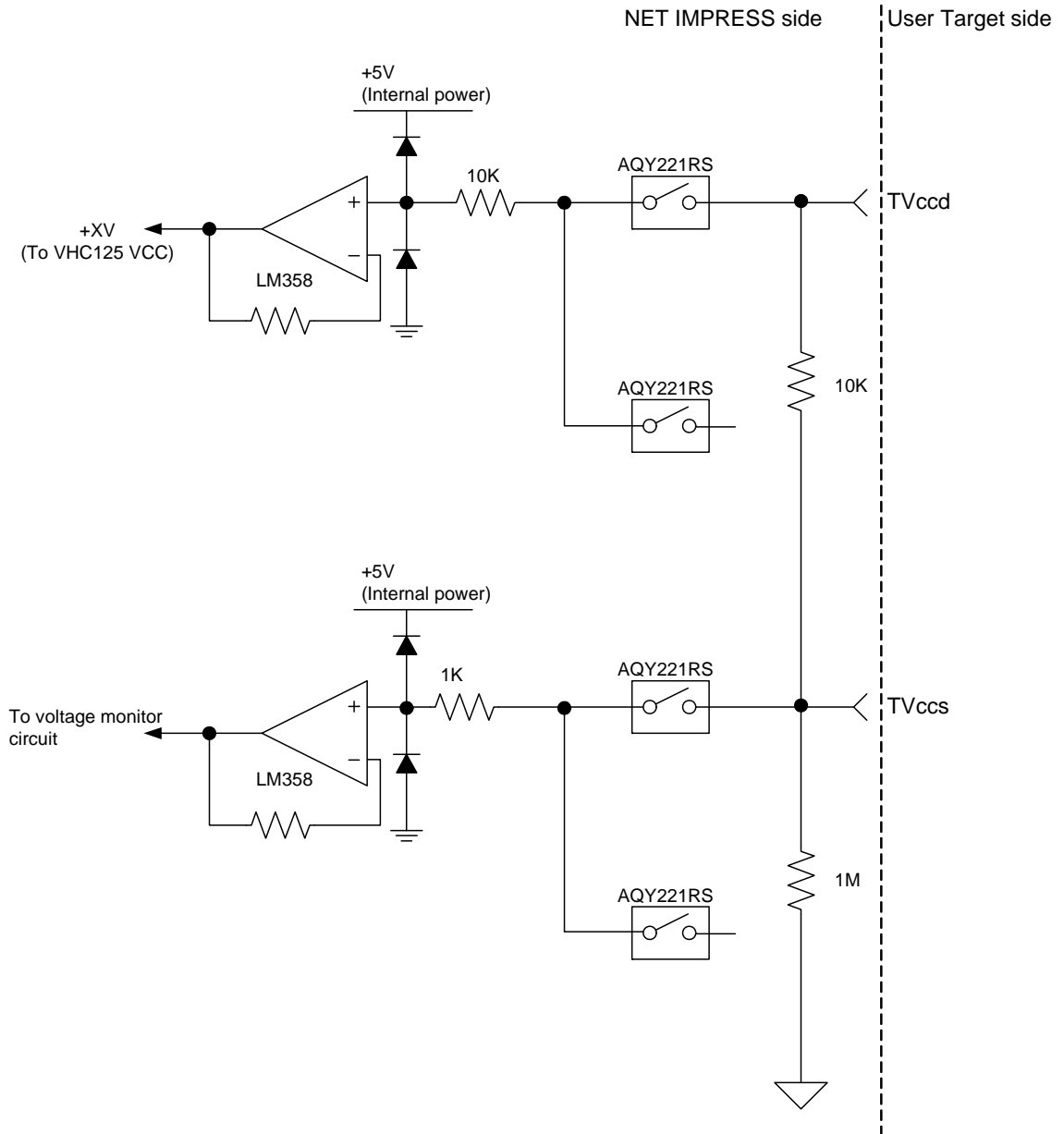
ピン番号	信号名	定義	回路タイプ
1	GND	GND	-
2	TVccd	通常はユーザー電源入力 (オプションのアダプタ装着時のアダプタI/F用ドライバ電源)	1
3	Vcc	5V出力(最大100mA)	7
4	TRES	正論理のリセット出力	3
5	/TRES	負論理のリセット出力(オープンコレクタ出力)	2
6	TCK	クロック同期通信用のクロック出力	8
7	NC	NC	-
8	NC	RESERVED	-
9	TAUX2	出力端子(コントロールモジュールによって定義が異なります)	3
10	/TICS		3
11	/TOE	出力端子(コントロールモジュールによって定義が異なります)	3
12	TMODE	出力端子(コントロールモジュールによって定義が異なります)	3
13	TTXD	通信用の送信出力(双方向通信の時は送受信端子となります)	9
14	GND	GND	-
15	GND	GND	-
16	/TVpp1_EN	負論理のプログラム用電圧出力制御端子	2
17	/TVpp2_EN	負論理のプログラム用電圧出力制御端子	2
18	WDT	ウォッチドッグタイマ出力(オープンコレクタ出力)	2
19	TAUX3	入出力端子(コントロールモジュールによって定義が異なります)	4
20	TAUX4	入出力端子(コントロールモジュールによって定義が異なります)	4
21	NC	RESERVED	-
22	PROBE SELECT	TARGET PROBE1 / TARGET PROBE2 の選択端子	-
23	TAUX	入出力端子(コントロールモジュールによって定義が異なります)	4
24	TBUSY	クロック同期通信用のBUSY入力	6
25	TIO	入出力端子(コントロールモジュールによって定義が異なります)	6
26	TVccs	通常は未使用 (オプションのアダプタ装着時のユーザ電源監視用入力)	1
27	TRXD	通信用の受信入力	10
28	GND	GND	-

### (注意事項)

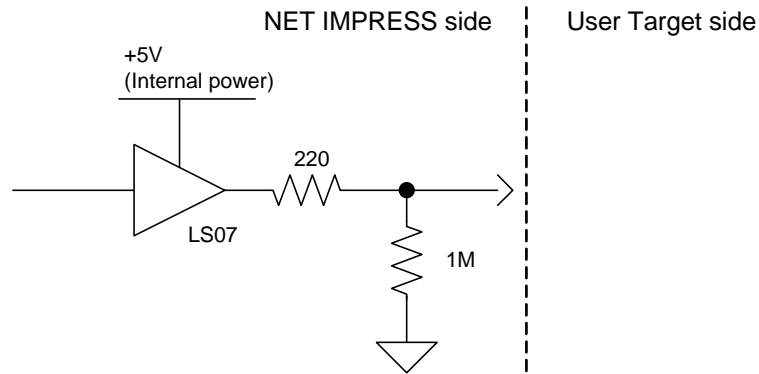
1. ユーザシステム側から見た入力信号は、本器を接続しない場合の誤動作を考慮してプルアップ抵抗 (10K $\Omega$ 程度) を付けることをお勧めします。
2. 特定の信号線はコントロールモジュールにより定義が異なります。詳しくは各コントロールモジュールのマニュアルをご覧ください。
3. /TICSを使う場合は10K $\Omega$ 程度の抵抗でプルアップしてください。
4. カレントリミッタを搭載しています。  
200[mA]を越える電流が1.6[ms]以上流れたときに、カレントリミッタが働きます。  
Vppラインにコンデンサを接続するときは上記の条件を満たすコンデンサをご使用ください。

## 8.6.3. インタフェース回路タイプ

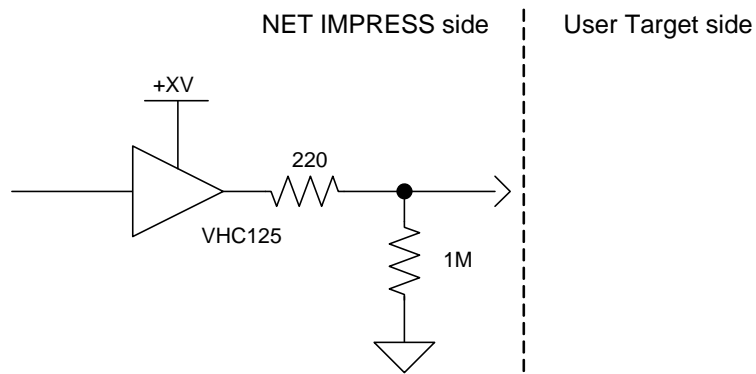
### 【タイプ1】



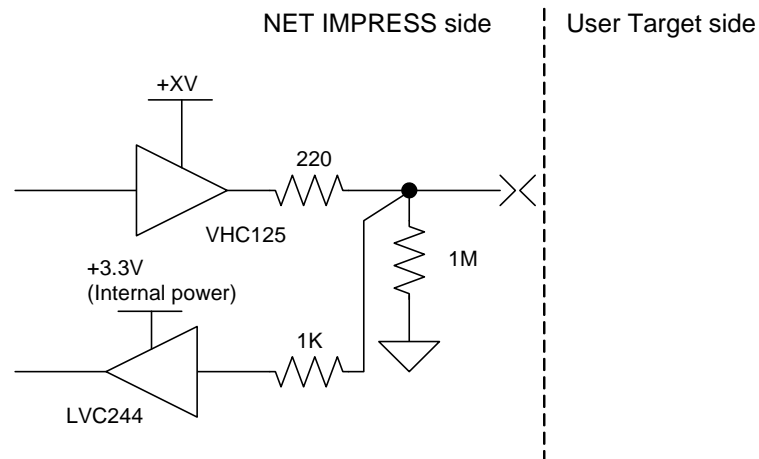
## 【 タイプ2 】



## 【 タイプ3 】

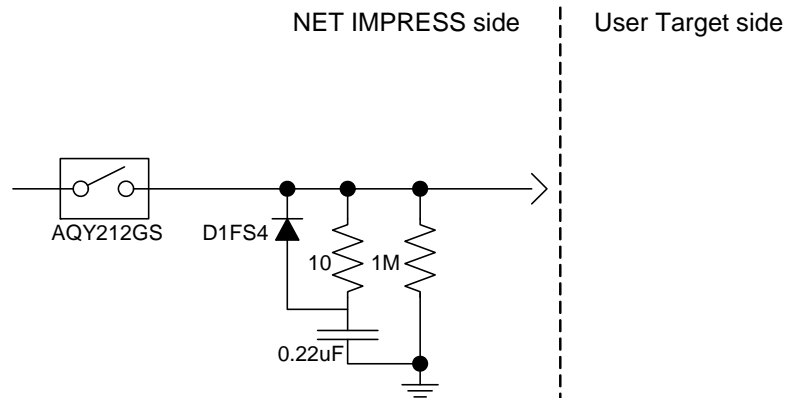


## 【 タイプ4 】

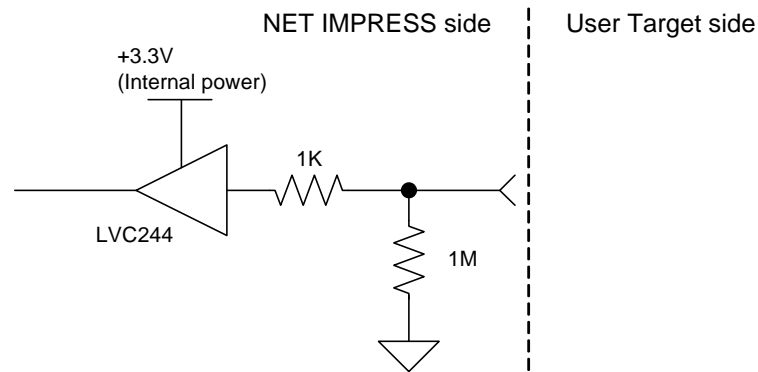




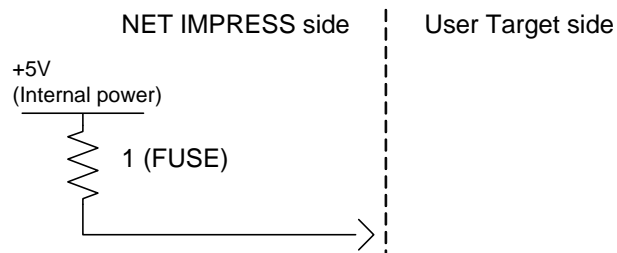
## 【 タイプ5 】



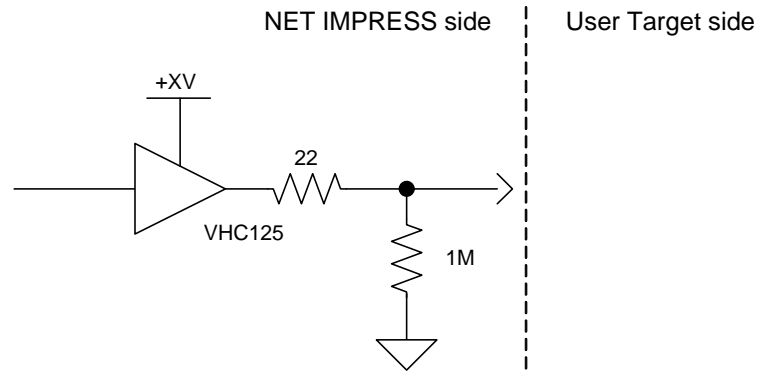
## 【 タイプ6 】



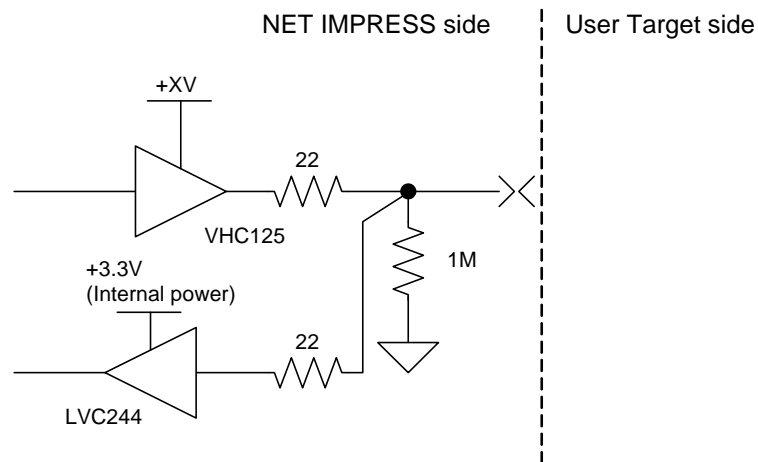
## 【 タイプ7 】



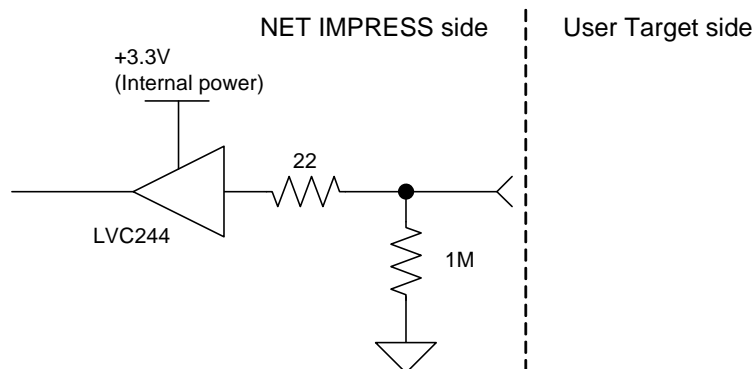
## 【 タイプ8 】



## 【 タイプ9 】



## 【 タイプ10 】



## 8.6.4. DC特性

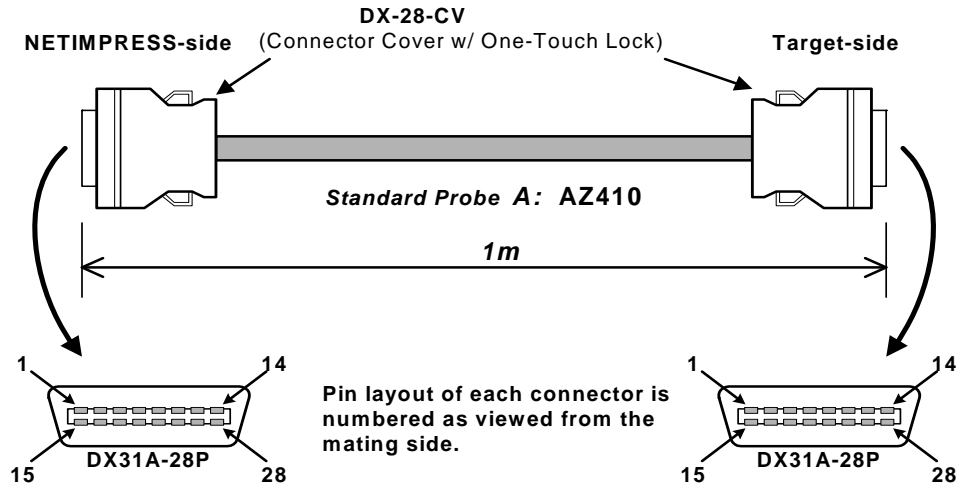
### ターゲット・インターフェース DC特性一覧

名称	端子名	パラメータ	略称			単位	条件
供給MCU電源	Vcc	供給電圧	Vcc		5.0 ±5%	V	
		供給電流(Icc)	Icc	max	100	mA	
ユーザ電源入力1	TVccd	入力許容電圧	TVccd	min	0	mA	
		入力電流	TIccd	max	5.25	V	
ユーザ電源入力2	TVccs	入力範囲	TVccs		2.0~5.25	V	
		入力電流	TIccs	max	500	μA	
TVccスレッシュホールド*	TVccs	検出精度			4.9	mV	
		設定単位			0.1	V	
ターゲットIF入力ポート	TIO, TRXD, TBSY	入力許容電圧	TIF1IV	max	5.5	V	
		入力“H”レベル	TIF1IV_VIH	min	2	V	
		入力“L”レベル	TIF1IV_VIL	max	0.8	V	
		入力電流	TIF1IV_II	max	±1	uA	
	TTXD, TAUX, TAUX3, TAUX4	入力許容電圧	TIF2IV	max	5.5	V	
		入力“H”レベル	TIF2IV_VIH	min	2	V	
		入力“L”レベル	TIF2IV_VIL	max	0.8	V	
		入力電流	TIF2IV_II	max	±1	uA	
ターゲットIF出力ポート	TRES,TCK, TAUX2, /TICS, /TOE, TMODE	出力電圧	TIF3OV	max	TVccd	V	
		出力“H”レベル	TIF3OV_VOH	min	2.4	V	TVccd=3.3V
		出力“L”レベル	TIF3OV_VOL	max	3.8	V	TVccd=5V
		出力許容電流	TIF3OI	max	0.5	V	
	TTXD, TAUX, TAUX3, TAUX4	出力電圧	TIF2OV	max	TVccd	V	
		出力“H”レベル	TIF2OV_VOH	min	2.4	V	TVccd=3.3V
		出力“L”レベル	TIF2OV_VOL	max	3.8	V	TVccd=5V
		出力許容電流	TIF2OI	max	0.5	V	
	/TRES,WDT /TVpp1_EN /TVpp2_EN	印可電圧	Vin	max	±8	mA	
		出力“L”レベル	TIF4OV_VOL	max	7	V	Isink=-3mA

## 8.6.5. インターフェース・ケーブル (AZ410)

ターゲット・ボード上に DX10-28S(HRS)相当のコネクタを実装していただく場合に使用します。

※AZ410A は Probe Select と GND がショートしています。



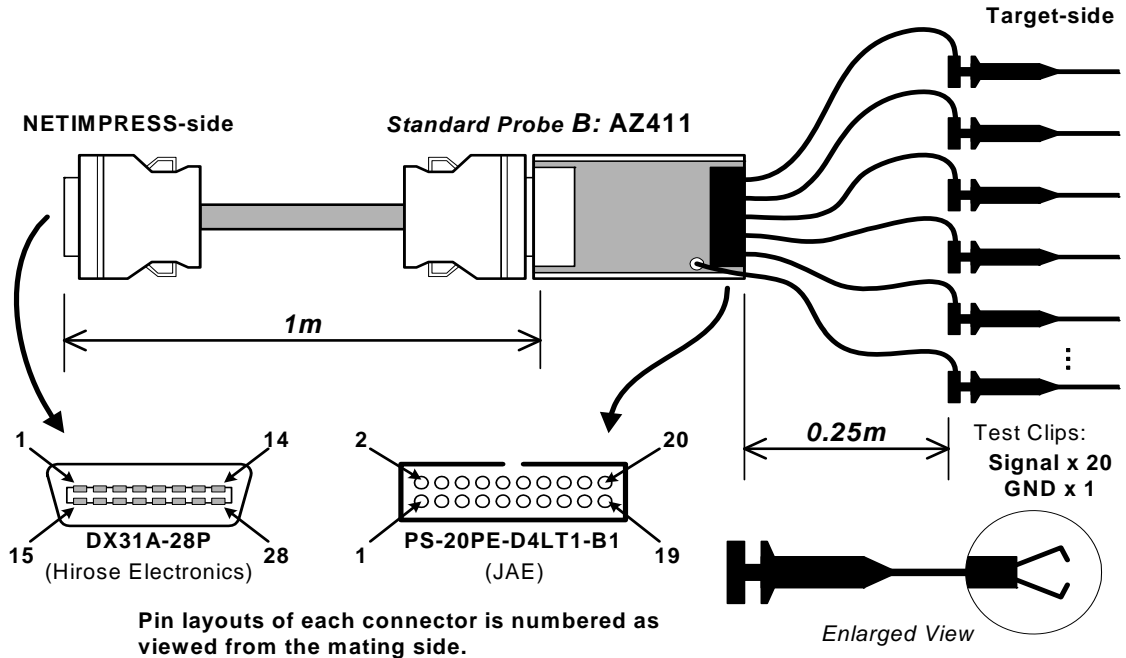
\*Connectors

Manufacturer: Hirose Electronics

## 8.6.6. インターフェース・ケーブル (AZ411, AZ413)

ターゲット・ボード上にコネクタを実装できない場合に、テストピン等に接続して使用します。

AZ413 には、IC テスト・クリップがなく、先端が未処理になっています。



NETIMPRESS-side  
Standard Signal Pin Assign

Pin No.	NETIMPRESS Standard Signal Name
1	GND
2	TVccd
3	Vcc
4	TRES
5	/TRES
6	TCK
7	Reserved
8	GND
9	TAUX2 (TR/W)
10	/TICS
11	TAUX5 (/TOE)
12	TMODE
13	TTXD
14	GND
15	GND
16	TVpp1
17	TVpp2
18	WDT
19	TAUX3 (TVpp1C)
20	TAUX4 (TVpp2C)
21	GND
22	Probe select
23	TAUX
24	TBUSY
25	TIO
26	TVccs (TI1)
27	TRXD
28	GND

Target-side  
Test Clips Signal Pin Assign

Pin No.	Lead Color	NETIMPRESS Signal Name	I/O
1	Brown	TRXD	I
2	Red	TTXD	O
3	Orange	TVccs (TI1)	I
4	Yellow	TMODE	O
5	Green	TIO	I
6	Blue	TAUX5 (/TOE)	O
7	Violet	TBUSY	I
8	Grey	/TICS	O
9	White	TAUX	O
10	White & Black	TAUX2 (TR/W)	O
11	White & Brown	TAUX4 (TVpp2C)	O
12	White & Red	TCK	O
13	White & Orange	TAUX3 (TVpp1C)	O
14	White & Yellow	/TRES	O
15	White & Green	WDT	O
16	White & Blue	TRES	O
17	White & Violet	TVpp2	O
18	White & Grey	Vcc	O
19	Yellow & Green	TVpp1	O
20	Light-Blue	TVccd	I

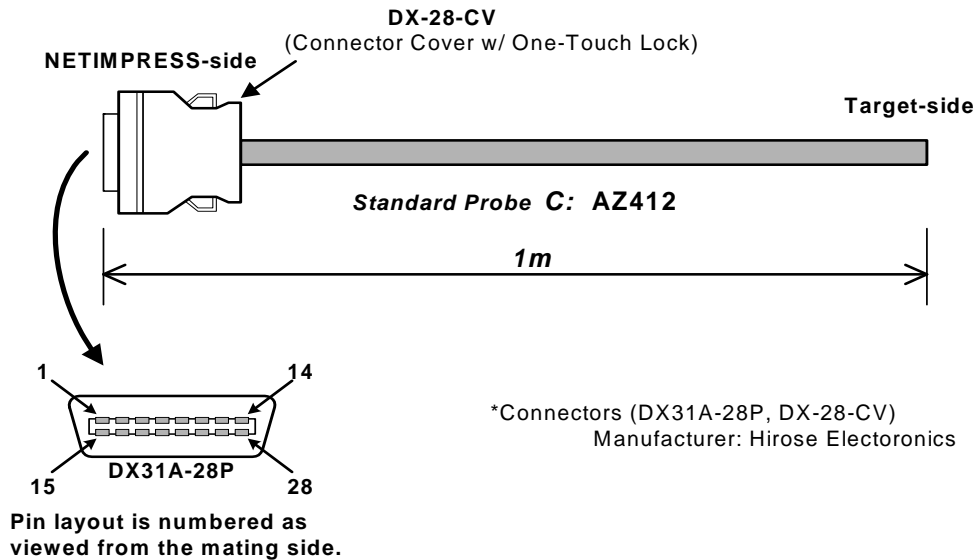
GND (Black) : Directly Soldered to PWB.

※ pin19の線色は、製造ロットにより(以前のものは)“Light-Green”のものがあります。  
(最新のものは、“Green”と判別し易くする為、線色変更しておりますのでご了承ください。)

## 8.6.7. インターフェース・ケーブル (AZ412)

お客様が自由にコネクタを結線して使用できます。

※AZ410Aは Probe Selectと GND がショートしています。



\*Connectors (DX31A-28P, DX-28-CV)  
Manufacturer: Hirose Electronics

**NETIMPRESS-side  
Standard Signal Pin Assign**

Pin No.	NETIMPRESS Standard Signal Name
1	GND
2	TVccd
3	Vcc
4	TRES
5	/TRES
6	TCK
7	Reserved
8	GND
9	TAUX2 (TR/W)
10	/TICS
11	TAUX5 (/TOE)
12	TMODE
13	TTXD
14	GND
15	GND
16	TVpp1
17	TVpp2
18	WDT
19	TAUX3 (TVpp1C)
20	TAUX4 (TVpp2C)
21	GND
22	Probe select
23	TAUX
24	TBUSY
25	TI0
26	TVccs (TI1)
27	TRXD
28	GND

**Target-side  
Wiring Specification**

Pin No.	NETIMPRESS Standard Signal Name	Insulator Color	Dot Mark
1	GND	Pink	Black ■
2	TVccd	Yellow	Red ■■
3	Vcc	Gray	Black ■■
4	TRES	Pink	Red ■
5	/TRES	Yellow	Red ■
6	TCK	Orange	Red ■
7	Reserved	Yellow	Red ■■■
8	GND	Orange	Black ■
9	TAUX2 (TR/W)	Pink	Black ■■
10	/TICS	Gray	Red ■■
11	TAUX5 (/TOE)	Gray	Red ■■■
12	TMODE	Gray	Black ■■■
13	TTXD	Gray	Red ■
14	GND	Gray	Black ■
15	GND	Orange	Black ■■
16	TVpp1	White	Red ■■
17	TVpp2	White	Black ■■
18	WDT	Orange	Red ■■
19	TAUX3 (TVpp1C)	Orange	Red ■■■
20	TAUX4 (TVpp2C)	Orange	Black ■■■
21	GND	Yellow	Black ■
22	Probe select	Yellow	Black ■■■
23	TAUX	Pink	Red ■■
24	TBUSY	White	Red ■■■
25	TI0	White	Black ■■■
26	TVccs (TI1)	Yellow	Black ■■
27	TRXD	White	Red ■
28	GND	White	Black ■

## 8.7. CAN インターフェース

「/CAN」オプションの NETIMPRESS next では、CAN インターフェースをサポートしております。

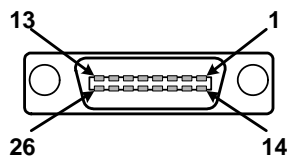
(注意)

ケーブルセレクト設定 (Function CD0) を「自動選択 (CABLE SELECT)」としている場合、ターゲット・インターフェース (TARGET PROBE1) にインターフェース・ケーブル (AZ410, AZ411, AZ412, AZ413) が接続されていると、CAN インターフェースは無効となります。

CAN インターフェースを有効とする場合はターゲット・インターフェース (TARGET PROBE1) からインターフェース・ケーブルを取り外すか、ケーブルセレクト設定 (Function CD0) を「CAN 優先 (TARGET PROBE 2)」としてください。

### 8.7.1. コネクタ (TARGET PROBE 2)

勘合面から見たコネクタのピン配列



HDR-EA26LFYPG1+  
(本多通信工業)

## 8.7.2. 信号表

CAN インターフェース側入出力信号の説明を以下に示します。

PIN No.	Signal Name	definition	I/O	Type (*3)
1	GND	GND	-	-
2	/TRES	負論理のリセット出力(オープンコレクタ出力)	O	H
3	reserved	予約済み信号線です。接続しないでください	-	-
4	TTxD	通信用の送信出力(双方向通信時は送受信(入出力))	I/O	D
5	TRxD	通信用の受信入力	I	F
6	reserved	予約済み信号線です。接続しないでください	-	-
7	reserved	予約済み信号線です。接続しないでください	-	-
8	TAUX	出力端子(コントロールモジュールにより定義が異なります)	O	C
9	TAUX3(TVpp1C)	出力端子(コントロールモジュールにより定義が異なります)	O	C
10	/TICS	ターゲット電源制御用	O	C
11	CANH_High (*2)(*4)	CAN 通信用の CAN_High (High Speed CAN)	I/O	J
12	CANH_Low (*2)	CAN 通信用の CAN_High (Low Speed CAN)	I/O	K
13	Reserved	予約済み信号線です。接続しないでください	-	-
14	TCK	クロック同期通信用のクロック出力	O	E
15	TRES	正論理のリセット出力	O	B
16	TVccs (*1)	ユーザー電源入力(ユーザ電源監視用)	I	A
17	Reserved	予約済み信号線です。接続しないでください	-	-
18	Reserved	予約済み信号線です。接続しないでください	-	-
19	WDT	ウォッチドッグタイマ出力	O	H
20	TBUSY	クロック同期通信用の BUSY 入力	I	G
21	TAUX2(TRW)	出力端子(コントロールモジュールにより定義が異なります)	O	C
22	TAUX4(TVpp2C)	出力端子(コントロールモジュールにより定義が異なります)	O	C
23	TMODE	出力端子(コントロールモジュールにより定義が異なります)	O	I
24	CANL_High(*2) (*4)	CAN 通信用の CAN_Low (High Speed CAN)	I/O	J
25	CANL_Low (*2)	CAN 通信用の CAN_Low (Low Speed CAN)	I/O	K
26	GND	GND	-	-

(\*1) ライタ内部でターゲット電源監視を行う場合のみ使用します。

最大引込み電流  $I_{cc(max)} = 500\mu A$

(\*2) 入出力電圧範囲 : CAN 通信電圧レベル

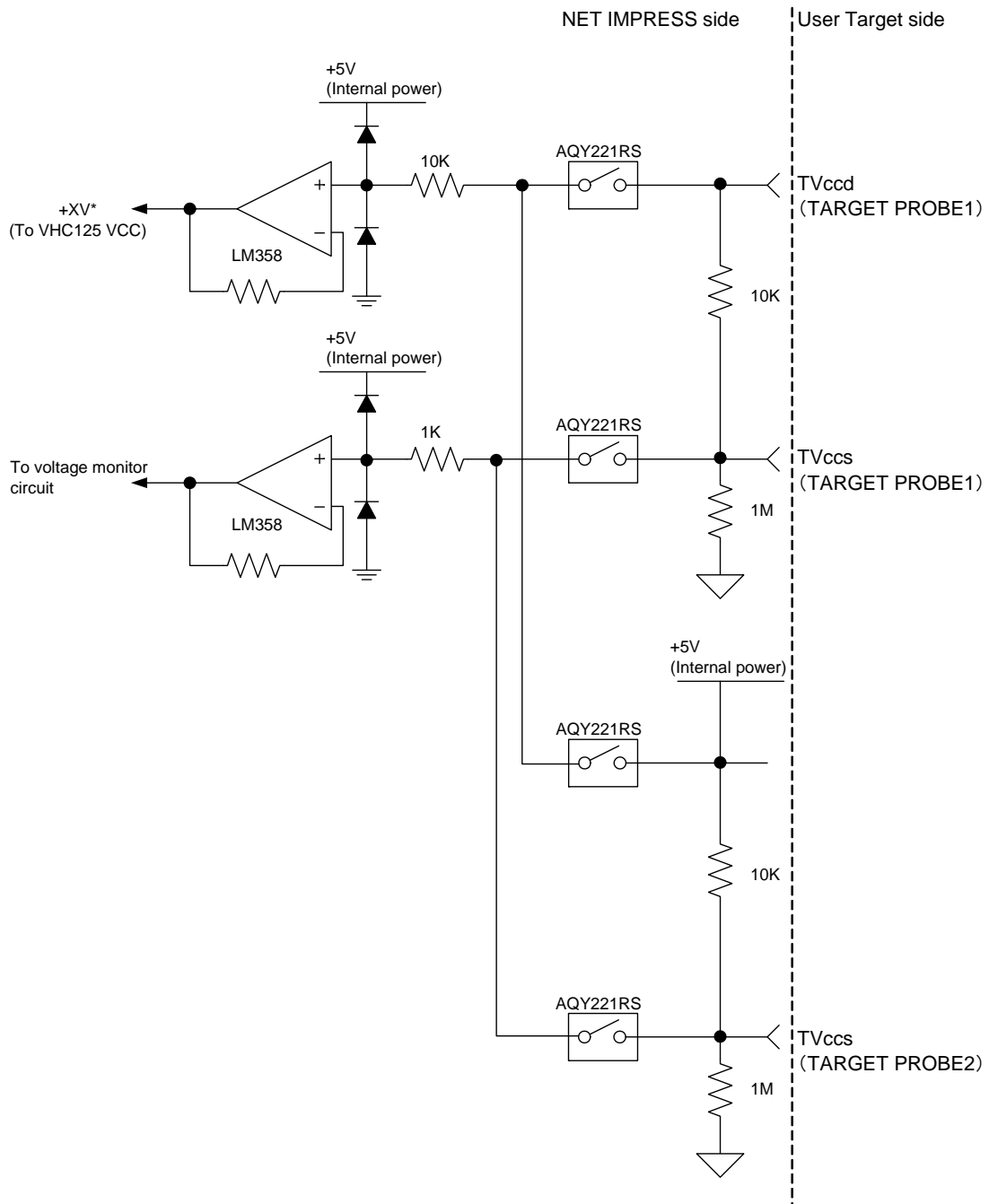
(\*3) 信号線の入出力回路タイプを示します。詳細は次ページ以降を参照下さい。

(\*4) **終端抵抗のデフォルト値はオープンです。終端抵抗は各コントロールモジュールにてオープン/60Ω/120Ωに変更可能です。詳細はコントロールモジュールのマニュアルをご覧ください。**

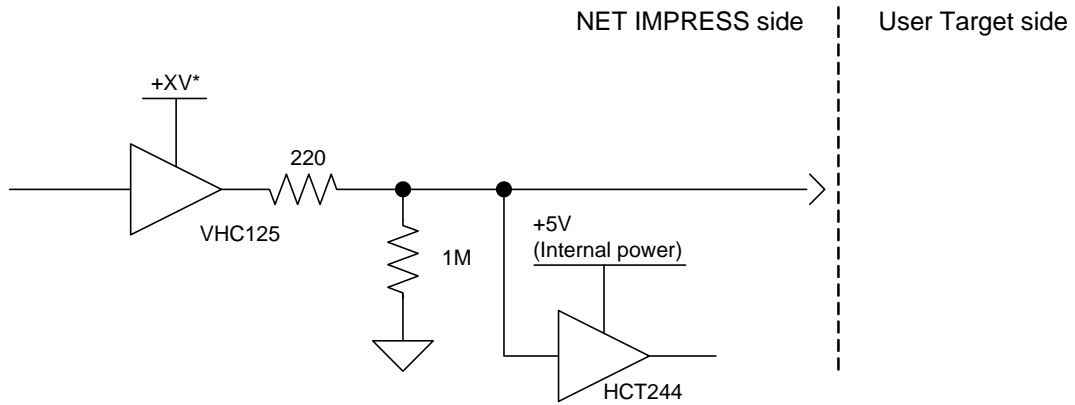
コントロールモジュール毎の信号定義につきましては、各コントロールモジュールのマニュアルをご覧ください。



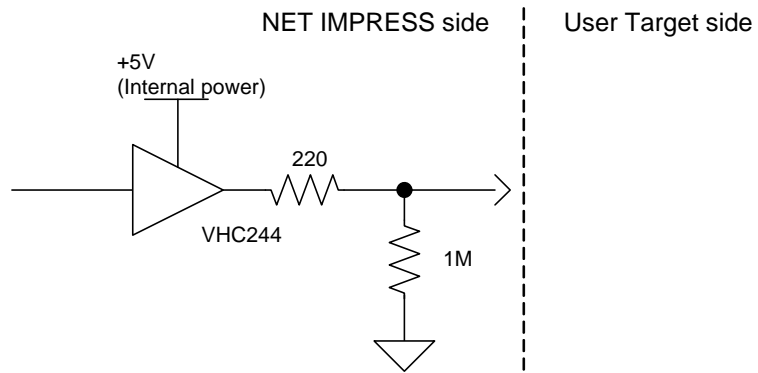
## 8.7.3. インターフェース回路タイプ 【 Type A 】



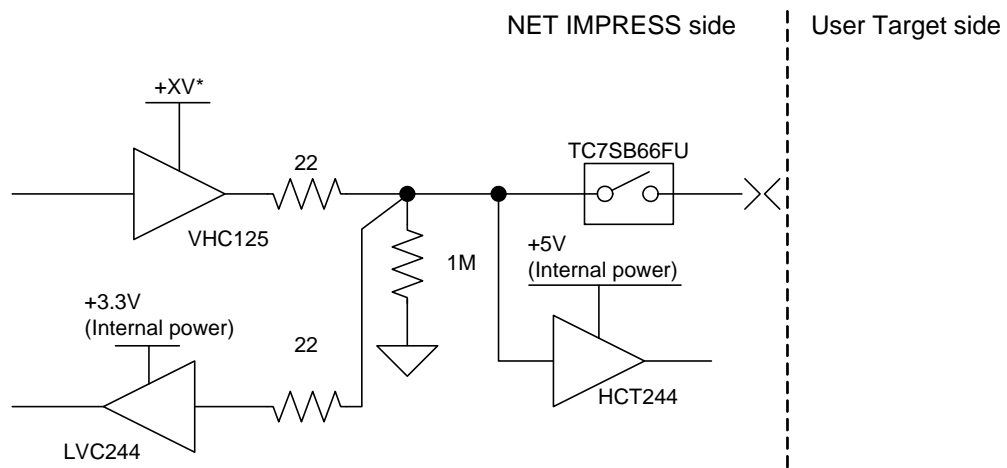
## 【 Type B 】



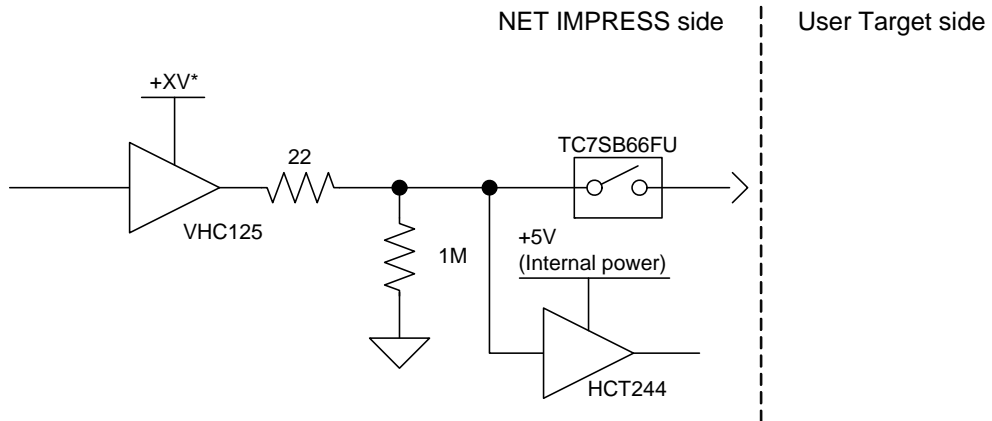
## 【 Type C 】



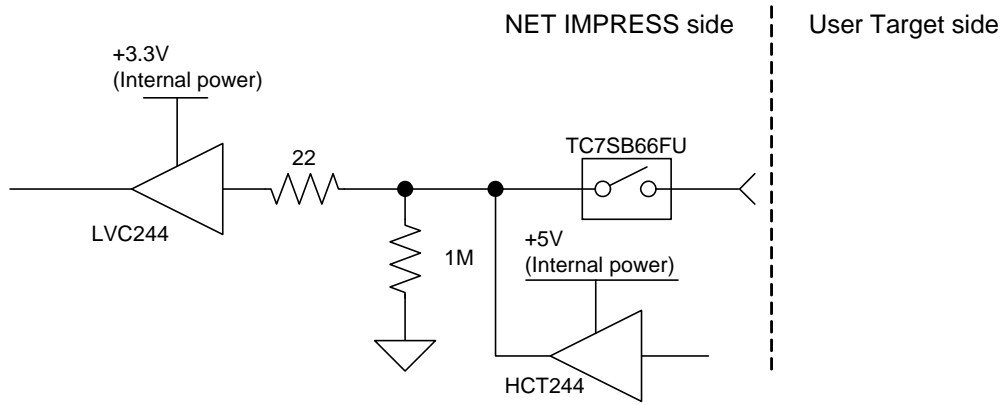
## 【 Type D 】



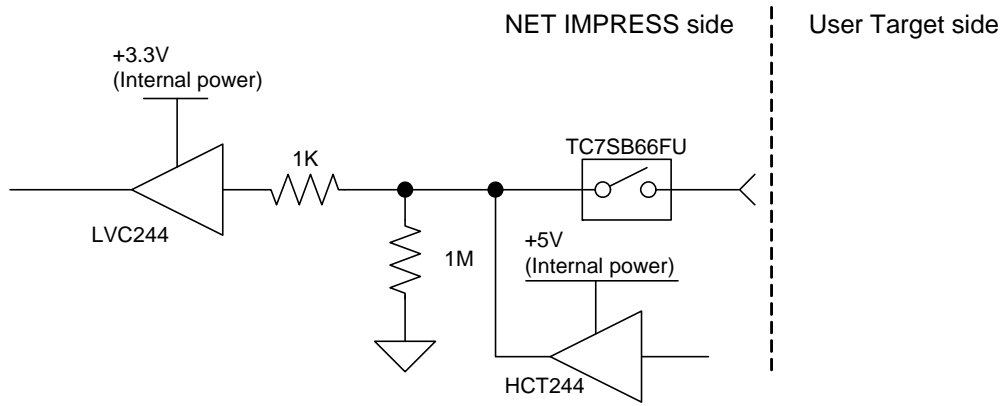
## 【 Type E 】



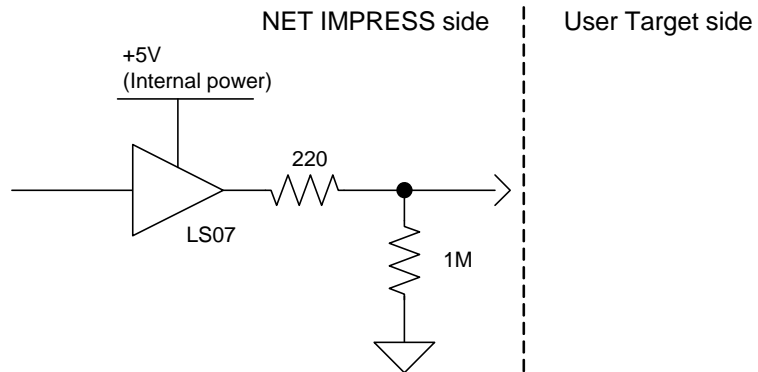
## 【 Type F 】



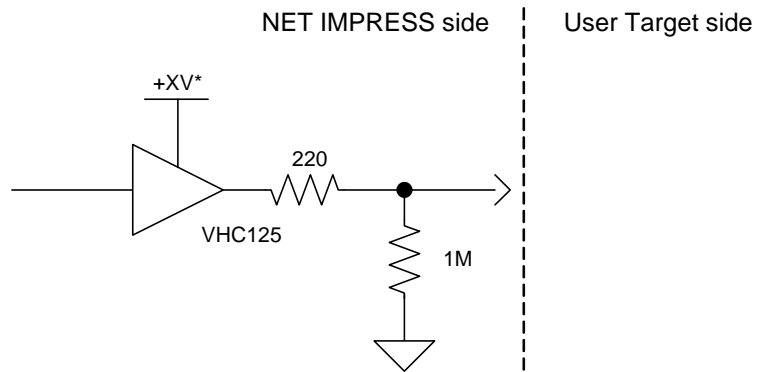
## 【 Type G 】



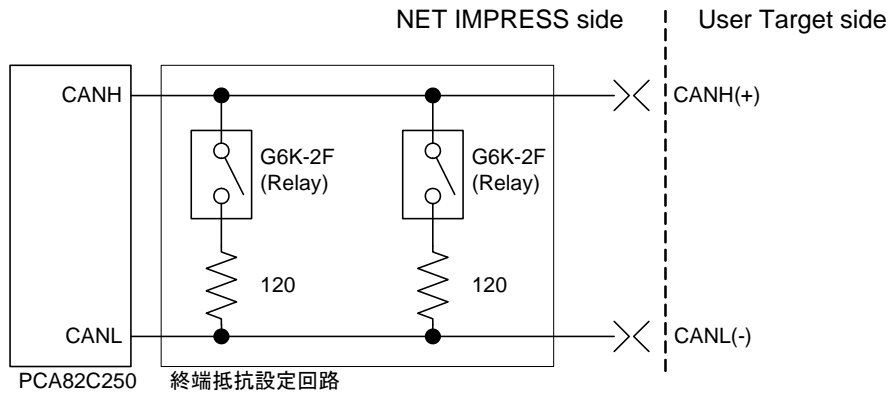
## 【 Type H 】



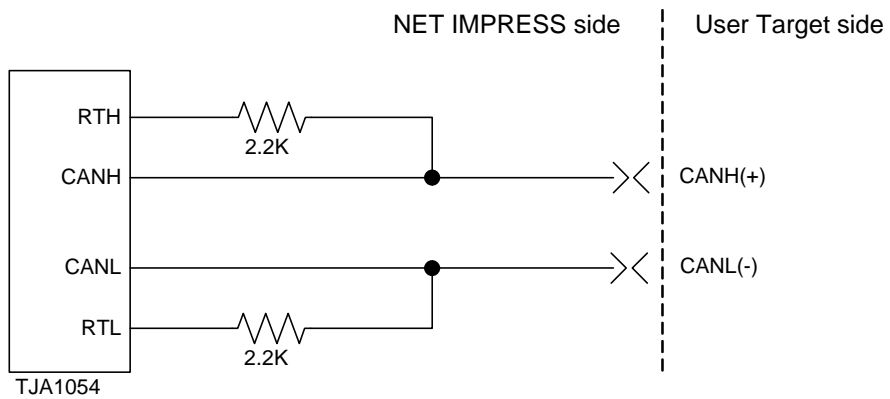
## 【 Type I 】



## 【 Type J 】

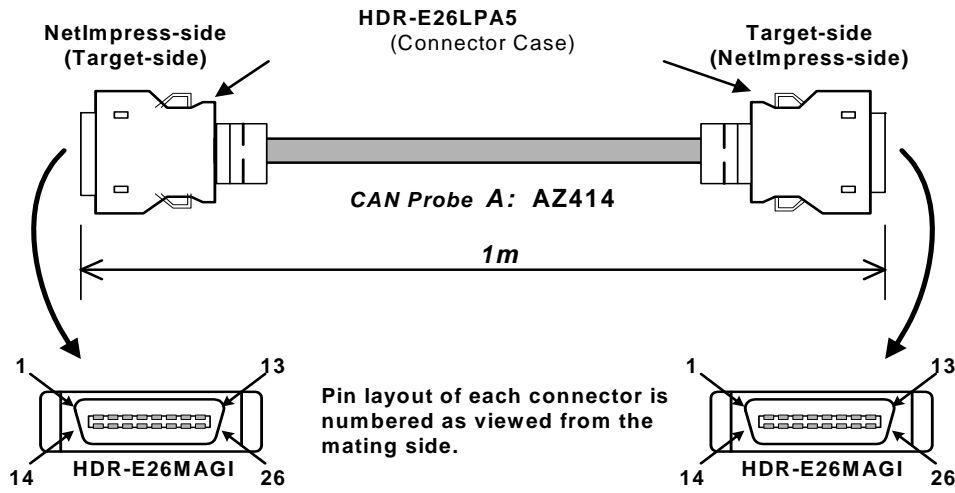


## 【 Type K 】



## 8.7.4. CAN インターフェース・ケーブル (AZ414)

ターゲット・ボード上に HDR-EA26LFYPG1-SLE 相当のコネクタを実装していただく場合に使用します。



\*Connectors

Manufacturer: HONDA TUSHIN KOGYO CO., LTD.

### AZ414配線表

AZ414 : NetImpress-side(Target-side)  
Standard Signal Pin Assign

Pin No.	NetImpress Standard Signal Name
1	GND
2	/TRES
3	Reserved
4	TTxD
5	TRxD
6	Reserved
7	Reserved
8	TAUX
9	TAUX3
10	/TICS
11	CANH_high *1
12	CANH_low *2
13	Reserved
14	TCK
15	TRES
16	TVccs
17	Reserved
18	Reserved
19	WDT
20	TBUSY
21	TAUX2
22	TAUX4
23	TMODE
24	CANL_high *1
25	CANL_low *2
26	GND

AZ414 : Target-side(NetImpress-side)  
Standard Signal Pin Assign

Pin No.	NetImpress Standard Signal Name
1	GND
2	/TRES
3	Reserved
4	TTxD
5	TRxD
6	Reserved
7	Reserved
8	TAUX
9	TAUX3
10	/TICS
11	CANH_high *1
12	CANH_low *2
13	Reserved
14	TCK
15	TRES
16	TVccs
17	Reserved
18	Reserved
19	WDT
20	TBUSY
21	TAUX2
22	TAUX4
23	TMODE
24	CANL_high *1
25	CANL_low *2
26	GND

\*1 \_high = High Speed CAN

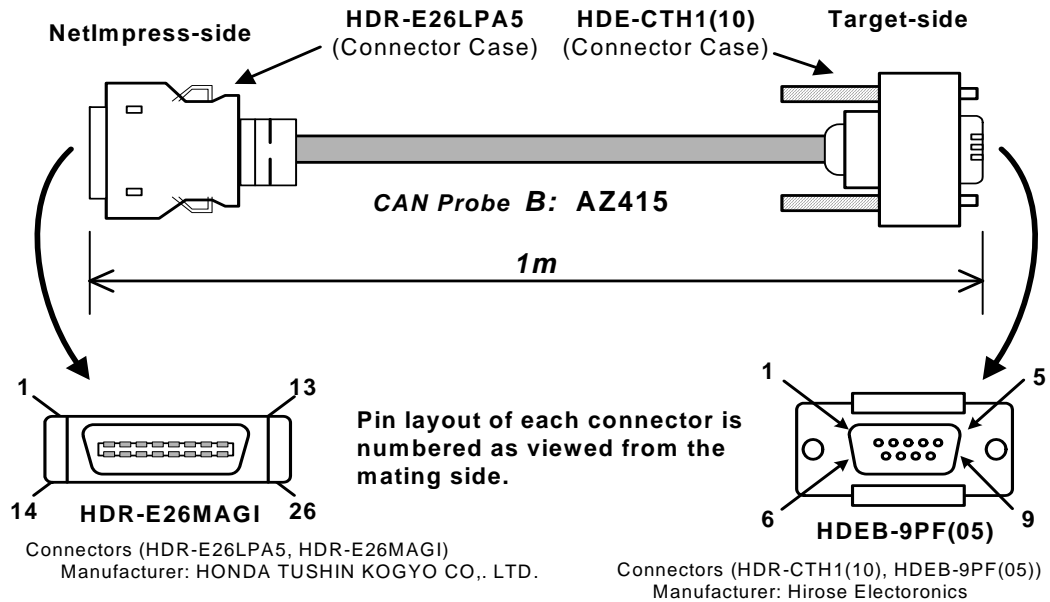
\*2 \_low = Low Speed CAN

Full 26 pin-to-pin wired.

## 8.7.5. CAN インターフェース・ケーブル (AZ415)

### High speed CAN 専用プローブです。

ターゲット・ボード上に D-Sub 9 Pin(メス)のコネクタを実装していただく場合に使用します。



### AZ415配線表

**AZ415 : NetImpress-side  
Standard Signal Pin Assign**

Pin No.	NetImpress Standard Signal Name
1	GND
2	/TRES
3	Reserved
4	TTxD
5	TRxD
6	Reserved
7	Reserved
8	TAUX
9	TAUX3
10	/TICS
11	CANH_high *1
12	CANH_low *2
13	Reserved
14	TCK
15	TRES
16	TVccs
17	Reserved
18	Reserved
19	WDT
20	TBUSY
21	TAUX2
22	TAUX4
23	TMODE
24	CANL_high *1
25	CANL_low *2
26	GND

**AZ415 : Target-side  
Standard Signal Pin Assign**

Pin No.	NetImpress Standard Signal Name
1	TVccs
2	CANL_high *1
3	GND
4	Reserved
5	Reserved
6	TIO
7	CANH_high *1
8	TMODE
9	Reserved

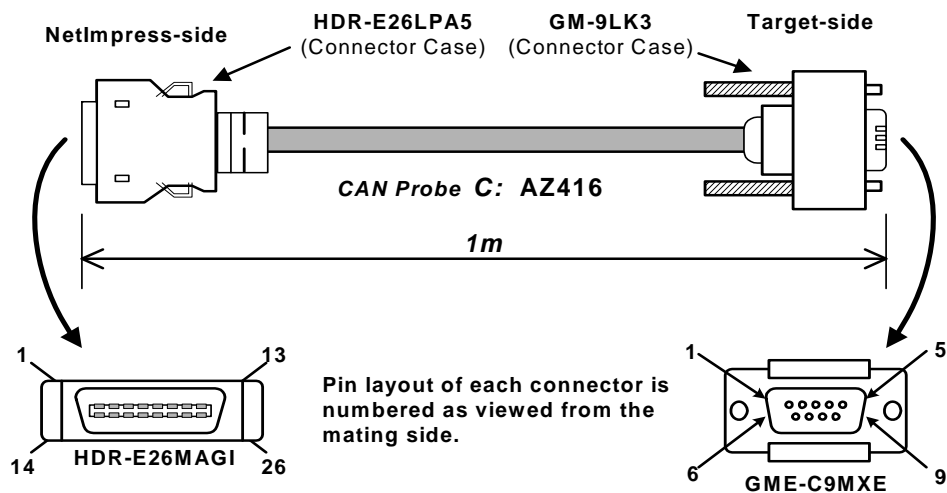
\*1 \_high = High Speed CAN

\*2 \_low = Low Speed CAN

## 8.7.6. CAN インターフェース・ケーブル (AZ416)

**Low speed CAN 専用プローブです。**

ターゲット・ボード上に D-Sub 9 Pin(メス)のコネクタを実装していただく場合に使用します。



\*Connectors

Manufacturer: HONDA TUSHIN KOGYO CO., LTD.

### AZ416配線表

**AZ416 : NetImpress-side  
Standard Signal Pin Assign**

Pin No.	NetImpress Standard Signal Name
1	GND
2	/TRES
3	Reserved
4	TTxD
5	TRxD
6	Reserved
7	Reserved
8	TAUX
9	TAUX3
10	/TICS
11	CANH_high *1
12	CANH_low *2
13	Reserved
14	TCK
15	TRES
16	TVccs
17	Reserved
18	Reserved
19	WDT
20	TBUSY
21	TAUX2
22	TAUX4
23	TMODE
24	CANL_high *1
25	CANL_low *2
26	GND

**AZ416 : Target-side  
Standard Signal Pin Assign**

Pin No.	NetImpress Standard Signal Name
1	TVccs
2	CANL_low *2
3	GND
4	Reserved
5	Reserved
6	TIO
7	CANH_low *2
8	TMODE
9	Reserved

\*1 \_high = High Speed CAN

\*2 \_low = Low Speed CAN



## APPENDIX エラーコード一覧表

エラーNo.	エラーメッセージ	内容	対応
1001	SYSTEM PROGRAM ROM ERR	NETIMPRESS 本体不良	弊社サポートセンターへ連絡下さい。
1002	NO LICENCE	ライセンスがない	ライセンスを購入する必要があります。
1003	GROUP CODE ERR	グループコードが違う	コントロールモジュールにあったパラメータを使用して下さい。
1004	CM FILE NOT FOUND	CM ファイルが存在しない	コントロールモジュールをコンパクトフラッシュに格納して下さい。
1005	MORE 2 CM FILES	CM ファイルが2 つ以上存在する	コンパクトフラッシュに格納するコントロールモジュールを1つにして下さい。
1006	COM ID VER UNEXPECTED ERR	共通部のバージョンが古い	弊社サポートセンターへ連絡下さい。
1007	CM ID VER UNEXPECTED ERR	固有部のバージョンが古い	弊社サポートセンターへ連絡下さい。
1008	FUNCTION NOT SUPPORT	サポートしていないファンクション	指定されたファンクションに機能は、割りついておりません。
1009	DEVICE FUNCTION NOT SUPPORT	サポートしていないデバイスファンクション	指定されたファンクションに機能は、割りついておりません。
1010	HPARAM CONST ERR	ハードウェアパラメータを構築できない	弊社サポートセンターへ連絡下さい。
1015	PARAMETER ERR xxxx	ソフトウェアパラメータが壊れている	パラメータが破壊しているため、パラメータをダウンロードし直して下さい。
1016	ADDRESS WARNING	FUNC-0、FUNC-F5 のアドレスが FUNC-D6 と違う	
1020	S FILE FORMAT ERR	S フォーマットエラー	オブジェクトファイルが破壊されています。オブジェクトファイルを確認して下さい。
1021	HEX FILE FORMAT ERR	HEX フォーマットエラー	
1022	FORMAT ERR (REC TYPE)	レコードタイプエラー	
1023	FORMAT ERR (ADDRESS)	アドレスフィールドエラー	
1024	FORMAT ERR (CHECK SUM)	チェックサムエラー	
1025	FORMAT ERR (CRLF)	改行コードエラー	
1026	FORMAT ERR (SIZE)	レコードサイズエラー	
1027	FORMAT ERR (S5)	S5 レコードチェックエラー	
1028	FORMAT ERR (ASCII)	バイナリ変換できないデータエラー	
1029	DATA FORMAT ERR	通信データフォーマットエラー	通信異常が発生した為、通信経路をご確認下さい
102A	CM FORMAT ERR	CM ファイルフォーマットエラー	コントロールモジュールが破壊しているため、コントロールモジュールをダウンロードして下さい。
102B	ADDRESS WARNING	FLASH-ROM アドレス以外のデータを認識	ターゲットフラッシュROM以外に割り当てられるデータをダウンロードした場合に出力されます。本出力を切りたい場合にはFUNC-9Eで切ることができます。
1030	FROM PARAMETER ERR	ライター内部 FLASH-ROM アクセス時のパラメータエラー	弊社サポートセンターへ連絡下さい。
1031	FROM HARDWARE ERASE ERR	ライター内部 FLASH-ROM 消去エラー	
1032	FROM SOFTWARE ERASE ERR	ライター内部 FLASH-ROM ブランクチェックエラー	
1033	FROM HARDWARE PROGRAM ERR	ライター内部 FLASH-ROM 書込エラー	
1034	FROM SOFTWARE PROGRAM ERR	ライター内部 FLASH-ROM ベリファイエラー	
1035	FROM DATA ERR	ライター内部 FLASH-ROM 書込時の初期データエラー	

エラーNo.	エラーメッセージ	内容	対応
1041	PCIC WRITE CMD TIMEOUT	CF への書込エラー	コンパクトフラッシュが破壊されている恐れがあります。弊社サポートセンターへ連絡下さい。
1042	PCIC WRITE STAT TIMEOUT		
1043	PCIC WRITE BAD ERR		
1044	PCIC WRITE SECTER ERR		
1045	PCIC WRITE ERR		
1046	PCIC WRITE ECC ERR		
1047	PCIC CMD ABORT		
1048	PCIC WRITE NORMAL ERR		
1049	PCIC WRITE UNKNOWN ERR		
104A	PCIC READ CMD TIMEOUT	CF からの読出エラー	
104B	PCIC READ STAT TIMEOUT		
104C	PCIC READ BAD ERR		
104D	PCIC READ SECTER ERR		
104E	PCIC READ ECC ERR		
104F	PCIC READ CMD ERR		
1050	PCIC READ NORMAL ERR		
1051	PCIC READ UNKNOWN ERR		
1060	FILE SYSTEM ERR (MBR)	コンパクトフラッシュのファイルシステムエラー	
1061	FILE SYSTEM ERR (PREG)		ネットワークパスの使用は禁止しています。
1062	FILE SYSTEM ERR (PBR)		ファイル、フォルダ名を短くして下さい。
1063	ILLEGAL FILE SYSTEM		ショートファイル名をこれ以上作成できません。
1064	FILE SYSTEM ERR (FAT CNT)		ルートの空領域が不足しています。ルートのファイルまたはフォルダを削除して下さい。
1065	UNC ERR		コンパクトフラッシュのデータ空領域が不足しています。ファイルまたはフォルダを削除して下さい。
1066	FULL PATH ERR		コンパクトフラッシュのファイルシステムが破壊されています。コンパクトフラッシュをFATでフォーマットして下さい。
1067	PATH LENGTH ERR		指定されたファイルはリードオンリーの為、エラー出力しています。ファイル指定を変更するか、指定されたファイルのファイル属性を変更して下さい。
1068	SHORT NAME ERR		指定されたファイルが見つからない為にエラー出力しています。ファイル指定を変更するか、指定されたファイルを格納して下さい。
1069	CF DISK FULL (DIR)		指定されたファイルは既に存在する為にエラー出力しています。ファイル指定を変更するか、指定されたファイルを削除して下さい。
106A	CF DISK FULL (DAT)		
106D	DOS FILE SIZE ERR		
106E	FILE SYSTEM ERR (FAT)		
1070	FILE READ ONLY ERR	リードオンリーのファイルへライトアクセスしました	指定されたファイルはリードオンリーの為、エラー出力しています。ファイル指定を変更するか、指定されたファイルのファイル属性を変更して下さい。
1072	FILE NOT EXIST	ファイルが見つからない	指定されたファイルが見つからない為にエラー出力しています。ファイル指定を変更するか、指定されたファイルを格納して下さい。
1073	FILE EXIST	既にファイルが存在する	指定されたファイルは既に存在する為にエラー出力しています。ファイル指定を変更するか、指定されたファイルを削除して下さい。

エラーNo.	エラーメッセージ	内容	対応
1074	FOLDER NOT EXIST	フォルダが見つからない	指定されたフォルダが見つからない為にエラー出力しています。 フォルダ指定を変更するか、指定されたフォルダを格納して下さい。
1075	FOLDER EXIST	既にフォルダが存在する	指定されたフォルダは既に存在する為にエラー出力しています。 フォルダ指定を変更するか、指定されたフォルダを削除して下さい。
1090	YSM CHECK ERR	YSM チェックサムエラー	YSMのサムデータ、バッファのサム値の確認をお願いいたします。
1091	YSM CHECK ERR	YSM チェックバッファエラー	YSMのバッファデータ、バッファのデータの確認をお願いいたします。
1092	YSM FILE FORMAT ERR	YSM ファイルフォーマットエラー	YSMファイルフォーマットを確認して下さい。
1093	YSM NOT FOUND	YSM ファイルが存在する	YSMファイルを格納して下さい。
10A0	ETHER SEND CUT ERR	ETHER 送信時に回線切断	ETHERNET回線を確認して下さい。
10A1	ETHER SEND TIMEOUT	ETHER 送信時にタイムアウト	
10A2	ETHER RECV CUT ERR	ETHER 受信時に回線切断	
10A3	ETHER RECV TIMEOUT	ETHER 受信時にタイムアウト	
10A4	ETHER ERR	ETHER 通信ができない状態にある	
10A5	NEXT COMMAND NOT RECV	ETHER 通信に異常	
10B0	COM OUT ERR	RS232C 送信エラー	RS232C回線を確認して下さい。
10B1	COM IN ERR	RS232C 受信エラー	
10C0	DEVICE SEND TIMEOUT xx	ターゲット通信送信タイムアウト	ターゲットとの通信エラーが発生しました。 ターゲットとの接続、パラメータ設定をご確認下さい。
10C1	DEVICE RECV TIMEOUT xx	ターゲット通信受信タイムアウト	
10C2	DEVICE OVERRUN ERR xx	ターゲット通信受信オーバーラン	
10C3	DEVICE FRAMING ERR xx	ターゲット通信フレミングエラー	
10C4	DEVICE PARITY ERR xx	ターゲット通信パリティエラー	
10D0	CSB NOT FOUND	CSB ファイルが見つからない	CSBファイルを格納して下さい。
10D1	MORE 2 CSB FILES	CSB ファイルが 2 つ以上存在する	CSBファイルを削除し、1つにして下さい。
10D2	CSB FILE FORMAT ERR xxx	CSB ファイルフォーマットエラー	CSBファイルフォーマットをご確認ください。
10D3	FUNCTION DATA ERR	CSB、YMNファンクションパラメータエラー	CSB、YMNのファンクションパラメータをご確認下さい。
10D4	YMN FILE FORMAT ERR	YMN ファイルフォーマットエラー	YMNファイルフォーマットをご確認ください。
10D5	YMN NOT REGIST	YMN ファイル未定義エラー	FUNC-DC で実行する YMN ファイルを設定して下さい。
10E0	TSIG VPP SETUP ERR	TVPP セットアップエラー	TVPPが校正されていない為、TVPPを印加できません。 弊社サポートセンターへ連絡下さい。
1100	DEVICE CLEN ERR	過電流検出	ターゲットとショートしている可能性がありますので、ターゲットとの接続をご確認下さい。
1101	TVCC TOO LOW	ターゲット電圧が低い	TVCCにターゲット電源を接続する必要があります。
1102	TVCC TOO HIGH	ターゲット電圧が高い	ターゲット電源を切る必要があります。
1103	TVPP1 TOO LOW	TVPP1 電圧が低い	TVPPの接続をご確認ください。
1104	TVPP2 TOO LOW	TVPP2 電圧が低い	
1105	TVPP1 TOO HIGH	TVPP1 電圧が高い	
1106	TVPP2 TOO HIGH	TVPP2 電圧が高い	
1107	DEVICE TRXD LOW ERR xx	UART 通信を開始しようとした時にTRXD が"Low"出力している	ターゲットが動作モードに遷移できていない可能性があります。ターゲットとの接続をご確認下さい。
1108	DEVICE INITIALIZE COM ERR	初期通信エラー	

エラーNo.	エラーメッセージ	内容	対応
1109	DEVICE ERR xx	デバイスエラー	ターゲットマイコンから異常応答を受信しました。ターゲットをご確認下さい。
110A	DEVICE SCI SUM ERR xx	SCI 通信サムエラー	ターゲットとの通信接続をご確認下さい。
110B	DEVICE ILLEGAL REPLY xx	SCI 通信で予期しないデータを受信	
110C	SUM VERIFY ERR xx	サムバリファイエラー	
110E	BTP NOT FOUND	BTP ファイルが見つからない	BTPファイルを格納して下さい。
110F	MORE 2 BTP FILES	BTP ファイルが2つ以上存在する	BTPを削除し、BTPを1つにして下さい。
1110	BTP FORMAT ERR	BTP ファイルフォーマットエラー	BTPファイルフォーマットをご確認下さい。
1111	KEY NOT FOUND	KEY ファイルが見つからない	KEYファイルを格納して下さい。
1112	MORE 2 KEY FILES	KEY ファイルが2つ以上存在する	KEYを削除し、KEYを1つにして下さい。
1113	KEY FORMAT ERR	KEY ファイルフォーマットエラー	KEYファイルフォーマットをご確認下さい。
1114	KEY ERR	KEY エラー	
1120-113F	xxxxx	固有部定義のエラー	コントロールモジュールのマニュアルを参照して下さい。
1150	YIM MAX	YIMフォルダをこれ以上作成できない	
1151	YIM PROTECTED	YIMフォルダにプロテクトがかかっている	
1160	YLC NOT FOUND	YLC ファイルが見つからない	弊社サポートセンターへ連絡下さい。
1161	MORE 2 YLC FILES	YLC ファイルが2つ以上存在する	
1162	YLC FORMAT ERR	YLC ファイルフォーマットエラー	
1170	YCM FORMAT ERR	YCM ファイルフォーマットエラー	YCM ファイルをご確認下さい。
1180	YIM NOT REGIST	YIM 未定義エラー	YIM フォルダを設定して下さい。
1181	CM NOT REGIST	コントロールモジュール未定義エラー	コントロールモジュールをダウンロードして下さい。
1182	BUF NOT REGIST	バッファメモリ未定義エラー	DOS 領域の空き領域サイズを十分に確保しライタ起動して下さい。

## ● NETIMPRESS next より追加されたエラーコード一覧

エラーNo.	エラーメッセージ	内容	対応
1A00	SCRIPT FILE NOT (START)	スクリプトファイルチェックエラー： 実行しようとしたスクリプトファイルに (START)の行がない	実行したスクリプトファイルをご確認下さい。
1A01	SCRIPT FILE ERR LINE XXXX	スクリプトファイルチェックエラー： 実行しようとしたスクリプトファイルの XXXX 行に仕様外の記述がある	実行したスクリプトファイルをご確認下さい。
1A02	SCRIPT FILE FORMAT ERR	スクリプトファイルチェックエラー： 実行しようとしたスクリプトファイルに (END)の行がない	実行したスクリプトファイルをご確認下さい。
1A03	SCRIPT EMPTY	スクリプトファイルチェックエラー： 実行しようとしたスクリプトファイルに (START)～(END)までに 実行するコマンドない	実行したスクリプトファイルをご確認下さい。
1A04	SCRIPT DI TIMEOUT	スクリプトファイル実行中エラー： スクリプトの INPUT の行にあるタイムアウト 時間内に指定した入力信号の ON/OFF が検知できない	エラーが発生したスクリプトファイルの行と、 お客様の環境の両方をご確認下さい。
1A05	SCRIPT FILE NOT FOUND	スクリプトファイル検索エラー： バーコード、または Digital 入力で指定したスクリ プトファイルが見つからない	対象とするスクリプトファイルと、バーコードまたは Digital 入力で指定した情報が一致しているか ご確認下さい。
1A06	DIO CLEN ERR	Digital I/O 出力時に過電流を検出しました	ライタの Digital I/O と接続しているお客様の DI/O ユニットの結線をご確認下さい。
1A10	RTC DATA FORMAT ERR	NETIMPRESS next 内蔵の RTC への 設定で異常な設定値を検知しました	設定した値が仕様範囲内の時間であることを確認 して下さい
1A20	BCR RECV TIMEOUT	バーコード受信中にタイムアウトが発生	バーコードリーダの SUFFIX の設定が正しく 行えていることをご確認下さい。 YBO ファイルで SUFFIX を指定している場合 は、SUFFIX に指定した文字及びお客様の バーコードデータをご確認下さい。
1A21	BCR DATA FORMAT ERR	バーコードデータのフォーマットが異常	お客様で作成されたバーコードデータをご確認 下さい。 また、バーコードオプションファイル(YBO)の 指定が間違いないかご確認下さい。
1A23	BCR YBOFILE_FORMAT_ERR	バーコードオプションファイル(YBO)の フォーマットエラー	YBO ファイルをご確認下さい。
1A24	MORE 2 YBO FILES	バーコードオプションファイル(YBO)が 2 個以上あります	YBO ファイルはコンパクトフラッシュのルートに一つだけ 置くようにして下さい。
1A25	BCR RECV OVER	バーコードデータの受信データバッファオーバー エラー	バーコードデータは 2048byte 以下で指定して 下さい。
1A26	MORE 1 YBO FILE	YBO ファイルが既にある場合に、別の YBO ファイルをロードした場合のエラー	YBO ファイルはコンパクトフラッシュのルートに一つだけ 置くようにして下さい。
1A27	BCR CLEN ERR	バーコード接続 過電流エラー	AZ402 と接続されている機器の状態をご確認下 さい
1A29-1A2C	BCR ILLEGAL DATA(XXXX)	受信したバーコードの解析中のエラー	お客様で作成されたバーコードデータをご確認 下さい。 また、バーコードオプションファイル(YBO)の 指定が間違いないかご確認下さい。